

三分二等ヲ請求スルヲ得ヘシ（同上第四項）、

ホ發航後ニ契約ヲ解除スルニハ法律上備船者ハ左ノ如キ諸種ノ義務ヲ果サ、ルヘカラス（同第六〇〇條）、尤モ是レ強制的規定ニ非サルヲ以テ、當事者間ニ於テ之ニ異ナル特別ノ契約ヲ結フハ隨意ナリ、

- 一、運送貨ノ全額ヲ支拂フ事
- 二、運送契約（即チ備船契約）又ハ船荷証券ノ趣意ニ從ヒ前示運送貨ノ外、附隨ノ費用、立替金及運送品ノ價格ニ應スル共同海損又ハ海難救助費ヲ辨濟スル事
- 三、運送品陸揚ノ爲ニ生スヘキ損害ヲ賠償スル事
- 四、備船者ノ都合ニ依リ前示一、二、三、ノ支拂金ヲ爲サ、ルトキハ之ニ相當スル擔保ヲ供スヘ事

（運送契約ヲ結ヒタル後法令ノ改正若クハ新設ニ依リ航海又ハ運送ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ（例ヘハ目的地ノ貿易禁止セラル、カ或ハ到達港封鎖セラル、カ）其他不可抗力ノ爲メ契約ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ、各當事者ハ任意ニ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘキハ當然ニシテ、期ル事由カ船舶ノ發航後ニ生シタル爲メ契約ヲ解除シタルトキハ、備船者又ハ荷送人ハ運送ノ割合ニ應シテ運送貨ヲ支拂ハ

サルヘカラス、是レ亦運送契約ハ請負ノ一種ナルヨリ來ル自然ノ結果ナリトス（同第六一四條）、

然ルニ前示ノ事由カ運送品ノ一部ニ付テ生シタル場合（即チ運送品ノ一部ノミ法令違反又ハ不可抗力ノ爲メ運送スルコト能ハサル場合）、又ハ運送品ノ一部ノミ不可抗力ノ爲メ滅失シタル場合ニ於テハ、備船者ハ船主ノ負担ヲ増加セシメサル限り、相當ノ期間内ニ他ノ運送品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ヘシト雖モ（但シ荷送人ハ然ラス）、若シ備船者又ハ荷送人カ此際契約ヲ解除シタルトキハ當然運送貨ノ全額ヲ仕拂ハサルヘカラス（同第六一六條）、

ト一部備船者（即チ船舶ノ一部ニ付テ運送契約ヲ結ヒタル者）又ハ荷送人カ、他ノ備船者及荷送人ト共同セスニ發航前ニ契約ヲ解除シタルトキハ、其ノ約定運送貨ノ全額ヲ支拂フヘシ、但シ船主カ他人ノ物品ヲ運送シタルトキハ、是ヨリ得タル運送貨ハ勿論差引クヘキモノトス（同第六〇一條及第六〇三條）、

チ然ルニ一部備船者又ハ荷送人カ其ノ運送品ノ全部又ハ一部ヲ既ニ船積シタル上



ハ、仮令發航前ニセヨ他ノ備船者及荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ、契約ヲ解除スルコトヲ得サルモノトス（同上）、

(六)運送契約ノ終了ト運送賃

備船契約ノ場合又ハ個々ノ物品ヲ運送スル場合ヲ問ハス、左ノ如キ事由ヲ生シタルトキハ、運送契約ハ自然終了スルモノニシテ各當事者間ニ復タ何等ノ權利義務ヲ存セスト雖モ、第一號ニ示セル事變カ航海中即チ一旦發航シタル後ニ生シタルトキハ、備船者又ハ荷送人ハ運送ノ割合ニ應シ、運送品ノ價格以內ニ於テ運送賃ヲ支拂ハサルヘカラス、是レ亦請負契約當然ノ結果トシテ仕事ノ結果ニ對シ相當ノ報酬ヲ與フル所以ナリ（同第六一三條）、

- 一、船舶カ沈没スルカ、修繕スルコト能ハサルニ至ルカ又ハ捕獲セラレタルトキ
- 二、運送品カ不可抗力ニ依リ滅失シタルトキ

第四 船荷証券(Bill of Lading)ノ發行者及記載事項

船長又ハ船主ノ委任ニ依リ之ニ代ハル者(重ナル汽船會社支店長ノ如キ)ハ、備船者

又ハ荷送人ノ請求アレハ、運送品ノ船積ヲ終リタル後、速ニ一通又ハ其ノ以上ノ船荷証券(英國ノ如キハ三通ヲ作リ内一通ヲ船長ノ印(Captain's Seal)トシテ其ノ手許ニ保存スルヲ例トス)ヲ作成シテ之ヲ交附スヘシ、該証券ニハ左ニ列記スル事項ヲ記載シ、船長又ハ之ニ代ハル者自ラ署名スヘキモノニシテ、一旦之ニ署名シタル上ハ其ノ証券ニ記載シタル各事項ノ正確ナル事ニ付テ飽迄責任ヲ負ハサルヘカラサルヲ以テ、發行者ハ署名ニ先タテ証券ノ正確ナルヤ否ヤ、又愈運送品ヲ荷受人ニ引渡ス前ニ証券中ニ記載スル各事項ノ具備スルヤ否ヤヲ注意監視スルヲ要ス、而シテ備船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求アレハ、船荷証券ノ謄本ニ署名シテ交附スルノ義務アリ、是レ相互ニ証券ヲ取替ハス所以ニシテ、運送賃其他ノ請求ヲ爲ス場合ニ便益アルヤ知ルヘキナリ（商法第六二〇乃至第六二三條）、

- 一、船舶ノ名稱及國籍
- 二、船長ノ氏名(但シ船長カ船荷証券ヲ作ラサルトキ)
- 三、運送品ノ種類、重量(若クハ容積)及其ノ荷造ノ種類、個數、記號  
(註)船積ノ前運送品ニ故障アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ次第ヲ摘要欄内ニ明記スルヲ要ス
- 四、備船者又ハ荷送人ノ氏名(若クハ商號)
- 五、荷受人ノ氏名(若クハ商號)又ハ証券ノ所持人ニ運送品ヲ引渡スヘキコト



(註)前段ハ指圖式、後段ハ無記名式ニテ何レニテモ便宜ニ任ス

- 六、船積港
- 七、陸揚港(但シ船舶ノ發航後備船者又ハ荷送人カ陸揚港ヲ指定スヘキトキ)
- 八、運送貨
- 九、交附シタル船荷証券ノ數
- 十、船荷証券ノ作成地及作成ノ年月日

(備考)

船荷証券ヲ發行スル船長又ハ之ニ代ハル者ハ、通例贖本一通ヲ作リ荷送人ノ署名ヲ受ケタル上貨物ノ陸揚地ニ之ヲ送付スルコトハ、内外一般ノ慣習ナレトモ、内國諸港間ヲ運送スル貨物ニ對シテ發行スル邦文ノ船荷証券ニ付テハ、(一)荷送人ニシテ該証券ノ條件ニ對シ異議アルトキ、(二)荷掛金高ノ過大ナルトキ、(三)其他荷送人カ証券ノ條件ヲ承諾シタルコトヲ証セシメ置クヘキ必要アルトキノ外ハ、必スシモ之カ贖本ヲ作ルヲ要セス、然レトモ右三項ノ場合ニ於テハ、貨物ニ故障ヲ生シタルトキ荷受人トノ間ニ苦情ヲ惹起スノ虞アルヘキヲ以テ、他日ノ証左ニ供スル爲メ必ス贖本ヲ作リテ荷送人ノ署名ヲ受ケ、且ツ証券正本ノ摘要欄内ニ贖本作成ノ旨ヲ記入スルコト至當ナリトス、

船荷証券ニハ通シ船荷証券(Through Bill of Lading)及赤色船荷証券(Red Bill of Lading)ノ如キ特別ノ種類アリ、前者ハ通例海送ト陸送トヲ兼ヌルモノニシテ、汽船會社ト鐵道會社ノ聯絡ヨリ成リ、其實船荷証券ト貨物引換證(Railway acknowledgement)トヲ合併シタル効力ヲ有ス(又甲乙ノ汽船會社間ヲ聯、該証券ノ記載事項ハ普通ノ船荷証券ト大同小異ナルヲ以テ)

レトモ、海陸ノ運送ヲ兼ヌルモノニ於テハ勿論鐵道ニ關スル事項ヲ加フヘシ、又後者ノ赤色船荷証券ハ赤字ヲ以テ印刷スルカ故ニ此稱アリ、主トシテ清韓方面ニ行ハル、モノニシテ、本ト船荷証券ト保險證券トヲ合併シタルモノナルニ由リ、普通ノ事項ノ外、貨物ノ保險價格、保險料等保險ニ關スル要件ヲ記載シ、清商ノ最モ好ム所ニシテ支那招商局、印度支那汽船會社、露國義勇艦隊ノ如キ盛ニ之ヲ發行シ、我カ郵船會社ニ於テモ清商ノ依頼ニ應シ時ニ發行スト云フ、其他英ノ「ビヤノ」、佛ノ「エムエム」會社ノ如キモ、其ノ發行スル船荷証券中ニ小口ノ貨物ニ限り、荷送人ノ請求アレハ保險ヲ引請クヘキ個條アリ、

### 第五 船荷証券ノ効力

船荷証券ハ運送ノ爲メ船積シタル貨物ニ對スル一種ノ受取證券ニシテ、同時ニ亦運送契約書ノ性質ヲ有シ、本ト積荷ノ融通ヲ目的ト爲シ發行シタルモノナルヲ以テ、手形其他ノ商業證券ト均ク裏書ニ依リ轉讓讓渡シ得ヘキノミナラス、陸上運送ニ於ケル貨物引換書ト同ク、其ノ裏書ニ依リ之ヲ讓渡ストキハ、運送品其物ノ讓渡トシテ所有權ヲ移轉スルノ効力ヲ生スヘシ、例ヘハ貨物運送中其ノ船荷証券ヲ荷送人ヨリ甲ニ發送シ甲ヨリ



乙ニ其ノ證券ヲ讓渡シタルトキハ、乙ハ直ニ其ノ貨物所有權ヲ取得シ、之ト同時ニ讓渡人タル甲ハ其權ヲ失フニ至ルモノトス、其他船主又ハ船長ト傭船者、荷受人又ハ船荷證券所持人トノ關係ハ、全ク該證券ニ記載スル事項ニ依テ決定スヘキモノニシテ、運送品引渡ノ場合ニ於テハ其ノ種類數量等一ニ證券ニ從テ引渡サ、ルヘカサルハ勿論、運送賃ノ定額并ニ支拂ノ濟否ノ如キ蓋シ運送ニ關スル一切ノ事項ニ付テ、商法其他法令ニ定ムル強制的規定ニ反セサル限り、確乎動カスヘカラサル判斷者タルヘシ（商法第三三四及第三三五條準用）、

### 第六 船荷證券ト運送品トノ引換

(一) 運送品ヲ引渡スニハ須ク船荷證券ト引換ニスヘキモノニシテ、船荷證券ノ指示スル陸揚港ニ於テ、其中ニ記載スル個條ニ從ヒ其中ニ指定スル荷受人又ハ證券所持人ニ之ヲ引渡スヘシ、且ツ引渡ノ際船主又ハ船長ハ荷受人又ハ證券所持人ヲシテ、運送品ノ引渡ヲ引受ケタル旨ヲ證券中ニ記入署名セシメ、以テ引渡ヲ濟マシタル證據ト爲スノ例ナリ（同第四八三條準用）、

(二) 又前文ニ述ヘタル如ク傭船者又ハ荷送人ノ請求ニ依リ數通ノ船荷證券ヲ交附シタル場合ニ於テハ、如何ニシテ運送品ヲ引渡スヘキヤト云フニ、陸揚港ニ到達シタル上ナラハ、數通ノ證券中ノ唯一通ノ所持人ヨリ請求アレハ之ニ應シ引渡サ、ルヘカラサレトモ、陸揚港以外ニ在リテハ、證券各通ノ返還ヲ受ケタル後ニ非サレハ運送品ヲ引渡スヘカラス、若シ又二人以上ノ證券所持人ヨリ運送品ノ引渡ヲ請求セラレタルトキハ、船長ハ孰レノ所持人カ正當ナル荷受人ナルヤ知リ難キヲ以テ、輕卒ニ其ノ一人ニ引渡スコトヲ爲サス、遲滯ナク運送品ヲ陸上ノ倉庫營業者ニ供託シ其旨ヲ右所持人等ニ通知スヘシ、而シテ前示陸揚港ニ於テ一ノ所持人ノ請求ニ應シ運送品ノ一部ヲ引渡シ他ノ部分ノ引渡ヲ了セサル際、更ニ他ノ所持人ヨリ請求セラレタルトキハ、右ノ如ク供託且ツ通知ノ手續ヲ爲スヘシ（同第六二四條乃至第六二六條）、

(三) 三次ニ二人以上ノ證券所持人アル場合ニ於テ、該所持人相互間ノ關係ヲ考フルニ、  
 (イ) 其内ノ一人ナル甲カ、他ノ所持人乙丙等ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケ



タルトキハ、既ニ船荷證券ノ目的ヲ果シタルコトナレハ乙丙等ノ船荷證券ハ當然効力ヲ失フモノトス、而シテ此ノ場合ニ乙丙等カ自己ノ所持スル證券ノ無効ニ歸スル爲メ損失ヲ被ルコトアルトキハ、如何ニシテ救済スヘキヤト云フニ、是レ場合ニ依リ異ナルヘキモ、一例ヲ示セハ讓受ケタル證券所持人ハ讓渡人ニ對シ損害賠償ヲ請求シ得ヘク、又早ク引渡ヲ受ケタル者カ不當ノ引渡方ニ依リタルトキハ、其者ニ對シ更ニ運送品ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（同第六二七條）、  
 (ロ) 若シ又船長カ未タ運送品ノ引渡ヲ爲サ、ルトキハ、原所持人ヨリ最初ニ發送シ若クハ引渡シタル證券ヲ所持スル者優先權ヲ有シ、他ノ所持人ニ先チテ運送品ノ引渡ヲ受クヘキモノトス（同第六二八條）、

### 第七 貨物受渡手續ノ大要

貨物ニ對スル船長ノ責任ハ、船積港ニ於テ貨物ヲ受取ルト同時ニ始マリ、陸揚港ニ至テ之ヲ引渡スト同時ニ終ハルヲ原則トスレトモ、貨物ノ受渡ハ或ハ陸上ニ於テスル場合アリ、或ハ本船ノ舷側ニ於テスル場合アリ、畢竟其地ノ習慣ニ從テ責任終始ノ時ヲ決ス

ルモノト知ルヘシ、而シテ貨物ノ受渡、積付等ニ付テハ船長監督ノ下ニ一等運轉士主トシテ之ニ當ルハ内外國ノ慣例ナリ、

船長一タヒ貨物ヲ受取リタルトキハ、適當ニ之ヲ積付ケ陸揚港マテ安全ニ運送スヘキ義務アルヲ以テ、先ツ本船ノ壓艙物、艙内ノ荷敷板、船積機械等ノ整備ニ注意シ、貨物受取ノ用意全ク整フニ至レハ備船者又ハ荷送人ニ其旨ヲ通知スヘシ（重ナル汽船會社ニ於テハ支店又ハ代理店ヨリ通、本船ノ用意整頓次第其地知セシムルノ常ナリ）、尋テ備船者又ハ荷送人ヨリ直接又ハ間接ニ運送スヘキ貨物ヲ本船ニ送致シ愈、船積ニ着手スルニ至レハ、該貨物ト共ニ送付セラル、船積差圖書（Shipping Order）又ハ船積解送書（Shipping Boat Note）（支店又ハ代理店ヨリ發行シタルモノ）ニ照ラシテ、貨物ノ個數、記號、荷造ノ模様、損傷ノ有無等ヲ検査シ、若シ故障アルトキハ其旨ヲ右差圖書ノ摘要欄内ニ明記シ他日ノ証左ニ供スヘシ、已ニシテ船積ヲ終ハレハ一等運轉士ハ船積差圖書ニ據テ積荷受取書（Mate's receipt）ヲ作り、貨物ヲ送致シタル者ニ交附シ、更ニ船長又ハ之ニ代ハル者（支店長ノ如キ）ハ此ノ受取書ニ對シテ法定ノ船荷証券ヲ作成シ、該受取書ト引換ニ之ヲ備船者又ハ荷送人ニ交附シ其ノ謄本一通ヲ本船ニ備



へ置クヘシ、

斯クテ船積ヲ完了スルモ其ノ積付方 (Stowage) ノ當否ニ付キ、船長ハ責任ヲ免ルルカラサルモノニシテ、自己又ハ部下ノ海員 (一等連轉士ヲ首トシ) ニシテ過失、懈怠ノ廉アリ爲ニ積荷ニ損害ヲ生シタルトキハ、固ヨリ賠償ノ責ヲ免ルヘカラス、而シテ船舶愈航海ノ途ニ上リ陸揚港ニ安全到着シタルキハ、遲滞ナク陸揚ノ用意ヲ整ヘ、貨物ヲ荷受人ニ直接引渡スヘキ場合ニハ船荷證券ト引換ニシ、且ッ荷受人ヲシテ證券ノ裏面ニ其ノ年月日ヲ記入シ署名セシムヘキモ、若シ支店又ハ代理店ノ手ヲ經テ引渡スヘキ場合ニハ、陸揚解送書 (Landing Boat Note) ヲ作り之ヲ貨物受取人ニ交附シ、其ノ副書ニ署名セシメ船内ニ保存スルヲ必要トス、

## 第八 貨物ノ積付 (Stowage)

### (一) 積付ノ要義

貨物ノ積付ハ一種ノ技術ニ屬スルモノニシテ特別ノ智識ト經驗トヲ要ス、若シ積付方其當ヲ得サルトキハ積荷ノ損傷ヲ生スルハ勿論、或ハ途中ニ貨物ノ繰返ヲ要スル爲

メ時日ト勞銀ヲ徒費スヘキノミナラス、時トシテ船体ノ安危ニモ關スルコトアルヘシ、而シテ積付ニ於テ主眼トスヘキ要義三アリ、即チ(一)航海安全ニシテ船舶ノ載貨量ト船積スヘキ貨物トノ釣合、壓艙物ト喫水トノ關係及貨物ノ配合ト復元力トノ關係ニ注意スヘキ事、(二)積荷ノ安全ニシテ貨幣、有價證券等ノ如キ盜難ノ虞多キ貴重品ハ之ヲ金庫又ハ特別室ニ積入レ、茶、珈琲ノ如キ外氣ノ感應ヲ受ケ易キモノハ必ス艙内ニ積入レ、又油、劇藥、酸類ノ如キ他ニ損害ヲ加フル憂アルモノハ之ヲ甲板積ニ爲スヘキ事、(三)陸揚又ハ接續(積換)ノ便利ヲ圖リ豫メ陸揚地又ハ接續地ノ前後ニ照ラシテ貨物ヲ手配シ時ニ臨テ混雜ヲ生セサル様心懸クヘキ事はナリ、

### (二) 積付方一班

貨物ノ積付ニ關スル規定ハ或ハ法令ヲ以テ定メラル、モノアリ、或ハ一般ノ慣習ニ依リ船主ノ見込ヲ以テ之ヲ定ムルモノアリ、一々之ヲ枚擧スルニ遑アラスト雖モ其ノ大要ヲ列擧スレハ左ノ如シ、

(イ) 御用品及郵便物 (Government goods & Mail Matters) ハ當該官廳ノ指示スル所ニ從



ヒ船内特定ノ庫室ニ積入レ、又貨幣、有價證券、地金銀等ノ貴重品 (Valuable goods) ハ金庫若クハ他ノ特別室ニ收藏シ決シテ普通ノ貨物ト混同スヘカラス、

(ロ) 危険物 (Dangerous goods)、即チ火藥、「ダイナマイト」、「ナイトログリスリン」、「雷管、煙火、火箭、導火管等ノ如キ爆發物 (Explosives) 并ニ酸類、硝石、硫黄、油類、酒類、燐寸等ノ如キ容易ニ燃燒スヘキ物品 (Highly inflammable materials) ハ、決シテ普通ノ貨物ト同一視スヘカラサルモノニシテ最モ其ノ取扱ニ注意ヲ要ス、爆發物ハ特別ノ裝置アル船舶ニ非サレハ積入ルヘカラス、又燃燒シ易キ物品ハ必ス甲板積ト爲スヘシ、

總テ危険物ヲ船積セントスルトキハ、荷主ハ其ノ包裝又ハ申込書ニ品名ヲ明記シ且ツ船主又ハ船長ノ承諾ヲ經ヘキモノナルニ、若シ此ノ手續ヲ履マス普通貨物ト伴リ之ヲ船積シ若クハ船積セント謀ル者アルトキハ、五百圓以内ノ罰金ニ處シ、船長又ハ船主カ荷主ト申合セ危険物ヲ普通貨物トシテ船積シ若クハ船積セント謀ルトキハ

五百圓以内、又之ヲ發見スルモ官ニ訴出テサルトキハ二百圓以内ノ罰金ニ處セラル

ヘシ、而シテ普通貨物トシテ送付シ來リタルモノ、内ニ右ノ如キ危険物アリト認ムルトキハ、船長ハ之ヲ拒絶スルカ或ハ開包検査スルモ差支ナシ、若シ船積後ニ之ヲ發見シ別ニ安全ナル保存ノ場所ナキトキハ、船内三名以上ノ保證人ヲ立テ海中ニ投棄シ、着港ノ上當該官廳ニ其旨ヲ届出ツヘシ(明治六年八月布告危害物品船積規則參照)

(ハ) 發火ノ虞アル物品 (Inflammable goods) 即チ油紙、防水布、油ニ浸潤シタル糸屑又ハ棉花等ハ、摩擦、壓迫ノ爲メ發火ヲ惹起シ易キ性質ノモノナルヲ以テ、之ヲ艙内ニ積入レス甲板積ト爲スヘシ、

(ニ) 加害物 (Damaging goods)、即チ酸類、劇藥、醬液、油類等ハ他ニ損害ヲ及ホシ易キモノナルヲ以テ須ク甲板積ニ爲スヘキハ勿論、特ニ積場所ヲ撰ヒ他ノ貨物トノ境界ヲ嚴ニスヘシ、

(ホ) 毀損シ易キ物品 (Breakable goods) ノ内、玻璃板ノ類ハ平積ニ爲スヘカラス、又「ランブホヤ」、陶磁器、鐵瓶、鍋釜等ハ下積ニ爲スヘカラス、



(一) 腐敗し易き物品 (Perishable goods) 即ち魚類、獸肉、菓物、野菜等ハ其ノ積場所ニ注意シ、凍冷室ノ備アル船舶ニ於テハ必ス其内ニ貯ヘ置クヘシ、  
 (ト) 穀物 (Grain) ヲ船積スルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外必ス袋入又ハ俵詰ニ爲シタルモノナルヲ要スルハ勿論、其ノ附近ニ積入ル、貨物ヲ撰定シ、又艙内ノ暖氣ニ感シ腐蝕スルノ恐アルヲ以テ空氣ノ流通ヲ善クシ、又艙底ニ蓆ヲ敷キ漏脱セル穀粒ノ散逸セサル様注意セサルヘカラス、英米等ニ於テハ穀物ノ船積ニ關スル特定ノ法令アリ、船内ノ荷敷板(板ニ限ラス蓆、木皮、鋸)仕切板(船積穀物ノ動搖ヲ豫防スル爲メ多クハ船首ヨリ船尾ニ通シ板ヲ以テ區別ス)并ニ塗水溜(ボムブワユル)ニ穀粒ヲ集積セシメサル装置等ニ付テ嚴重ニ規定セリ、  
 (チ) 家畜 (Cattle) 即ち牛馬、豚羊類ヲ船積スルトキハ其ノ場所、飼養、掃除方等ニ十分注意スヘシ、英國ノ如キハ移民又ハ下等船客ヲ搭載スル甲板ノ下ニ一切家畜ヲ積入ル、コトヲ許サス、  
 (リ) 石炭 (Coal) ヲ積入ル、トキハ兩舷内ニ在ル排水管ノ口ヲ閉塞セシメサル様手配シ、一旦積入レタル上ハ通風、繰返ニ注意シ、爆發又ハ自然發火ノ危險ヲ豫防スル

コトヲ怠ルヘカラス、

(ヌ) 口物類 (Lot Goods) ヲ船積スルトキハ同種類ノモノト雖モ荷印、荷受人ノ異ナルニ從ヒ、別々區劃シテ相混積スヘカラサルハ勿論、陸揚地ノ順序ヲ誤ラサル様手配スヘシ、

(ル) 木材 (Timber) モ亦其ノ積場所ニ注意セサルヘカラサルモノニシテ大ニ航海ノ安危ニ關係アリ、英國ノ如キハ内外船舶ヲ問ハス甲板上蔽園ナキ場所又ハ該船舶ノ噸數中ニ算入セサル蔽園アル場所ニ木材ヲ積ミ、毎年十月末日ヨリ翌年四月十六日マテノ間ニ同國內ニ入港スルモノアレハ、船長ヲ罰金ニ處スルノ法律ヲ設ケ、船主ニ於テモ其ノ事實ヲ知り居ル上ハ亦同ク處分セラル、ノ規則ナリ、

### 第九 貨物ニ關スル稅關手續

貨物ヲ外國ニ輸出シ又ハ外國ヨリ輸入スルニハ、稅關ヲ通過シテ稅關官吏ノ検査ヲ受ケ、關稅即チ輸出稅又ハ輸入稅ヲ納付スル等ノ手續ヲ履マサルヘカラス、  
(我國ニ於テハ三十二年七月十七日ヨリ輸出稅) 是等ノ手續ハ多ク荷送人(即チ荷主)又ハ荷受人ニ於テ之ヲ爲シ、船舶ハ是等ヲ廢止セリ



ノ手續ヲ終リタル貨物ヲ荷送人ヨリ受取リテ之ヲ船積シ、又ハ其ノ積載シ來レル貨物ヲ荷受人ニ引渡シ荷受人ニ於テ陸揚ノ上右ノ手續ヲ爲スノ習慣ナレトモ、船舶ヲ横附シテ直接ニ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ棧橋、濕船渠等ノ設備十分ナラサル港ニ於テハ、船主又ハ請負人(「ランデング、エゼント」ト通稱ス)ノ手ニテ貨物ノ積卸ヲ引請ケ、解舟ヲ用ヒテ本船ト陸地トノ間ヲ聯絡スルヲ常トス、斯ル場合ニ在リテハ税關手續ノ如キモ右貨物ノ積卸ヲ引請ケタル船主又ハ請負人ニ於テ之ヲ爲スコト一層便利ナルヘシ、今日日本郵船會社横濱支店ノ實際ヲ聞クニ、店內ニ「ランデング」係ナルモノヲ置キ、輸出貨物ニ付テハ支店倉庫ニ於テ荷送人ヨリ之ヲ受取リタル上税關手續ヲ濟マセテ本船ニ船積スルマテ一切ノ事ヲ取扱ヒ、輸入貨物ニ付テモ亦本船ヨリ之ヲ受取レハ其手ニテ陸揚ヲ爲シ同ク税關手續ヲ濟マセタル上荷受人ニ引渡スノ便法ヲ取ルト云フ、又神戸支店ノ如キハ別ニ「ランドエング、エゼント」ヲ業トスル海榮商會アリ、輸出入貨物ニ付キ其ノ船積陸揚ヲ始メ税關手續等一切ノ事ヲ取扱フヲ以テ之ニ委託スルトノ事ナリ、要スルニ貨物ニ關スル税關手續ハ船舶ノ直接ニ關與スル所ニ非サルモ、船員タル者亦一通リ之カ心得ナカルヘカ

ヲサルハ勿論トス、

### (一) 關稅ノ稅率、納付及徵收ノ標準

#### (イ) 稅率

關稅ノ稅率ヲ定ムルニ二様ノ別アリ一ヲ從價稅率(Ad Valorem Duty)ト云ヒ一ヲ從量稅率(Specific Duty)ト云フ、從價稅率ハ物品ノ價格等ヲ標準トシテ稅率ヲ定メ從量稅率ハ物品ノ重量又ハ個數等ヲ標準トシテ稅率ヲ定ムルモノナリ、我國ニ於テハ明治三十年三月發布セル關稅定率法ヲ以テ輸入貨物ノ從價稅率ヲ定メ、而シテ課稅價格ノ算定法ハ其ノ仕入地、產出地若クハ製造地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送賃、保險料、其他仕向港ニ到着スル迄ノ諸費用ヲ加ヘテ算定スル事ト爲セトモ、從價稅ニ代フルニ從量稅ヲ以テスル方便ナル貨物ニ付テハ、前示ノ算定法ニ依リ六ヶ月以上ノ平均價格ヲ求メ從價稅率ニ基キ之ヲ定ムヘキモノト爲セリ、

#### (ロ) 關稅ノ納付

外國ヨリ輸入スル貨物ハ我國ノ關稅定率法(此法ニ指示スル輸入稅目約五百種ニ上ル)ニ依リ夫々定率ノ關



税ヲ納付セサルヘカラス、但シ我國ト英佛獨トノ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物(六十餘種)ニ付テハ其ノ協定ニアル税率ニ依ルヘキモノト知ルヘシ、其他輸入貨物カ損傷シタル爲メ減税ヲ請ハントスルトキハ、輸入免許(Import Permit)ヲ受クル前ニ該貨物ノ記號、番號、品名、數量、原價、諸費及請求ノ要領ヲ記セル申請書ヲ税關ニ差出セハ、税關長ノ見込ニ由リ相當ノ減税ヲ爲スヘシ、

陸上通過ノ爲メ輸入スル貨物ハ關稅ヲ納ムルヲ要セサルモ、輸入ノ際担保トシテ税金ニ相當スル丈ケノ金錢又ハ有價証券ヲ供託所(金庫)ニ供託シ、其ノ供託受領証ヲ税關ニ差出シ置クヲ要ス、

(ハ) 徴収ノ標準

次ニ關稅徴収ノ標準ヲ示サンニ、一般ノ貨物ニ付テハ輸入申告書ヲ差出シタル當日ニ行ハル、法規ニ從ヒ之ヲ徴収スヘシト雖モ、保税倉庫(Bonded warehouse)ニ庫入シタル貨物ニ付テハ庫入申告ノ當日、又收容貨物ニシテ公賣ニ附スルモノニ付テハ公賣ノ當日ニ行ハル、法規ニ從フモノトス、

## (二) 輸出及積戻手續

(イ) 輸出及輸出申告書 (Declaration for Exportation)

貨物ヲ外國ニ輸出セントスル者ハ、其ノ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、及仕向港ヲ記セル輸出申告書ヲ税關ニ差出シ(旅客携帶品ハ口頭ニテ申出ツレハ可ナリ)、税關官吏ヨリ貨物ノ検査ヲ經タル上輸出免許(Export Permit)ヲ受クヘシ、此ノ免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ貨物ヲ船積スルコトヲ得サルモノトス、

其他輸出貨物カ外國產出ノモノナレハ申告書ニ其ノ產地ヲモ記シ、又修繕ノ爲メ一旦輸出シ再ヒ輸入スヘキ貨物ナレハ、輸出ノ目的、再輸入ノ場所及期限ヲモ記スヘシ、

關稅定率法第六條ニ依リ關稅ヲ免除セラレタル貨物ヲ輸入ノ日ヨリ滿六ヶ月内ニ輸出セントスル者、又ハ陸上通過ノ爲メ一旦輸入シタル貨物ヲ輸出セントスル者ハ、輸出申告書ト共ニ輸入免狀(又ハ之ニ代ルヘキ税關ノ證明書)ヲ税關ニ差出ス



シ、而シテ税關長ニ於テ輸出ヲ免許シタルトキハ、右輸入免狀（又ハ證明書）ニ輸出ノ旨ヲ記シ返付スルモノトス、前示關税法第六條ノ規定ト云フハ左ノ如シ、

左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ再ヒ輸出スルモノハ輸入税ヲ課セス但シ輸入ノ際其ノ輸入税金ニ相當スル金額ヲ預入レ又ハ担保ヲ差入レテ之ヲ保証スヘシ

- 一、修繕ノ爲メ一時輸入スルモノ
- 二、學術研究旅行者使用ノ爲メ一時輸入スルモノ
- 三、試験品トシテ一時輸入スルモノ
- 四、商人、工業者及注文取集旅商ノ見本トシテ一時輸入シタルモノ
- 五、演劇其他興行用ノ爲メ一時輸入スルモノ

前項ノ兩場合ニ於テ愈々輸出ノ手續ヲ終リタルトキハ、輸出港税關ヨリ受ケタル輸出済ノ證明書（即チ輸入免狀ニ輸出済）ヲ輸入港税關ニ差出シ、豫テ担保ヲ提供シ置キタル其ノ担保義務消滅ノ証明ヲ受ケタル上、供託所ニ就テ供託物ヲ受戻スヘシ、

(ロ) 積戻及積戻申告書 (Declaration for Reshipment)

又一旦陸揚シタル外國貨物（假陸揚貨物ヲ除ク）ヲ積戻サントスル者ハ、輸出申

告書ト同様ノ事項ヲ記セル積戻申告書ヲ差出スヘク、其他ノ手續何レモ輸出ノ場合ト同様ナリ、

(三) 輸入手續

(イ) 輸入及輸入申告書 (Declaration for Importation)

外國貨物ヲ輸入セントスル者ハ、之ヲ積載シタル船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、産出地（又ハ製造地）、記號、番號、品名、箇數、數量、原價及諸費用ヲ記セル輸入申告書ト共ニ仕入書インボイスヲ税關ニ差出シ（旅客携帶品ハ口頭ニ）輸出ノ場合ト均ク成規ノ検査ヲ經テ輸入免許ヲ受クヘシ（仕入書ハ此ノ免許ヲ與ヘラ）、總テ輸入貨物ハ此ノ免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取り又ハ通過ノ爲メ發送スルコトヲ得サルモノトス、尤モ急ヲ要スルトキハ其ノ理由ヲ記セル申請書ヲ税關ニ差出シ、其ノ認許ヲ得擔保ヲ提供シタル上（即チ指定セラレタル金額ヲ金庫ニ供託シ其ノ供託受領証ヲ税關ニ差出スヘシ）之ヲ引取り又ハ發送スルコトヲ得ヘシ、

關稅定率法第五條第十號及十一號ニ相當スル貨物（即チ内國産ニテ五ヶ年以内ニ



外國ヨリ積戻リ輸出當時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ(但シ煙草、酒類ヲ除ク)及修繕ノ爲メ一旦外國ニ輸出シ再ヒ輸入スルモノヲ輸入セントスル者カ、關稅ノ免除ヲ得ント欲スルトキハ、前示輸入申告書ト共ニ輸出免狀(又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書)ヲ差出スヘク、又同法第六條ニ掲ケタル貨物(前文參看)ヲ輸入セントスル者ハ輸入申告書ニ輸入ノ目的及輸出港ヲモ記スヘシ、

ロ) 通過輸入及通過貨物目錄

陸上通過ノ爲メ貨物ヲ輸入セントスル者ハ、輸入申告書ニ記スル事項ノ外輸入ノ目的及輸出地ヲ記セル通過貨物目錄(Inventories of goods for transit)ヲ差出スヘキモ(此ノ目錄ハ輸出地ノ異ナルニ從ヒ夫々作成スルル要ス)、其ノ他ノ手續ハ普通輸入ノ場合ト同様ナリ、而シテ通過輸入貨物ヲ運送スルニハ必スヤ法定ノ關稅通路ヲ經由シ、之カ運送人タル者ハ此種ノ貨物ニ關シ職務ヲ執ル所ノ官吏ニ對シテ相當ノ便宜ヲ與フル義務アルモノトス、

(備考)

勅令第三百八十三號抄出(明治三十二年)

關稅法第三十五條及保稅倉庫法第四條ニ依ル通路左ノ如シ

橫濱新潟間	官設鐵道、日本鐵道及北越鐵道
橫濱大阪間	官設鐵道
四日市大阪間	關西鐵道
大阪敦賀間	官設鐵道
大阪神戸間	官設鐵道
小樽室蘭間	北海道炭礦鐵道
門司博多間	九州鐵道
博多長崎間	九州鐵道

(四) 回漕手續

(イ) 手續一斑

内外國貨物ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貨物ヲ沿海通航船ニ積載シ、一ノ開港場ヨリ他ノ開港場ニ回漕セントスル者ハ、回漕申告書ヲ稅關ニ差出シ貨物ノ検査ヲ經テ回漕免狀(Permit for Transportation)ヲ受クヘシ、此ノ免狀ヲ受ケタル後始テ其ノ貨物ヲ船積スルコトヲ得ヘク、愈々回漕地ニ到達シタルトキハ貨物ヲ陸揚スルト同時ニ右回漕免狀ヲ稅關ニ差出シ、稅關ニ於テハ貨物ヲ検査シ免狀ト符合スルヲ確メタル後、該免狀ニ回漕濟ノ旨ヲ記入シ返付スヘキヲ以テ、然ル後夫々引取ノ手續ヲ爲



スヘシ、

(ロ) 同漕申告書 (Declaration for Transportation)

此ノ申告書ニハ船舶ノ名稱、國籍、陸揚地、内外國貨物ノ區別、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記スヘシ、

(五) 收容及競賣手續

(イ) 貨物ノ收容

船積ノ爲メ税關ニ送致シ若クハ船舶ヨリ陸揚シタル貨物ハ、税關手續ヲ済マセタル後荷送人若クハ荷受人ニ於テ速ニ船積、引取、發送又ハ保税倉庫ニ庫入スヘキモノナレトモ、若シ是等ノ手續ヲ怠リ貨物ノ送致若クハ陸揚ノ時ヨリ七十二時間以内即チ三日以内ニ以上ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ、其地ノ税關ハ荷送人若クハ荷受人等利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ之ヲ税關倉庫ニ收容スルヲ得ヘシ、

(ロ) 貨物ノ競賣

右ノ如ク税關ニ於テ貨物ヲ收容シタルトキハ、三日以内ニ貨物ノ記號、番號、品

名及個數ト共ニ收容ノ旨ヲ構内ノ揭示板ニ揭示シ、其後六ヶ月以内ニ收容解除ノ申出ヲ爲サ、ルトキハ、税關ハ更ニ其旨ヲ官報、新聞等ニ公告シ、其日ヨリ一ヶ月ヲ經ルモ尙ホ申出ツル者ナキトキハ斷然貨物ヲ競賣ニ附シ、關稅、藏敷料、其他貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ、殘金アラハ之ヲ供託スヘシ、但シ收容貨物ニシテ腐敗シ易キモノナルカ又ハ倉庫若クハ他ノ貨物ヲ害スル虞アルモノナルトキハ、前示ノ期限ニ拘ラス收容ノ後公告シテ之ヲ競賣ニ附シ、公告ノ暇ナキトキハ競賣シタル後ニ公告スルモ可ナリ、

(ハ) 收容解除申告書及藏敷料

貨物ノ税關ニ收容セラレタル後之カ解除ヲ得ントスル者ハ、貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記セル申告書 (Application for Release of goods held in Custody) ヲ税關ニ差出シ、該貨物ニ關スル一切ノ費用及藏敷料 (Storage) ヲ納メ免許ヲ受ケサルヘカラス、然レトモ此ノ免許ヲ受ケタル後四十八時間以内即チ二日以内ニ貨物ヲ船積、引取、發送又ハ保税倉庫ニ庫入セサルトキハ、申告書及免許ハ無効ニ歸スヘシ、



收容藏敷料ハ十日毎ニ之ヲ勘定スルモノニシテ、貨物ノ種類ニ依リ高低アリ、三十二年七月六日發布ノ大藏省令第三十五號收容貨物藏敷料定率表ニ詳ナリ、茲ニ其ノ大要ヲ示サン、

品名	每立方尺十日間藏敷料
第一類 布帛	大約一〇乃至一五
第二類 絲織	大約一五
第三類 衣服及附屬具	大約一五
第四類 食物	一〇
第五類 酒類	一〇
第六類 煙草	大約二〇内外
第七類 砂糖	一〇
第八類 藥材、製藥等	大約一〇乃至一五
第九類 染料、塗料等	大約一五乃至二〇
第十類 金屬及其製品	大約一〇乃至一五
第十一類 時計、學術器具及機械類	大約一〇
第十二類 象牙、皮革	大約一〇
第十三類 玻璃器	一〇
第十四類 油蠟	大約一〇

第十五類 紙及文房

大約一〇

第十六類 雜品

大約一〇

第十七類 危險品

三〇

第十八類 貴重品

十日間藏敷料從價千分ノ三

### (六) 異議及訴願手續

#### (イ) 異議及異議申立書

貨物ノ類別、課稅價格等ニ關シ稅關長ノ處分ニ對シテ不服アルトキハ、其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ稅關長ニ向ヒ書面ヲ以テ異議ヲ申立ツルコトヲ得  
(但シ貨物ヲ引取リタルトキハ此限ニ在ラス)、此ノ異議申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記シ、附屬ノ書類又ハ物件アルトキハ之ヲモ添付スヘシ、然ルトキハ稅關長ハ判定ノ主文、其ノ理由等ヲ記セル異議判定書ナルモノヲ右申立人ニ交付スヘキモノトス、

又從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關シ、稅關長ニ於テ異議申立人ノ異議ヲ不當ト認ムルトキハ、申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘ之ヲ買上クルカ又ハ評價人ヲシ



テ評價セシムルモノトス、評價人ハ四人ニテ二人ハ税關長ヨリ命シ二人ハ異議者ヨリ撰定シ、其ノ評定シタル價格ヲ以テ課稅價格トス(評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ取ルヘシ)、尤モ評價價格カ申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價額ノ方ヲ課稅價格ト爲スヘシ、

ロ) 訴願

總テ税關長ノ處分ニ對シテ不服アルトキハ大藏大臣ニ訴願スルノ途アリ、此ノ訴願アルトキハ該大臣ハ委員會(大藏次官ヲ委員長トシ大藏(三人)、農商務(二人)、司法(一人)三省ノ官吏及大學教授(三人)ヨリ成ル)ヲ開テ之ヲ審査セシメ、其ノ決議ノ結果ニ依リ何分ノ裁斷ヲ爲スヘシ、

(七) 不開港場ニ於テ貨物ヲ輸出入スル事

元來貨物ヲ外國ニ輸出シ又ハ外國ヨリ輸入スルニハ必スヤ開港場ヲ經由スヘキモノナレトモ、海難等ノ爲メ外國貿易船ノ不開港場ニ出入スルノ例外アルト同様ノ理由ニ依リ、左ニ掲クル場合ニハ不開港場ニ於テ適宜始末スルコトヲ得ヘシ、

一、遭難船ノ修繕費、救護費、其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メ貨物ヲ賣却スルトキ

二、遭難船ニ積載シタル損傷貨物若クハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡ストキ

三、遭難船若クハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四、遭難船ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

(八) 税關執務間外ニ於テ貨物輸出入ノ手續ヲ爲ス事

貨物ヲ税關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取發送ヲ爲スハ、可成税關執務時間内(平日ハ午前十時ヨリ午後四時マテ)ニスヘキ事當然ナレトモ(郵便物及旅客携帶品ハ此限ニ在ラス)、去リトテ船舶又ハ貨物ノ都合ニ依リ執務時間外ニ臨時ノ開應ヲ請フヘキ必要往々有之、殊ニ急ヲ要スル場合ニハ夜間又ハ税關ノ休日ナルニモ拘ラス瞬刻ヲ争ヒ税關手續ヲ済マヌル必要アルヘシ、是等ノ場合ニハ開應ノ時間、其間ニ爲スヘキ事項并ニ至急ヲ要スル理由等ヲ記セル申請書ヲ税關ニ差出シ、税關長ノ特許ヲ受クレハ本望ヲ達スルコトヲ得ルナリ、之ニ就テ支拂フヘキ特許手数料ハ左ノ如シ、

○ 税關平日臨時開應特許手数料

一 午後四時ヨリ同六時マテ	參拾圓
一 午後四時ヨリ同十二時マテ	九拾圓
一 午後四時ヨリ同十二時ヲ過クルトキ	百九拾圓



第二十三章 貨物ノ運送

一日出ヨリ午前十時マテ

但シ前日ヨリ引續キ開應ノ場合ハ此限ニ在ラス

四拾圓

五百七十六

○税關休日臨時開應特許手数料

一午前十時ヨリ午後四時マテ

五拾圓

一午前十時ヨリ午後六時マテ

八拾圓

一午前十時ヨリ午後十二時マテ

百四十圓

一午前十時ヨリ午後十二時ヲ過クルトキ

貳百四十圓

一日出ヨリ午前十時マテ

四拾圓

但シ前日ヨリ引續キ開應ノ場合ハ此限ニ在ラス

○税關支署平日及休日臨時開應特許手数料

一日出ヨリ日没マテ

一時間マテ毎ニ 貳圓

一日没ヨリ日出マテ

同 參圓

○税關平日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料

一日没ヨリ日出マテ

一時間マテ毎ニ 參圓

○税關休日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料

一日出ヨリ日没マテ

一時間マテ毎ニ 貳圓

一日没ヨリ日出マテ

同 參圓

○税關支署平日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料

一日没ヨリ日出マテ

一時間マテ毎ニ 壹圓五拾錢

○税關支署休日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料

一日出ヨリ日没マテ

一時間マテ毎ニ 壹圓

一日没ヨリ日出マテ

同 壹圓五拾錢

(九)税關指定ノ場所外ニ於テ貨物積卸ノ手續ヲ爲ス事

貨物ノ陸揚、船積、其他船舶ト陸地トノ交通ハ、税關指定ノ場所ニ於テ爲スヘキモノナレトモ、若シ該場所以外ニ於テ此ノ手續ヲ爲サント欲スルトキハ、其ノ場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記セル申請書ヲ税關ニ差出シ特許ヲ受クヘシ、此ノ場合ニハ別ニ手数料ヲ要セス、

(十)税關構外ニ於テ貨物ノ検査ヲ受クル事

税關又ハ同支署ノ構外附近ニ倉庫ヲ所有スル船主又ハ貿易商ノ如キハ、棧橋又ハ本



船ヨリ直ニ自己ノ倉庫ニ貨物ヲ送致シ、此處ニテ税關官吏ノ出張検査ヲ受クルコト、爲サハ非常ノ便利ナルヤ論ヲ待タズ、即チ此ノ便利ヲ得ント欲スルモノハ、其ノ場所、期間、貨物ノ種類ヲ記セル申請書ヲ、税關ニ差出スヘシ、左スレハ税關長ハ該倉庫ノ位置、資格等ヲ検査シタル上適當ト認ムレハ特許ヲ與フヘキナリ、而シテ之ニ要スル特許手数料ハ検査ニ要スル時間一時間毎ニ參圓ニシテ、出張旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲモ加ヘテ支辨スヘキモノトス、

(十一) 税關證明手数料及船舶貨物統計表

總テ税關證明ノ手数料ハ每一件貳圓(噸稅納付済ノ證明及船舶測定証ハ別ナリ)、輸出入貨物日計表ハ每一ヶ月貳拾圓、其他船舶及貨物ニ關スル統計表ハ每一件五拾錢トス、

(十二) 罰則

凡ツ税關ノ手續ヲ怠リ又ハ之ニ違反シタル者ハ夫々輕重ノ罰金ヲ課セラル、ノ規則ニシテ、中ニモ關稅ヲ逃脫若クハ逃脫セントシタル者ハ、其ノ當ニ納ムヘカリシ税金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス且ツ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收セラルヘク、又有害ナル藥品、

飲食物ヲ始メ公共ノ衛生又ハ動植物ニ危險ナル物品、贋造貨幣、公安及風俗ヲ害スヘキ圖書等ノ如キ輸入禁制品ヲ輸入シ若クハ輸入セントシタル者ハ、犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金ニ處シ且ツ該貨物ヲ沒收セラルヘシ、

(十三) 保税倉庫(明治三十年七月施行保税倉庫法及同施行細則參看)

保税倉庫 (Bonded warehouse) トハ輸入未済ノ貨物ヲ藏置スル倉庫ニシテ、貨物藏置中ハ之ヲ輸入シタルモノト看做サレサルヲ以テ、一定ノ藏敷料ノ外ハ輸入税ヲ納付スルニ及ハス、然レトモ右藏置期間ハ貨物庫入ノ日ヨリ滿一ケ年(尤モ貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期間ノ延期ヲ求ムルコトヲ得)ニシテ、此ノ期間内ニハ貨物ヲ引取り最初庫入シタル時ノ性質及數量ニ依リ輸入税ヲ納付スヘキモノトス

保税倉庫ニハ官設、私設ノ別アリ、官設保税倉庫ニ於テハ、無稅品(一)、巨大又ハ重量ナルモノ(二)、損傷腐敗シタルモノ又ハ損傷腐敗シ易キモノ(三)、發火質燃燒質又ハ爆發質ノモノ(四)、倉庫又ハ他ノ貨物ヲ汚損スヘキモノ(五)、動物、植物(六)、不潔物(七)ヲ除キ、其他ノ貨物ヲ藏置スルヲ得ヘキモノニシテ、税關ハ其ノ藏置貨物ニ對シ記名ノ預証券



ヲ貨主ニ交付スヘク、該証券ニハ(一)貨物ノ品名、記號、番號、個數、數量、(二)最初庫入ノ年月日、(三)貨主ノ住所氏名、(四)輸入稅額(五)庫敷料ヲ記入シ、且ツ裏書ヲ以テ自由ニ讓渡シ得ルノ便アリ、而シテ貨物ヲ引取ルニハ該証券ト引換ニ交付セラレ、モノトス、貨主若シ前示一ケ年ノ藏置期間ヲ經過シテモ貨物ヲ引取ラサルトキハ、當該稅關ハ之ヲ無請求品トシテ、貨物ノ記號、番號、品名、個數等ヲ揭示スルノ外三日以上官報又ハ新聞紙ヲ以テ公告シ、其後滿六ケ月ヲ經テ仍ホ引取ル者ナキトハ、當該稅關ハ該貨物ヲ競賣ニ付シ輸入稅、公告料、競賣料、手数料等一切ノ費用ニ充テ、殘金アラハ貨主ニ返付スヘシ、

又私設保稅倉庫ハ大藏大臣ノ特許ヲ受ケ營業スルモノニシテ、庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入稅ニ付自ラ一切ノ責任ヲ有シ、天災事變其他何等ノ事故ニ由ルヲ問ハス貨物ヲ紛失滅失シタルトキハ其責ヲ免ル、コトヲ得ス、此種ノ倉庫ニ藏置スヘキ貨物ハ大藏大臣ノ認可シタル種類ニ限ルヘキモノニシテ、發火質、燃燒質、又ハ爆發質ノ物品ハ特別ノ設備アル倉庫ニ非サレハ藏置スルコトヲ得ス、倉庫ノ庫主ハ其ノ保管貨物輸

入稅ノ擔保トシテ金錢又ハ國債証券ヲ供託スルノ義務アリ、又保管貨物庫入ノ日ヨリ滿一ケ年ヲ過クルモ貨主ソノ貨物ヲ引取ラサルトキハ、庫主自ラ納稅其他輸入ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス、貨物若シ盜難ニ罹ルカ其他何等ノ事故ニ由ルヲ問ハス紛失滅失シタルトキモ、亦庫主ヨリ該貨物ニ對スル輸入稅ヲ納メサルヘカラス、

#### (十四) 保稅倉庫ニ於ケル貨物庫入庫出手續

總テ保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入セント欲スル者ハ、庫入申告書ヲ倉庫所在地ノ稅關ニ差出シ、貨物ノ検査ヲ經タル上庫入免狀ヲ受クヘシ、又藏置貨物ヲ他ノ倉庫ニ庫移シ又ハ外國ニ積戻サントスルトキハ、夫々庫移願書又ハ積戻願書ヲ稅關ニ差出シ其ノ免狀ヲ受クヘシ、其他保稅倉庫ニ庫入又ハ庫移ノ爲メ輸入未濟貨物ヲ他ノ方面ニ運搬セント欲スルトキハ、回送願書二通ヲ其ノ發送地ノ稅關ニ差出シ、検査ヲ經タル上回送免狀ヲ受クヘシ、藏置貨物ヲ外國ニ積戻ス爲メ運搬セント欲スルトキ亦然リトス、此等ノ回送貨物ハ、之ヲ運搬スルニ指定ノ陸上通路(本章第九(三)ノ「ロ」備考「參看」ニ依ルヘキモノニシテ、發送地ノ稅關ハ必要ト認ムルトキハ貨主ヲシテ該貨物ニ對スル輸入



税ヲ假納セシムヘク、貨物ソノ仕向地ニ達シタル上回送免狀ニ仕向地税關ノ證明ヲ受ケ發送地税關ニ差出セハ右假納税金ヲ拂戻サルヘシ、然レトモ若シ貨物仕向地ニ達セサルモノアルトキハ、之ニ對スル輸入税ヲ徵收セラルヘシ、

當該税關ノ許可ヲ得シテ保税倉庫ニ庫入シタル者ハ、參圓乃至參拾圓ノ罰金ニ處セラレ、又同ク許可ヲ得シテ貨物ヲ庫出シタル者并ニ回送貨物ヲ運搬スルニ指定ノ通路ニ依ラサル者ハ、該貨物ヲ沒收セラレ若シ既ニ讓渡又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ラルヘシ、

保税倉庫ハ晝間(日出ヨリ日没マテ)ノミ開庫スルモノニシテ、税關休日ニハ開庫スヘキモ、貨主ニシテ休日ニ開庫ヲ欲スルトキハ、臨時開庫願書ヲ税關ニ差出シ一定ノ手数料(一時付費)ヲ納メ特許ヲ受クヘシ、

### (十五) 税關假置場

今回新ニ公布セラレ本年五月一日ヨリ施行セラルヘキ税關假置場法ハ、本邦税關ノ設備上確ニ一段ノ進歩ヲ彰ハスモノニシテ、之カ爲メ將來我カ外國貿易ニ顯著ナル便

宜ヲ與フヘキハ期シテ待ツヘキ所ナリ、即チ横濱、長崎兩税關ノ管轄區域内ニ税關假置場ヲ設ケ、外國産ノ貨物(大藏大臣ハ貨物ノ種類ヲ制限スルコトヲ得)ハ其ノ積載船舶ヨリ一旦陸揚シタル上、之ヲ該場内ニ仮ニ藏置スルコトヲ得ヘキ事ト爲レリ、斯ル藏置ノ貨物ハ輸入セサルモノト看做サル、ヲ以テ、之ヲ引取り輸入スル場合ノ外ハ關稅ヲ支拂フニ及ハス、且ツ場内ニ於テ隨意ニ改装、仕分、其他ノ手入ヲ爲スコトヲ得ヘク、又貨物藏置ノ期間ハ滿三ヶ月以内ナレトモ、所有主ノ申請ニ依リ税關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得ヘシ、尤モ假置場ヲ使用スル間即チ貨物藏置中ハ、一定ノ使用料(貨物ハ一立方尺ニ付一ヶ月貳錢乃至五厘、又建物ヲ使用スル者ハ一坪ニ付一ヶ月七拾五錢乃至四拾錢トス、而シテ使用料ハ貨物移出ノトキ之ヲ納ムルモノニシテ一ヶ月毎ニ計算ス一ヶ月未滿ナレハ十五日マテハ半ヶ月分十五分ヲ徵收セラル)ヲ納付スヘキハ當然ナリ、蓋シ現行關稅法ニ依レハ、一旦陸揚シタル貨物ハ直ニ輸入手續ヲ了スルカ、若クハ保税倉庫ニ入レ置キ一ヶ年以内ニハ購買者ノ有無ヲ問ハス關稅納付ノ上之ヲ引取ラサルヘカラサル規則ナルニ、横濱、長崎兩港ニ於テ今回特ニ此ノ法律ヲ實施セラレ、第一章第八四ニ説述セル「自由貿易區」ニ類似セル特典ヲ被ルニ至リタルハ、兩港ノ爲メ深ク慶賀スヘキ所ナリ、



(十六) 税關假置場ニ於ケル貨物移入移出手續

税關假置場ニ貨物ヲ移入セント欲スル者ハ、積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、個數、數量、及價格ヲ記スル移入申告書ヲ税關ニ差出スヘシ、而シテ一旦藏置シタル貨物ハ輸入、積戻、回漕又ハ保税倉庫々入ノ免許ヲ受ケタル後カ、若クハ税關長ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ、假置場ヨリ移出スルコト能ハサルモノトス、

右假置場ハ夜間(日没ヨリ日出マテ)及税關休日ニハ之ヲ閉鎖スルノ例ナレトモ、臨時開場ヲ得ントスルトキハ、其ノ必要ナル事由及時間ヲ記スル申請書ヲ差出シ税關長ノ特許ヲ受クヘシ、又前示貨物藏置期間ノ延長ヲ要スルトキハ、該貨物ノ記號、番號、品名、個數、數量、延長期間及理由ヲ記スル申請書ヲ差出シ同ク税關長ノ特許ヲ受クヘキモノニシテ、是等ノ特許ニ對シテハ一定ノ手数料(臨時開場ノ手数料ハ晝間一時間ニ付壹圓夜間一時間ニ付壹圓五拾錢ナリ)ヲ納付セサルヘカラス、

(參照)

税關及税關支署

税關

横濱、神戸、大阪、長崎、函館、新潟

税關支署

清水、四日市、濱田(石見)、境、宮津、門司、博多、唐津、口ノ津、三角、嚴原、佐須奈(對馬)  
鹿見(對馬)、那覇、小樽、釧路、室蘭、敦賀、七尾、伏木、夷港



### 第七篇 海損及海上保險

#### 第二十四章 海損

##### 第一 海損ノ三種

海損即チ英語ノ所謂 Average トハ船舶又ハ積荷ノ上ニ生スル海上ノ損害ヲ云フモノニシテ、海損ニ三種アリ共同海損、(General Average) 單獨海損、(Particular Average) 及小海損(Petty or Accustomed Average)是ナリ以下順次之ヲ説明スヘシ、

##### 第二 共同海損トハ何ソヤ

共同海損トハ船長カ其ノ船舶及積荷ヲシテ共同ノ危険(即チ火災、沈没、強盜等ノ如キ災害)ヲ免レシムル爲メ、故ラニ其ノ船舶又ハ積荷ニ付キ處分ヲ爲シタル其ノ處分ニ由リ生シタル損害及費用ヲ云フモノニシテ(商法第六四一條)、下ノ如キ三個ノ要素ヲ具備スルヲ必要トス、即チ(一)ハ船長故意ノ行爲ニシテ、例ヘハ暴風雨ノ爲メ船舶カ將ニ沈没セントスルトキ船長ハ熟慮ノ上自己ノ決心ヲ以テ進テ其ノ積荷ノ一部ヲ投棄セシメタ

ルカ如キ是ナリ、(二)ハ共同ノ危険ヲ免レシムル爲メナル事ニシテ、例ヘハ積荷ノ一部ヲ投棄スレハ船舶并ニ他ノ積荷ヲシテ均ク危険ニ陥ルヲ避ケシムヘシト認メタルカ如キ是ナリ、(三)ハ船長行爲ノ結果トシテ船舶又ハ積荷ノ全部若クハ一部ヲ保存シ得タル事ニシテ、船舶及積荷カ全然損失ニ歸セントスルノ危険ハ共同海損ニ欠ク可ラサルモノナレハ、從テ船舶又ハ積荷ノ何レカ其ノ全部若クハ一部ヲ保存シ得タル事亦自ラ必要ナリト知ルヘシ、

##### 第三 共同海損タル損害高ノ定メ方

是レ損害ヲ受ケタル船舶又ハ積荷ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘキコト勿論ニシテ、船舶ノ價格ハ其ノ到達スヘカリシ土地ニ於ケル時價ヲ以テシ、積荷ノ價格ハ其ノ陸揚スヘカリシ土地ニ於ケル時價ヲ以テスヘシ、而シテ陸揚地ニ於ケル積荷ノ價格ナルモノハ、通例其ノ原價ニ加フルニ運送賃、陸揚費、關稅等ヲ以テシ、尙ホ相當ノ利益ヲモ加算スヘキ等ノモノナレトモ、共同海損ノ場合ニハ積荷カ陸揚地ニ到着セサル前既ニ滅失又ハ毀損セラレタルモノナルヲ以テ、之カ爲メ支辨ヲ要セカリシ前示ノ諸費用ハ悉ク差引



カサルヘカラサルモノトス(商法第六四七條)、

#### 第四 共同海損ノ分担方

共同海損ノ爲メ生シタル損害ヲ分担スヘキハ何人ナリヤ、又各自分担スヘキ割合及限度ハ如何ト云フニ、(第一)ニ船長カ共同ノ危険ヲ免ル、爲メ相當ノ處分ヲ爲シタルニ依リ、船舶又ハ積荷ノ全部若クハ一部ヲ保存スルコトヲ得タルモノナルヲ以テ、其ノ保存セラレタル船舶又ハ積荷ノ所有者ハ、當然右ノ損害即チ我カ爲メ犧牲ニ供セラレタル者ノ其ノ損害等ヲ償フノ義務アルト同時ニ、共同ノ危険ヲ救ハンカ爲メ直接ニ損害ヲ受ケタル犧牲者當人ニ於テモ亦其ノ海損ヲ分担セサルヘカラス、(第二)ニ分担ノ割合ハ保存セラレタル船主ニ在リテハ船舶ノ到達スヘカリシ土地ニ於ケル時價ト運送賃ノ半額トヲ標準トシ、荷主ニ在リテハ積荷ノ陸揚スヘカリシ土地ニ於ケル時價ヨリ運送賃、船積及陸揚費、關稅等ヲ差引キタルモノヲ標準トシ(是レ前項共同海損高ノ定メ方ニ說明セルト同シク積荷ノ附帶費ヲ差引ク所以ナリ)、又直接損害ヲ被リタル當人ニ在リテハ共同海損タル損害高ヲ標準トシ以テ夫々各利害關係人ノ割合ニ應シ之ヲ分担スヘキモノトス、而シテ是等利害關係人ノ分担

スヘキ割合ハ右ノ如クシテ之ヲ定ムルモ、更ニ各自分擔ノ高ニ限度アルコトヲ知ラサルヘカラス、即チ船舶ナラハ到達ノ時又積荷ナラハ引渡ノ時ニ於ケル實際ノ價格ヲ限度ト爲スヘキモノニシテ、例ヘハ積荷引渡ノ際ニ現存價格一萬圓ナルトキハ、如何ニ多額ノ共同海損ナルニセヨ荷主ノ分擔高ハ一萬圓ヲ超過スルヲ要セサルナリ(同第六四二、三、四條)、

#### 第五 共同海損ノ分擔ニ算入スヘカラサルモノ

共同海損ニ依リ保存セラレタル船舶及積荷ノ所有者并ニ犧牲者當人ハ、各其分ニ應シテ損害ヲ分擔スヘキコト前述ノ如シト雖モ、船内備付ノ武器、船員ノ給料、船員、旅客ノ食料及衣類ハ、共同海損ノ分擔ニ付キ其ノ價格ヲ算入セサル原則ニシテ、從テ是等五種ノ物件ノ所有者ハ他ノ海損ニ對シ分擔ノ義務ナキモノトス、之ニ引替ヘ若シ是等ノ物件其者ヲ共同海損トシテ犧牲ニ供セラレタルトキハ、他ノ利害關係人ヨリ償還セララルノ權利アリ(同第六四五條)、

#### 第六 共同海損ノ分擔ヲ免ルヘキ場合



積荷ニシテ船荷証券若クハ其ノ價格ヲ知ルニ足ルヘキ他ノ書類ヲ具有セサルモノ(一)、  
 屬具ニシテ屬具目錄ニ記載セサルモノ(二)、沿岸ノ小航海ヲ除クノ外甲板上ニ積込ミタル  
 貨物(三)ハ、何レモ違法ニ屬シ適當ノ保護ヲ受クルノ資格ナキモノニシテ、是等ノ物件カ  
 共同海損トシテ犠牲ニ供セラル、コトアルモ、利害關係人ハ之ヲ分擔スルノ責ナシ、之  
 ニ反シテ是等ノ物件ノ所有者ハ他ノ物件ニシテ共同海損トシテ犠牲ニ供セラレタルトキ  
 ハ、他ノ利害關係人ト均ク損害分擔ノ義務ヲ免レサルモノトス(同第六四六條)、

其他貨幣、有價証券等ノ如キ高價ノ物件ヲ運送スルニ方リ、荷送人カ之カ運送ヲ委託  
 スル際其ノ種類及價格ヲ明告スルニ非サレハ、若シ途中ニ共同海損トシテ犠牲ニ供セラ  
 ル、コトアルモ、利害關係人ハ全然之ヲ賠償スルノ責ナシ(同第三三三八條準用)、

### 第七 積荷ノ價格ヲ偽ルトキノ制裁

若シ船荷証券其他ノ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價格ヲ記スルカ(一)、其ノ實價ヨリ高キ  
 價格ヲ記スルカ(二)、又ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ヲ偽リ記スルトキ(三)ハ、夫  
 々詐偽ノ所爲ニ對スル制裁的ノ精神ヲ以テ共同海損ニ關スル責任ヲ定メラルヘキモノニ

シテ、右(一)ノ場合ニハ積荷ノ被リタル損害高ヲ定ムルニ實價ヲ以テセスシテ其ノ記載シ  
 タル通りノ低價ニ依ルヘク、(二)ノ場合ニハ損害ヲ分擔スル割合ヲ定ムルニ同ク實價ニ依  
 ラス記載通りノ高價ニ依ルヘク、又(三)ノ場合ニモ是等ト同様ノ趣旨ヲ以テ處置セラレヘ  
 キナリ(同第六四八條)、

### 第八 共同海損ノ時効

共同海損ニ由リテ生シタル債權ハ、其ノ計算ヲ終了シタル時ヨリ起算シ、滿一ケ年ヲ  
 經過スレハ時効ニ依リ消滅スルモノトス(同第六五一條)、

### 第九 不可抗力ニ基因スル船舶碇泊費ノ負擔方

船舶ハ天災其他不可抗力ノ爲メ發航港ヲ出帆スルコトヲ得ス、又ハ航海ノ中途ニ於テ  
 豫定外ノ碇泊ヲ爲スコト往々有ルヘシ、是等ノ場合ニ要スル費用ハ共同海損ト同様ノ性  
 質ニ屬シ何人ニモ單獨ニ之ヲ負擔セシムルヲ得ス、須ク共同海損ニ關スル上記ノ規定ヲ  
 準用シテ船主、荷主等利害關係人ノ間ニ之ヲ分擔スヘキモノトス(同第六五二條)、

### 第十 單獨海損及小海損(Particular & Petty average)



(一) 是等ノ兩海損ハ上來説述セル共同海損ト合セ海損ノ三種トシテ學者ノ區別スル所ナリ、我カ海商法ニ於テハ單ニ共同海損ノミニ付テ規定シ是等ノ兩海損ヲ省キタルトモ、參考ノ爲メ茲ニ略説ヲ試ムヘシ、即チ單獨海損トハ任意ニ非スシテ生シ又ハ船舶若クハ積荷ノミニ生シタル損害及費用ヲ云フモノニシテ、船舶若クハ積荷ノ滅失毀損シタルトキハ船主若クハ荷主自身ノ損失ニ歸スヘク、又船舶若クハ積荷ノ瑕疵アリシ爲メ他ニ損害ヲ加ヘタルトキハ、船主若クハ荷主ニ於テ其ノ損害ヲ賠償セサルヘカラサル事ハ、畢竟民法ニ所謂不法行爲ノ原則ニ依リ明瞭ナリトス、

(二) 小海損トハ水先料、曳船料、避水入費、諸税、手數料、又ハ船舫機關ノ過度ナル使用ノ爲メ生シタル船舶ノ毀損ノ如キ、航海ノ通常及臨時ノ費用若クハ損害ヲ云フモノニシテ、是等ハ何レモ航海ノ費用ナルヲ以テ運送契約上當然ノ結果トシテ船主ノ負擔ニ歸スヘキモノトス、

### 第十一 船舶ノ衝突ヨリ生シタル損害

#### (一) 衝突ノ原因及損害負擔方

船舶ノ衝突タルヤ暴風、濃霧等ノ不可抗力ニ由ルコトアリ或ハ當事者ノ過失ニ基クコトアリ、其ノ原因區々ニシテ從テ是ヨリ生シタル損害ノ負擔方亦一定セスト雖モ、大約之ヲ左ノ四種ノ場合ニ區別シテ説明スルヲ得ヘシ、

#### (イ) 兩船何レニモ過失ナカリシ場合

天災其他不可抗力ニ由リ衝突ヲ惹起シタルトキハ、是レ双方俱ニ過失ノ責ムヘキモノナク、所謂一ノ不幸トシテ兩船ノ所有者各自其ノ受ケタル損害ヲ負擔セサルヘカラス、

#### (ロ) 兩船双方ノ過失ニ出テタル場合

双方ニ過失アリ爲ニ衝突ノ生シタル場合ニハ、兩船過失ノ輕重ニ應シ損害負擔ノ割合ヲ定ムヘシ、然レトモ双方過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ、須ク各船主ノ間ニ損害ヲ平分シテ之ヲ負擔セサルヘカラス(商法第六五〇條)、

(備考)

此ノ双方過失アルノ場合ニ付テハ列國ノ法令區々ニシテ一ナラス、茲ニ其ノ梗概ヲ示サンニ、先ツ英國知名ノ判事ストーウエル卿ノ説キタル所ニ依レハ、双方ニ咎ムヘキ際アリ衝突ヲ醸シタルトキハ、是レ兩船何レ







キ責任ノ程度ヲ噸數(總噸數ヨリ船員室ノ噸數ヲ差引キタルモノ)一噸ニ付八磅以下ト定メ、(第二)過失ナキ船舶ノ方ニ人命ノ死傷アリタルトキハ同一噸ニ付十五磅以下ト定メ、何レモ裁判手續ヲ經テ愈々其ノ金額ヲ確定セラヘキモノトス、

(二) 債權ノ時効

船舶ノ衝突ニ由リ生シタル債權ハ一々年ヲ經過スレハ時効ニ依リ消滅スルモノトス(商法第六五一條)、

第二十五章 海上保險

第一 海上保險契約 (Contract of Marine Insurance)

海上保險ハ損害保險ノ一種ニシテ其ノ保險契約ハ法律ニ所謂「航海ニ關スル事故」(Any cause connected with the voyage)即チ暴風、怒濤、膠沙、坐礁、觸氷、衝突、投荷、火災、機關破裂、海賊、強盜等ノ海難ノ爲ニ生シタル損害ヲ填補スルヲ以テ其ノ目的ト爲スモノニシテ、船舶、屬員、及積荷ノ如キ有形物ニ限ラス、貨物又ハ旅客ノ運送賃、貨物賣却ノ利益、問屋手数料、海損債權等ノ如キ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ無形ノ利益ヲモ亦保險ニ附スルコトヲ得ヘシ、蓋シ古代ニ在リテハ保險ハ或ル危險ノ爲メ損害ヲ受ケサル以前ノ現狀ニ回復セシムルヲ以テ原則トシ、從テ運送賃又ハ豫期スヘキ利益ノ如キハ保險ニ附スルコト能ハカリシモ、今日ニ至リテハ一層範圍ヲ進メ、航海ヲ無事終了セシナラハ斯ノ如クナリシナラント希望スヘキ位置ニ回復セシムルヲ以テ主義ト爲シ、運送賃ト云ヘ他ノ豫期スヘキ利益ト云ヘ悉ク保險ノ目的物ト爲ルコトヲ得ルナリ



(商法第六五三及三八五條)、

### 第二 海上保險証券ノ交附及記載事項

保險者 (Underwriter) ハ保險契約ヲ結ビタル後契約者ヨリ請求アレハ保險証券 (Policy of marine insurance) ヲ作成シ之ヲ交附スヘキモノニシテ、其ノ券面ニハ左ノ事項ヲ

記載シ且ツ保險者之ニ署名スルコト必要ナリ (同第四〇三及第六六一條)、

- 一、保險ノ目的物
- 二、保險者ノ負擔シタル危險
- 三、保險價格ヲ定メタルトキハ其ノ價格
- 四、保險金額
- 五、保險料及其ノ支拂ノ方法
- 六、保險期間ヲ定メタルトキハ其ノ始期及終期
- 七、保險契約者ノ氏名若クハ商號
- 八、保險契約ノ成立シタル年月日
- 九、保險証券ノ作成地及其ノ作成ノ年月日
- 十、船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニハ其ノ船舶ノ名稱、國籍及種類、船長ノ氏名、發航港、到達港、寄航港 (定メアルトキハ)
- 十一、積荷又ハ積荷ノ到達後ニ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニハ船舶ノ名稱、國籍及種類、船積港、陸揚港

### 第三 保險者ノ責任

#### (一) 保險者カ損害ヲ負擔スヘキ範圍

- イ、保險契約中ニ別段ノ定アル場合ノ外ハ、保險期間中保險ノ目的物ニ付テ航海ニ關スル事故即チ海難ノ爲メ生シタル一切ノ損害ヲ填補セサルヘカラス (同第六五四條)、
- ロ、戰爭其他ノ變亂ニ依リ生シタル損害ハ、特約アルニ非サレハ之ヲ填補スルヲ要セス (同第三九五條準用)、
- ハ、左ニ掲クル損害又ハ費用ハ填補スルノ責ナシ (同六六七條)、
  - 一、保險ノ目的物ノ性質 (玻璃、陶器、如キ) 若クハ瑕疵ヨリ由來シタル損害 (粗製ノ爆發、該目的物ノ自然ノ消耗ヨリ生シタル損害) 印刷機械) 又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ヨリ生シタル損害
  - 二、船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ際安全ナル航海ニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類 (國籍證書、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿、) ヲ備ヘサルヨリ生シタル損害
  - 三、積荷其物又ハ積荷ノ到達後ニ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ備船者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ヨリ生シタル損害



四、水先案内料、入港料、燈臺料、檢査料、挽船料、噸稅、其他船舶、積荷ニ關シ支拂ヒタル通常ノ航海費用

(ニ) 被保險者ノ支拂フヘキ共同海損ノ分擔額ヲ填補セサルヘカラス、尤モ保險價格ノ一部ヲ保險ニ付セル場合ニハ、其ノ割合ニ應シテ保險者ノ負擔ヲ定ム(同第六五五條)。

(ホ) 共同海損ニ非サル(即チ單獨海損ニ屬スル)損害又ハ費用ニシテ極テ些細ノモノナルトキハ、保險者ハ之ヲ支拂フコトヲ要セサル慣例ニシテ、右損害又ハ費用ノ金高カ其ノ計算費ヲ除キ保險價格ノ百分ノ二未滿ナルトキハ之ヲ填補スルノ責ナク、又百分ノ二ヲ超過シタルトキハ保險者ハ全額ヲ仕拂ハサルヘカラス、然レトモ是レ固ヨリ私益ニ關スル規定ナルヲ以テ、保險者、契約者ノ間ニ前示ト異ナル割合ヲ以テ約定シタルトキハ、契約自由ノ原則ニ依リ其ノ約定ヲ有効ト爲スヘキコト勿論ナリ(同第六六八條)

(ヘ) 總テ保險者カ填補スヘキ損害高ノ計算ニ關スル必要ノ費用ハ保險者ノ負擔トス

(同第三九三條第二項)。

(ト) 保險金額仕拂ノ義務ハ二ケ年ヲ期限トシ、之ヲ經過セハ時効ニ依リ消滅スルノ規則ナルヲ以テ(同第四一七條)、被保險者ハ海難ニ罹リタル後二ケ年以内ニ其ノ被リタル損害ノ填補ヲ保險者ニ請求セサレハ終ニ其ノ權利ヲ失フニ至ルヘシ、尤モ此ノ期限内ニ被保險者ヨリ請求アレハ時効繼續スルコト當然ナルカ故ニ、保險者ニシテ二ケ年間仕拂ヲ延滞セハ責ヲ免ルヘキモノ抔ト誤解セサルヲ要ス、

(二) 保險者責任ノ始期及終期

(イ) 船舶ノ一航海ニ付キ保險ヲ爲シタル場合ニハ、保險者ノ責任ハ荷物又ハ底荷(即チ壓艙物 *Ballast*)ノ船積ニ着手シタル時ニ始マルモ、已ニ是等ノ船積ヲ了リタル後ニ保險ヲ爲ストキハ、契約成立ノ時ニ始マルモノトス、而シテ責任ノ終ルハ荷物又ハ底荷ノ陸揚ヲ了リタル時ニ在リ、尤モ船主又ハ船長以下ノ過失若クハ怠慢ノ爲メ(即チ不可抗力ニ原因セスシテ)是等ノ陸揚ヲ延滞シタルトキハ、其ノ陸揚ノ當然了ルヘカリシ時ニ終ハルモノトセサルヘカラス(同第六五九條)。



(ロ) 積荷又ハ積荷ノ到達後ニ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險シタル場合ニハ、保險者ノ責任ハ其ノ積荷ノ陸地ヲ離シタル時ニ始マリ、陸揚港ニ至リテ其ノ陸揚ヲ了リタル時ニ終ハルモノトス、尤モ船主又ハ船長以下ノ過失等ノ爲メ陸揚ヲ延滞シタルトキハ前項ニ同シ(同第六六〇條)、

(三) 保險價格ノ定メ方

イ) 船舶ノ保險ナラハ、保險者ノ責任ノ始マル時ニ於ケル其ノ價格ヲ以テ保險價格トス(同第六五五條)、

ロ) 積荷ノ保險ナラハ、之ヲ船積シタル土地ニ於ケル其ノ時價ト船積并ニ保險ニ關スル費用(關稅、保險仲立、人手費料ノ如キ)トノ合算高ヲ以テ保險價格トス(同第六五七條)、

ハ) 積荷ノ到達後ニ得ヘキ利益若クハ報酬ノ保險ナラハ、契約中ニ別ニ定メサルトキハ實際ノ保險金額ヲ以テ保險價格ト看做ス(同第六五八條)、

(四) 保險者填補高ノ算定法

イ) 保險契約ニ於テハ保險金額カ保險價格ヨリ多キ場合ト少ナキ場合ト又兩者相均シ

キ場合トノ三アリ、而シテ兩者相均シキ場合ハ通例最モ多シト雖モ、保險金額カ保險價格ヨリ少ナシトテ別ニ差支ヲ見ス、單ニ兩者ヲ對比シ填補額ヲ定ムレハ可ナリ、然ルニ金額カ價額ヨリ多キニ至リテハ大ニ不都合ト謂フヘキモノニシテ、此ノ場合ニハ保險金額カ保險契約ノ目的物タル價格ニ超過シタル部分ニ付テ契約ハ全然無効ナリトス(同第三八五條)、

ロ) 保險ノ目的物タル積荷カ航海中毀損シナカラ陸揚港ニ達シタルトキハ、其ノ毀損シタル積荷ノ時價ヲ原狀ノ儘ナルトキノ時價ヨリ差引キ、其ノ割合ヲ以テ保險價格ノ一部ヲ填補スレハ可ナリ(同第六六九條)、

ハ) 航海中不可抗力ノ爲メ積荷ヲ賣却シタルトキハ、其ノ賣上高ヨリ運送賃其他ノ雜費ヲ差引タル金高ト保險價格トノ差額ヲ填補スレハ可ナリ(同第六七〇條)、

第四 保險契約者(又ハ被保險者)ノ義務

(一) 一定ノ保險料ヲ仕拂フ事

保險契約者又ハ被保險者 (The Insurer or the Insured) ハ契約上保險者ニ對シ一



定ノ保險料ヲ支拂ハサルヘカテサルハ勿論ニシテ、保險料支拂ノ義務ハ一ケ年ヲ過ク  
レハ時効ニ依リ消滅スルノ規則ナレトモ、保險者カ其ノ收ムヘキ保險料ヲ一年間モ不  
問ニ附スルハ稀有ノ事ニシテ、必スヤ此ノ期間内ニ督促ヲ爲スヘク、而シテ保險契約  
者又ハ被保險者カ保險者ヨリ督促ヲ受ケナカテ支拂ヲ延滞スルトキハ、仮令保險契約  
後一ケ年ヲ過クルトモ時効ニ依リ消滅スヘキ限リニ在ラス、督促ヲ受ケテヨリ更ニ一  
ケ年ノ後時効ニ罹ルモノナルヲ以テ、保險料ノ支拂ヲ一ケ年延滞スレハ之カ支拂ヲ免  
ル、モノト誤想スル勿レ、

(一) 保險ノ目的物ニ生シタル損害ヲ保險者ニ通知スル事

元來保險ノ目的物タル船舶又ハ積荷カ安全ニ目的ノ地ニ到達シ、何等ノ故障モナク  
保險期間ヲ經過シタルトキハ、保險契約者又ハ被保險者ハ保險者ニ向テ別ニ通知スル  
ヲ待タズ、其ノ契約ニ用ヒタル保險證券ハ一片ノ反古ニ歸スルモノナレトモ、若シ一  
タヒ海難ニ罹リ保險ノ目的物ニ損害ヲ生シタルトキハ、之カ變報ニ接スルヤ否ヤ猶豫  
ナク其旨ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス(同第四一二條)、

(三) 保險ノ目的物ニ對スル損害ノ防止ヲ力ムル事

被保險者又ハ保險ノ目的物ニ損害ヲ生スルニ當リ、之カ防止方ニ盡力シ可成其ノ損  
害ヲ輕減スルコトヲ努メサルヘカラス、尤モ之カ爲メ支出シタル必要ナリシ費用若ク  
ハ有効ナリシ費用ト損害ノ實際填補高トヲ合セ、假ヒ保險金額ニ超過スルトキニセヨ  
保險者ハ之ヲ負擔スヘキモノトス(同第四一四條)、例ヘハ船舶カ航海中船底ニ裂目ヲ  
生シ漏水ノ爲メ積荷ヲ濡損スルノミナラス、之ヲ等閑ニ附スルトキハ非常ノ損害ヲ生  
スルヤモ圖ラレサルニ於テハ、船長ハ直ニ相當ノ修繕工事ヲ施ササルヘカラス、此際  
該工事ノ爲メ支辨シタル若干ノ費用ト既ニ被リタル損害高トヲ合セ保險金額ニ超ユル  
コトアルモ、保險者ヨリ之ヲ負擔スヘキカ如シ、

(四) 保險者擔保ノ危險ノ變態ヲ保險者ニ通知スル事

保險契約者又ハ被保險者ハ、保險者擔保ノ危險カ著ク其ノ性質ヲ變スルカ若クハ著  
ク其ノ程度ヲ増シタルコトヲ知リタルトキハ、猶豫ナク其旨ヲ保險者ニ通知スルヲ要  
ス、若シ之ヲ怠ルトキハ保險者ヨリ右危險ノ變更若クハ増加ノ時以後契約ハ無効ニ歸



シタルモノト看做サル、モ已ムヲ得サルナリ（同第四一一條第二項）、

第五 保險契約中ノ事項カ變更シタルトキノ影響

(一) 航海ヲ變更シタルトキ

保險者ノ責任始マル前ニ航海ヲ變更シタルトキ、例ヘハ横濱ヨリ英國ニ至ル航海ヲ保險シタルニ、突然横濱ヨリ米國ニ航行セントスルトキハ、以前ノ保險契約ハ當然無効ニ歸シ、又保險者ノ責任始マリタル後ニセヨ途中ニ航海ヲ變更シタルトキハ、保險者ハ變更後ノ事故即チ海難ニ付キ責ヲ負ハスシテ可ナリ、尤モ航海變更ノ原因カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ナルトキ、即チ天災其他不可抗力ノ爲メ已ムヲ得ス航海ヲ變更セサルヘカラサリシトキノ如キハ、保險者ノ責任ハ依然存続スルモノト知ルヘシ（同第六六二條）、

其他到達港ヲ變更シ已ニ之カ實行ニ着手シタル以上ハ、海上ノ危險ヲ生スル土臺ニ變動ヲ來シタルモノナルヲ以テ、尙ホ未タ其ノ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ、已ニ航海ヲ變更シタルモノト同一ニ看做サル、モノトス（同上）、

(二) 航海ヲ遅延シ又ハ航路ヲ變更シタルトキ

被保險者カ契約通リ發航スルコトヲ怠リ若クハ中途ニ滞留シテ航海ヲ繼續スルコトヲ怠ルカ、又ハ豫定ノ航路ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ、事實上保險ニ係ル危險ヲ著ク變更若クハ増加シタルモノナルヲ以テ、保險者ハ其後ノ事故即チ海難ニ付テ責ヲ負フコトヲ要セス、尤モ航海ノ遅延、航路ノ變更等ノ爲メ危險ヲ變更増加シタリトスルモ、之カ爲ニ事故ヲ發生シタルモノニ非サルコト明白ナルトキイ、又ハ不可抗力其他正當ノ理由ニ依リ已ムヲ得ス航海ヲ遅延シ又ハ航路ヲ變更シタルモノナルトキロ、ハ保險者ハ固ヨリ契約上ノ責任ヲ免ルヘカラス（同第六六三條）、

(三) 船舶ヲ變更シタルトキ

積荷其物ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達後ニ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ附シタル場合ニ於テ、積荷ヲ運送スル船舶ノ大小強弱ハ危險ノ程度ニ大關係アルコト勿論ナルニ、若シ豫定ノ船舶ヲ他ノ船舶ト變更シタルトキハ、保險者ハ其後ノ事故即チ海難ニ付テ責ヲ負ハス、尤モ船舶ヲ變更シタル正當ノ事由アリテ、保險契約者又ハ被保險者



ノ責ニ歸スヘカラサルトキハ此限ニ在ラサルコト猶ホ前示(一)ノ場合ニ均シ(同第六六五條)、

其他保險契約中ニ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ豫メ定メ置カサル場合ニハ、保險契約者又ハ被保險者ハ愈々其ノ荷物ヲ船積シタル時ニ及ヘハ、猶豫ナク船舶ノ名稱及國籍ヲ保險者ニ通知スルノ義務アリ、若シ正當ノ理由ナクシテ此ノ通知ヲ怠ルトキハ保險契約ノ効力ヲ失フモノトス、是レ海上保險ニ於テ船舶ノ良否ハ保險者ニ取り重大ナル利害ノ關係ヲ有スルヨリ生スル自然ノ結果ナリ(同第六六六條)、

(四) 船長ヲ變更シタルトキ

保險ノ契約中ニ誰某ト船長ヲ指定セサルトキハ勿論、縱令之ヲ指定シタル上保險証券ニ該船長ノ氏名ヲ記載シタルトキト雖モ、其後船長ヲ變更シタリトテ契約ノ効力ニハ何等ノ影響ヲ及ホサスシテ、保險者ハ依然其ノ責任ヲ變スルコトナシ、蓋シ船長ノ變更ヲ以テ保險契約ノ効力ニ何等ノ影響ナキモノトスルハ各國法令ノ一致スル所ニテ、是レ保險契約ナルモノハ主トシテ船舶ニ重キヲ措キ之ヲ指揮スル船長ヲ輕視スル

カ如キ感アルモ、其實荷モ一定ノ海技免狀ヲ有スル船長ナル以上ハ、甲乙ヲ問ハス何レモ職務ニ堪能ナル人物ト看做シ其ノ變更ニ拘泥スルノ必要ナキヲ以テナリ、

(五) 保險價格カ著ク減少シタルトキ

保險價格カ保險期間中著ク減少シタルトキハ、保險契約者ハ保險者ニ向テ保險金額及保險料ヲ減少センコトヲ請求スルヲ得ヘシ、蓋シ保險價格ハ保險金額ヲ定ムル標準ニシテ、保險金額ハ亦保險料ヲ定ムル標準ナルヲ以テ、此ノ三者ハ常ニ釣合ヲ保タサルヘカラス、然ルニ保險價格カ或ル事由ノ爲メ非常ニ減却シタルトキハ、保險金額ハ保險價格ヲ超エ該金額ニ基キテ定メタル保險料ハ過大ト爲リ、保險契約者ノミ重大ノ負擔ヲ爲シ保險者獨リ不當ノ利益ヲ占ムルニ至ルヘシ、是レ保險契約者ノ爲メ右ノ如ク請求ノ權ヲ與ヘタル所以ニシテ、尤モ此ノ請求貫徹シテ保險金額并ニ保險料引下ケラル、ニ至ルモ、其ノ効力ハ既往ニ溯ラス獨リ將來ニ向テ有効ナルノミ(同第三九二二條)、

第六 保險契約ノ解除



(一) 保險契約者隨意ノ解除

保險契約者ハ一旦契約ヲ結ビタル後ト雖モ、保險者ノ責任カ始マル前ナラハ隨意ニ契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得ヘシ、尤モ此ノ場合ニハ契約取結ノ費用其他ノ手數料ヲ賠償スルノ目的ヲ以テ、保險者ハ其ノ返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ保險契約者ニ請求スルノ權アリ (同第四〇七及第四〇九條)、

(二) 保險者又ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

保險契約ハ一方ニ於テ保險者ハ損害填補ノ義務アリ、一方ニ於テ保險契約者ハ保險料支拂ノ義務アリ、双方ノ義務ヲ對立セシメタル契約ナルヲ以テ、孰レノ一方カ破産ノ宣告ヲ受クル等義務ヲ履行スルコト能ハサルニ至レハ、他ノ一方ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ、但シ破産ノ宣告ヲ受クルモ別ニ契約解除ノ必要ヲ認メサル以上ハ、後日ノ爲メ相當ノ擔保ヲ受取り相手方ノ義務ヲ確保セシムルモ隨意ナリトス (同第四〇五)、

(三) 保險者擔保ノ危險カ生セサルニ至リタルトキ

保險者ノ責任カ始マル前ニ保險ノ目的物ノ全部又ハ一部ニ付テ、保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラサル事由ノ爲メ、保險者ノ擔保シタル危險ノ生スル虞ナキニ至リタルトキ、例ヘハ橫濱ヨリ上海ニ至ル船舶ヲ保險ニ附シタル場合ニ、該船カ荷物等ノ船積ニ着手スルニ先ヲチ戰爭其他ノ事變ノ爲メ發航スルコト能ハサル場合ノ如キハ、即チ保險者ノ負擔シタル危險ノ會テ生スヘカラサルモノナルヲ以テ、保險者ヨリ保險料ノ全額又ハ一部ヲ返還スルヲ要ス、但シ此ノ場合ニモ保險者ハ返還スヘキ保險料ノ半額ヲ請求スルノ權アルコト前示(一)ニ同シ (同第四〇八及第四〇九條)、

(四) 保險者擔保ノ危險カ著ク變態シタルトキ

保險者ノ擔保シタル危險カ、保險期間中保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラセル事由ノ爲メ、著ク性質ヲ變更シタルカ若クハ著ク程度ヲ増加シタルトキハ、契約成立ノ要件ヲ失フニ至ルヘキヲ以テ、保險者ハ隨意ニ契約ヲ解除スルヲ得ヘシ、而シテ保險者カ右危險ノ變史又ハ増加ノ旨ヲ保險契約者又ハ被保險者ヨリ通知セラル、カ若クハ通知ナクモ自ラ之ヲ知悉シナカラ直ニ契約解除ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ、其ノ



解除權ヲ拋棄シテ契約ヲ承諾シタルモノト看做ス(同第四一一條第一、二項)、  
第七 保險契約ノ無効

(二) 保險契約ノ當時事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコト  
ヲ知レルトキ

保險契約ヲ結フノ際保險者、保險契約者若クハ被保險者ノ内孰レノ一方カ、海上ノ  
事故即チ海難ノ決シテ生スル虞ナキコトノ豫知シタルトキ、又ハ既ニ事故ノ生シタル  
コトヲ知リ居ルトキハ、保險契約ノ精神ヲ失フモノナルヲ以テ該契約ハ全ク無効トス  
(同第三九七條)、

(二) 保險契約ノ當時保險契約者カ事實ヲ偽リタルトキ

保險契約ヲ結フノ際各關係者互ニ誠意ヲ以テ事實ヲ開陳スヘキ義務アルコト當然ナ  
ルニ、保險契約者カ惡意ヲ以テ又ハ重大ナル過失ニ依リ重要ノ事實ヲ隱蔽シテ之ヲ告  
ケス、或ハ重要ノ事項ニ付テ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ、其ノ契約ハ無効ナリトス、  
尤モ保險者ニシテ既ニ其ノ事實ヲ詳知シ又當然知悉シ得ヘキモノナルトキハ、假令保



險契約者ヨリ改メテ告知セサルモ契約ハ依然効力ヲ存ス（同第三九八條）、

(三) 保險金額カ保險ノ目的物ノ價格ヲ超過シタルトキ

保險金額カ保險契約ノ目的物タル船舶、積荷、運送賃、其他豫期ノ利益ヲ合計シタル價格ニ超過シタルトキハ、其ノ超過シタル部分ニ付テハ契約無効ナリ（同第三八六條）、

(四) 保險ノ目的物ヲ他人ニ讓渡シタルトキ

被保險者カ保險ノ目的物ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ、同時ニ保險契約ニ依リ生スル權利ヲモ其者ニ讓渡シタルモノト看做スヘキコト理ノ當然ニシテ、此際右讓渡ノ爲メ保險者ノ担保シタル危険ヲ著ク變更シ又ハ増加シタルトキハ契約無効ナリ（同第四〇四條）、

(五) 保險者担保ノ危険カ保險契約者等ノ過失ノ爲メ著ク變態シタルトキ

保險者担保ノ危険カ保險期間中、保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ノ爲



メ、著ク其ノ性質ヲ變シタルカ若クハ著ク其ノ程度ヲ増加シタルトキハ、即チ契約成立ノ要件ヲ欠クモノナルヲ以テ保險契約ハ當然効力ヲ失フモノトス（同第四一〇條）、

第八 海上保險ノ種類（前述單獨保險ノ外）

(一) 再保險(Re-Insurance)

是レ保險者カ自己ノ引請ケタル保險金額（危險）ノ一部若クハ全部ヲ他ノ保險者ニ引請ケシメテ第二ノ保險者ト爲シ、一朝海難ノ起ルコトアルモ各自ノ責任ヲ輕減シ負擔ノ金高ヲ平均セシムルコトヲ期スルモノナリ、元來再被保險ハ原保險者（即チ第二ノ被保險者）ト再保險者トノ間ノ保險契約ニシテ被保險者（即チ第一ノ被保險者）ノ毫モ關係ナキモノナルヲ以テ、右原保險者ニシテ萬一破産シタルトキニ海難ノ起ルコトアラシニハ、被保險者ハ全部ノ填補ヲ受クルヲ得ス、唯、再保險者ヨリ原保險者ニ支拂フヘキ填補金ニ就キ、他ノ債權者ト共ニ之ヲ分配スルヲ得ルニ過キサルノミ、

(二) 共同保險(Co-Insurance)

是レ一ノ目的物ニ對シテ二人以上ノ保險者カ保險ヲ引請グルモノニシテ、各保險者



ノ間ニ連帶ノ責任アルニ非ス、唯、各自引請ケタル金額ニ對シ填補ノ責ヲ負フヘキノミ、此ノ場合ニハ英國「ロイド」協會ノ保險ノ如ク、一葉ノ保險證券ニ各自ノ引請高ヲ記入シ之ニ署名スルモノアリ、或ハ幾多ノ保險者各別ニ保險證券ヲ發行スルモノアリトス、

### (三) 重複保險(Double-Insurance)

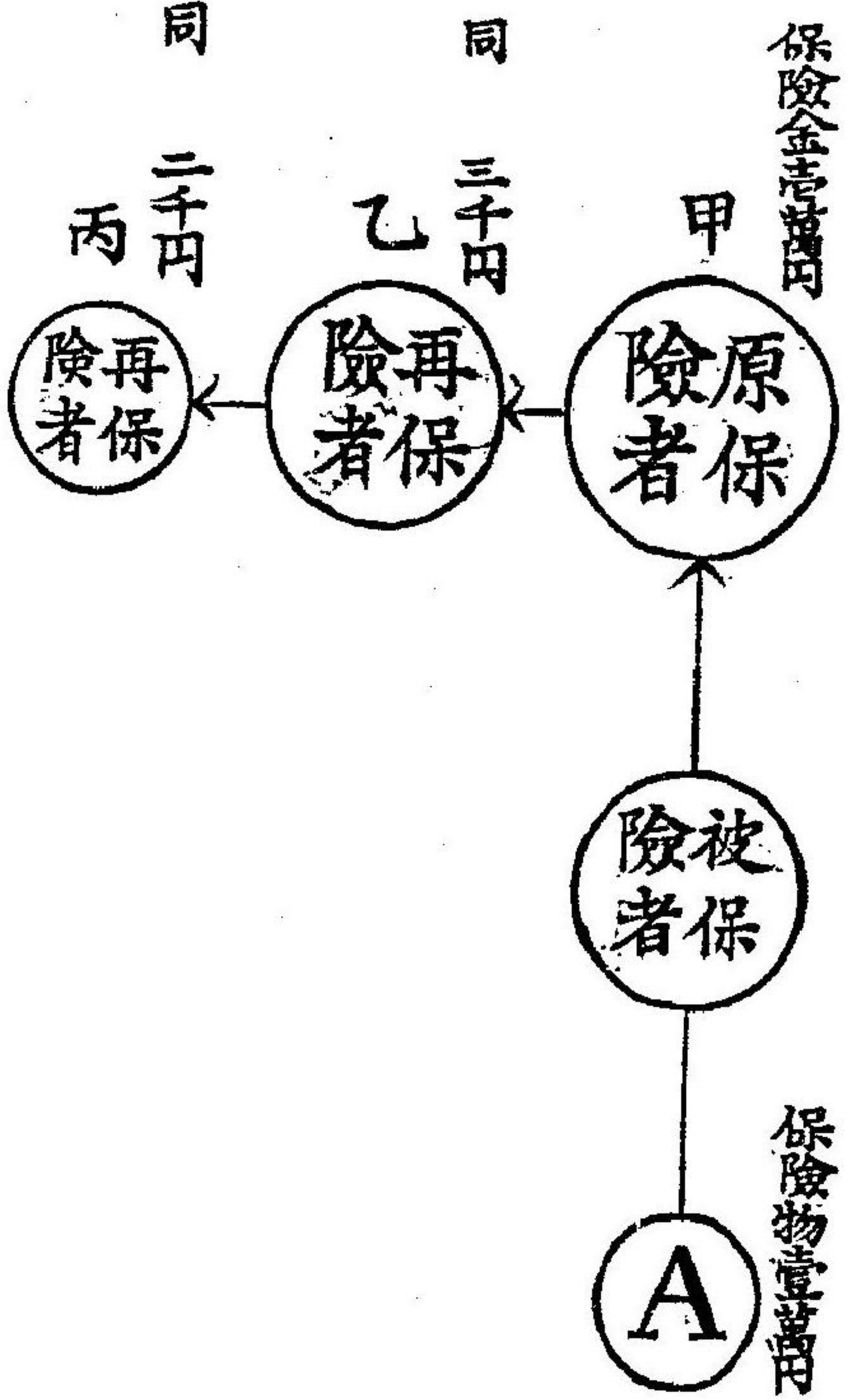
是レ同一ノ目的物ニ對シ同日又ハ異日ニ保險價格ニ達スルマテノ保險ヲ二重ニ付スルモノニシテ、例ヘハ積荷輸出地ニ於テ荷送人カ既ニ保險契約ヲ結ヒタルモ、其ノ輸入地ニ於テハ之ヲ知ラスシテ荷受人ヨリ更ニ之ヲ第二ノ保險ニ付シタルカ如キ是ナリ、而シテ同時ニ斯ル重複保險ヲ結ヒタルトキハ、各保險者ノ負擔ハ各自ノ保險金額ノ割合ニ依リ之ヲ定ムヘキコト當然ナレトモ(商法第三八七條)、若シ契約ノ時日ヲ異ニスルトキハ、前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ、是ヲ以テ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルニ至リ、後ノ保險者之ヲ負擔スヘキモノトス(同第三八八條)、

### (四) 以上三保險ノ圖解



尙ホ茲ニ以上三種ノ保險法ニ付テ其性質ヲ明ニセンカ爲メ、被保險者ト保險者トノ關係ヲ圖解スヘシ、

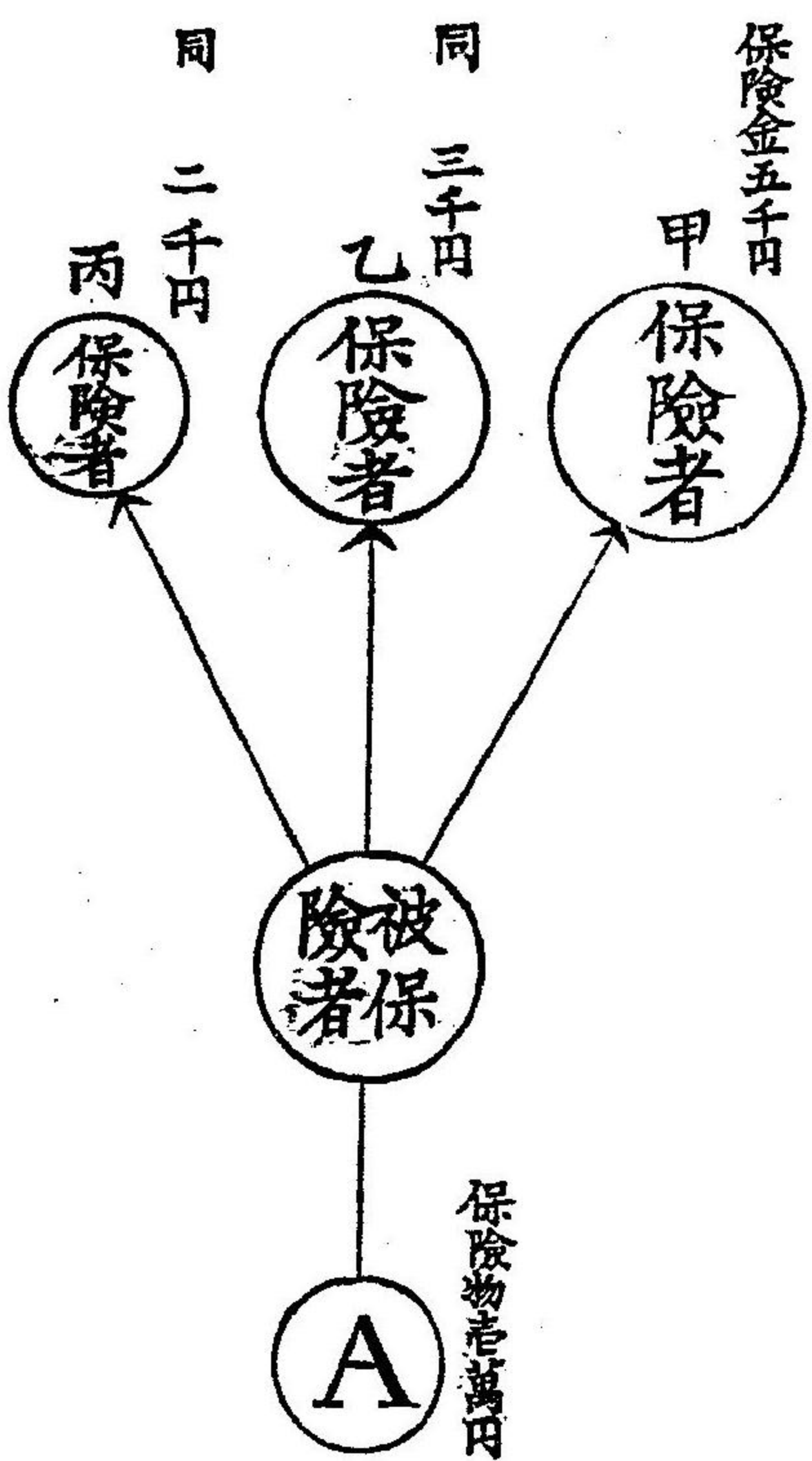
○再保險



以上ハ被保險者カ保險ノ目的物タルAニ付キ、保險金額壹萬圓ヲ以テ甲ト保險契約ヲ結ヒタルニ、甲ハ其内三千圓ヲ乙ニ再保險セシメ、乙亦内二千圓ヲ丙ニ再保險セシメタル場合ヲ示スモノニシテ、權利ノ關係ハ矢符ヲ以テ表ハス如ク、被保險者ハ甲ナル原保險者ニ向ヒ直接ニ壹萬圓ヲ請求スルノ權アルモ、乙ニ向テハ甲ヲ經テ丙ニ向テハ乙ヲ經タル上ニ非サレハ、其ノ分担額ヲ受領スルヲ得サル

モノトス、

○共同保險

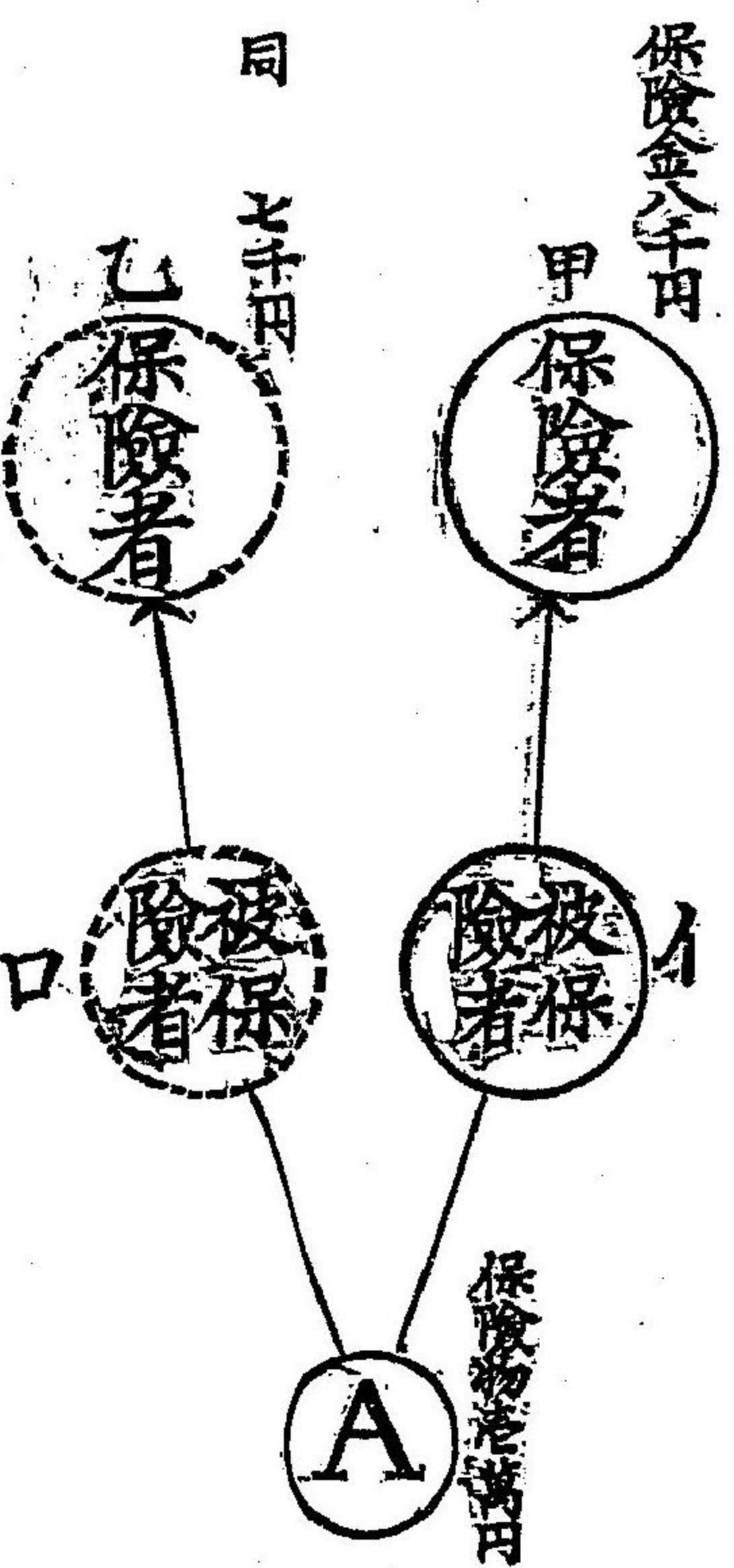


以上ハ甲乙丙ノ三保險者相共同シテ保險ノ目的物Aニ付キ、記載ノ金高ヲ分担スルノ場合ヲ示スモノニシテ、各自被保險者ニ對スル責任ハ、其ノ分担シタル金高ノミヲ填補スルノミニシテ互ニ連帶ノ責ナシ、

○重複保險

以上ハ(イ)ノ兩被保險者カAナル同一目的物ニ付キ、甲乙ノ兩保險者ニ重複ニ保險ヲ付シタル場合ヲ示スモノニシテ、(ロ)同時ニ甲乙ト契約ヲ結ヒタルトキハ、甲乙ハ





其ノ保険金額ニ應シテ負担スルノ責アレトモ、若シ甲(イ)間ノ契約カ乙(ロ)間ノヨリ早キトキハ、甲先ツ損害ヲ填補シ然ル後乙ハ其ノ不足分ヲ負担スヘキノミ、

第九 委付 (Abandonment)

(一) 委付トハ何ソヤ

元來保険契約ハ賠償契約ノ一種ニシテ、保険者ハ其ノ担保シタル危険ノ範圍内ニ於テ、被保険者カ實際被リタル損害ニ限り填補スルノ原則ナレトモ、獨リ海上保険ニ於テハ保険ノ目的物タル船舶又ハ積荷カ、殆ト全損ニ近キ大損害ヲ受ケ或ハ敵船ニ捕獲セラレ若クハ官府ノ爲メ押收セラレテ解放ノ時期不明ナルトキノ如キハ、被保険者ハ保険ノ目的物ニ付キ一切ノ權利ヲ保険者ニ委付シテ、保険金額ノ全部ヲ受取り得ヘキ

便法アリ、即チ委付ノ主義ハ被保険者ノ利益ヲ保護スル精神ヲ以テ設ケラレタルモノナリ、

(二) 委付ヲ爲シ得ヘキ場合

茲ニ船舶又ハ積荷ニ付キ委付ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ヲ擧クレハ左ノ如シ(商法第六七一、二及三條)、

- 一、船舶カ沈没シタルトキ
- 二、船舶ノ行衛知レサルトキ即チ六ヶ月ヲ過クルモ其ノ存否不明ナルトキ
- 三、船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ  
但シ船長カ猶豫ナク他船ニテ積荷ヲ運送シタルトキハ被保険者ハ其ノ積荷ヲ委付スルヲ得ス
- 四、船舶又ハ積荷カ敵ノ艦船ニ捕獲セラレタルトキ
- 五、船舶又ハ積荷カ本國又ハ外國官衛ノ命令ニ依リ押收セラレ六ヶ月ヲ過クルモ解放セラレサルトキ

(三) 委付ノ手續

(イ) 被保険者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ、船舶ノ沈没、捕獲等其ノ事故ノ有リシコトヲ知リタル時ヨリ三ヶ月以内ニ其旨ヲ保険者ニ通知セサルヘカラス、但シ再保



險ノ場合ニハ原保險者即チ第二ノ被保險者カ、自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ起算シ三ヶ月以内トス、

(ロ)被保險者ハ委付ヲ申込ムノ際、保險者ニ向テ保險ノ目的物ニ關スル他ノ保險契約ト被保險者ノ負担ニ屬スル債務トノ有無、并ニ其ノ種類ヲ通知スルノ義務アリ、而シテ保險者ハ此ノ通知ヲ受クルマテ保險金額ヲ支拂フヲ要セス、又保險金額ノ支拂期間ヲ幾ケ月間ト定メタルトキハ、保險者ハ右ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ起算スルモノトス(商法第六七八條)、

(ハ)其他被保險者カ愈々委付ヲ爲シタル上ハ、保險ノ目的物ニ關スル證書、即チ積荷ヲ委付シタル場合ナラハ船荷證券其他ノ證據書類ヲ、又船舶ヲ委付シタル場合ナラハ其ノ所有權ヲ確ムヘキ證書等ヲ保險者ニ交附シ、以テ保險者ヲシテ委付ニ依リ其ノ得タル權利ヲ行使セシムルヲ必要トス(同第六七七條第二項)

#### (四)委付ノ結果

(イ)被保險者ヨリ一タヒ委付ヲ申込ミタルトキハ、茲ニ委付ノ効力ヲ生シ、保險者ハ

之カ結果トシテ保險ノ目的物ニ付キ被保險者カ是迄有シタル一切ノ權利ヲ取得スルモノトス(同第六七七條第一項)、

(ロ)保險者カ一旦被保險者ノ委付ヲ承認シタル上ハ、保險金額ノ全部ヲ被保險者ニ支拂フノ義務アリ、後日ニ至リ何等ノ異議ヲ申述フルコトヲ得サルハ當然ナレトモ(同第六七六條)、若シ其ノ委付ヲ最初ヨリ不當トシメ承認ヲ與ヘサルトキハ、被保險者ハ已ムヲ得ス更ニ進テ委付ヲ爲スニ至リタル原因ヲ證明スルノ責アリ、此ノ證明ニシテ成立スルニ非サレハ保險金額ヲ請求スルコトヲ得サルモ、一タヒ成立スレハ保險者ニ向テ飽マテ該金額ノ支拂ヲ強要スルコトヲ得ヘキモノトス(同第六七九條)、

## 帝國海事總覽 終



# 帝國海事總覽附錄

## 第一 本邦海事法令一覽

○船 舶

法 令	種 類	公 布 期 日	實 施 期 日
船 舶 法	法 律	三、三、七	三、三、七
全 船 施 行 細 則	遞 信 省 令	三、六、三	三、六、三
船 舶 檢 查 法	法 律	三、四、六	三、六、一
全 船 施 行 細 則	遞 信 省 令	三、五、五	三、六、一
船 舶 檢 查 規 程	全	三、六、九	全
全 船 手 續	全	全	全
船 鑑 札 規 則	全	三、三、五	三、三、一
全 船 施 行 手 續	全	三、三、三	全
船 舶 積 量 測 度 規 則	布 告	一、七、四、三、四	一、七、七、一
全 方 法 布 達 全	全	全	全
航 海 獎 勵 法	法 律	二、九、三、三	二、九、一〇、一
全 施 行 細 則	遞 信 省 令	二、九、九、五	全
造 船 獎 勵 法	法 律	二、九、三、三	全
同 施 行 細 則	遞 信 省 令	二、九、五、五	全
造 船 規 程 (正改)	全	三、四、〇、三	三、六、一
船 舶 登 記 規 則	救 令	三、六、五、三	三、六、一
船 舶 登 記 取 扱 手 續	司 法 省 令	全	全
臺 灣 船 籍 規 則	律 令	三、五、三	三、七、一
同 施 行 細 則	府 令	三、六、三	全
臺 灣 船 舶 積 量 測 度 規 則	全	全	全

附 錄



法令	種類	公布日期	實施日期	法令	種類	公布日期	實施日期
臺灣汽船檢查規則	府令	三、六、七	三、一〇、一	臺灣沿海通航規則	府令	三、七、二	
全施行細則	府令	全	全	取道移住民渡航規則	內務省令	三、八、二六	

○船員

船舶職員法	法律	三、三、七	三、三、六	船舶職員法	法律	三、四、六	三、三、七
全施行細則	遞信省令	三、六、三	全	海員試驗規程	遞信省令	三、五、四	全
水先人試驗規程	遞信省令	三、七、九	全	海技免狀取扱規則	全	三、一〇、八	三、一、一
全施行細則	遞信省令	全	全	海員懲戒法	法律	三、九、四	三、三〇、七
水先人試驗規程	全	全	全	海員審判所事務章程	敕令	三〇、六、二	全

○港灣及航海

開港々則	敕令	三、七、七	三、三、一〇	神戶港規程	港務局告示	三、一〇、二	三、一、一
全施行細則	遞信省令	三、六、二	全	長崎港規程	全	三、一〇、三	全
橫濱港規程	港務局告示	三、九、二〇	三、一〇、一〇	航路標識條例	勅令	三、一、一	全
				臺灣航路標識規則	臺灣總督府令	三、五、二	

○官制

商法海商編	法律	三、三、七	三、三、六	臺灣噸稅規則	律令	三、七、三	三、八、四
海上衝突豫防法	全	三、六、三	三、六、一	臺灣稅關規則	全	全	全
噸稅法	全	三、三、三	三、三、八	海港檢疫法	法律	三、三、三	全
全施行細則	敕令	三、六、九	全	海港檢疫法施行規則	內務省令	三、七、三	全
關稅法	法律	三、三、三	三、三、八	船舶檢疫規則	全	三〇、七、九	全
全施行細則	敕令	三、六、九	全	全手續	訓令	三、七、四	
關稅定率法	法律	三、三、六	三、三、一	水難救護法	法律	三、三、八	三、三、八
保稅倉庫法	全	全	三〇、七、一	全施行細則	內務省令	三、七、九	全
全施行細則	敕令	全	全	水難救護法取扱手續	訓令	全	全
稅關假置場法	法律	三、四、五	三、五、一	危害物品船積規則	布告	六、八、九	全
全施行規則	敕令	全	全				

海軍局官制	敕令	三、六、四	三、六、六	商船學校規程	文部省令	三、二、五	三、四、一
港務局官制	全	三、七、四		海港檢疫所官制	勅令	三、四、三	
稅關官制	全	三、四、二		臨時全	全	三、三、七	



第二 海軍上重要事件ノ紀念日

西曆  
紀元

二〇〇年 神功皇后三韓征伐

六五三年 阿部比羅夫舟師百八十隻ヲ以テ蝦夷ヲ定メ肅慎ヲ討ツ

一、一八五年 源平擅浦ノ海戰

一、二六〇年 航海用羅針盤ノ發明

一、二八一年 元寇十萬（戰船四千隻）ノ兵ヲ筑紫海ニ塵ニス

一、四七七七年 時辰儀ノ發明

一、四八六年 喜望峯ノ發見

一、四九二年 亞米利加ノ發見

一、五〇〇年 此ノ時代ハ足利ノ世ニ方リ九州、四國、南海ノ邊民船舶ヲ織裝シテ朝鮮支那ノ海岸ニ進ミ海賊的ノ行爲ヲ擅ニセリ所謂「八幡船」是ナリ

一、五〇八年 英國始テ海上保險ヲ興ス

一、五一三年 太平洋ノ發見

一、五四一年 葡萄牙人豊後ニ來テ大友氏ト互市ス是レ我國歐洲貿易ノ端緒ナリ

一、五五〇年 六分儀ノ發明

一、五五八年 英國ニテ始テ新聞ヲ發刊ス

一、五九二年 豊大閣朝鮮ヲ征伐ス

一、六〇一年 濠洲ノ發見

一、六〇七年 此ノ年代ハ徳川氏慶長年間ニ方リ凡ソ二百隻ノ外航船呂宋、安南、暹羅、東京等ノ南海二十餘國ニ出入シ盛ニ貿易ヲ營メリ之ヲ「朱印船」ト稱ス

一、六〇九年 我國始テ和蘭ト貿易ヲ開ク

一、六一六年 我國始テ英人ト通商ス

一、六三六年 寛永十三年海禁政畧ヲ斷行シ邦民及船舶ノ外國ニ渡航スルヲ禁シ且ツ五百石以上ノ船舶ヲ造ルヲ禁ス

一、六三九年 外國船ノ入航ヲ禁ス（支那和蘭ノ二國ニ限り許ス）



西曆一、六六三年 蒸汽罐ヲ始テ製造ス

一、七〇〇年 リヴァプールニ始テ船渠ヲ設ク

一、七一四年 蒸汽機關ヲ始テ製造ス（或ハ曰ク一、六八一年ト）

一、七六七年 航海曆ノ發刊

一、七八二年 北米合衆國ノ獨立

一、七八八年 英人始テ濠洲ニ殖民ス

一、七九〇年 水管式汽罐ヲ始テ汽船ニ應用ス（一八四四年始テ低壓ニテ成功シ一八七三年始テ高壓ヲ用ヒタルモ失敗セリ）

全 年 英國タイン河口ニテ始テ救命艇ヲ使用ス

一、七九六年 水壓機關ノ創造

一、八〇〇年 今後十八年間伊能忠敬翁本邦沿岸ノ實測圖ヲ製ス

一、八〇一年 汽船ヲ始テ實用ニ供ス

一、八〇五年 トラファルガーノ大海戰

一、八一五年 テームス河上ニ始テ蒸汽船ヲ走ラス

一、八一六年 英國始テ商業會議所ヲ設ク

一、八一八年 汽船始テ大西洋ヲ航海ス

全 年 小形ノ鐵船ヲ始テ製造ス

一、八二四年 英國水難救濟會ノ設立

一、八二五年 汽船始テ印度ニ航海ス

一、八三三年 表面冷汽機ノ發明

一、八三四年 「ロイド」世界船名錄始テ發刊ス

一、八三六年 暗車汽船ヲ始テ製造ス（「アーキメデス」號）

一、八三八年 英國ニテ蒸汽軍艦ノ製造

一、八四〇年 彼阿會社ノ設立

一、八四一年 英國始テ鐵製汽船ヲ造ル（但シ最初ノ大鐵船「グレート・アリオン」號ハ一八四〇年ニ竣成セリ）

全 年 二聯成汽機ヲ始テ外車船ニ應用ス

一、八五二年 ペルリ提督我國ニ來テ國書ヲ呈ス



西曆

- 一、八五二年 大船製造ノ禁ヲ解ク
- 一、八五四年 白地ニ日ノ丸ヲ以テ日本船舶ノ旗章ト定ム
- 一、八五八年 大西洋ニ始テ海底電線ヲ通ス
- 全 年 英、米、佛、露、蘭、五國ト仮條約ヲ結フ
- 一、八五九年 長崎、函館、横濱ノ開港
- 一、八六〇年 始テ使節ヲ米國ニ派遣ス
- 全 年 日本軍艦咸臨丸始テ大平洋ヲ横切ル
- 一、八六四年 横須賀造船所ノ設立
- 一、八六五年 二聯成汽機ヲ始テ暗車船ニ應用ス(此ノ汽機ヲ以テ始テ大西洋ヲ航海シタルハ一八六九年ナリ)
- 一、八六六年 兵庫ノ開港
- 一、八六九年 蘇西運河ノ開通
- 一、八七〇年 日本ニテ汽船製造(此ヨリ數年前ニ製造アリシト雖モ今之ヲ詳ニセス)
- 一、八七一年 英國「ロイド」協會法律ニ依テ法人ト認メラル

- 一、八七三年 三聯成汽機ヲ始テ製造ス
- 一、八七五年 三菱會社及三菱商船學校ノ設立
- 一、八八〇年 日本海員救濟會ノ創立
- 一、八八一年 双暗車船始テ大西洋ヲ航行ス(始テ使用シタルハ一八〇四年ナリ)
- 一、八八二年 三菱商船學校ヲ商船學校ト改名シ政府ノ管轄ニ歸ス
- 一、八八四年 大阪商船會社ノ設立
- 一、八八五年 日本郵船會社ノ設立(三菱會社ト共同運輸會社ト合併シタルモノナリ)
- 一、八八九年 旭日ノ軍艦旗新ニ定メラル
- 一、八九〇年 大日本帝國水難救濟會ノ創立
- 一、八九四年 黄海ノ大海戰
- 全 年 米國海軍ニテ始テ三暗車式ヲ創製ス
- 一、八九六年 日本郵船會社歐、米、濠、三大航路ヲ開始ス

歐洲ロンドン行 土佐丸 三月十九日 横濱出帆







國名	汽船隻數	合計		國名	汽船隻數	合計	
		隻數	總噸數			隻數	總噸數
波	13	3	1,084	其他ノ諸國	119	48	24,917
ス	2	3	1,559	計	132	52	26,001
ラ	1	3	1,084				
ワ	1	3	1,084				
ク	1	3	1,084				

(備考)

- 一、表中「其他ノ諸國」トハアラビヤ、サルヴアドー、チマン、エクアドー、リベリア、サモス、ニカラガ、バルガリヤ、コスタリカ、エチプト等トス
- 二、噸數ハ汽船ニ付テハ總噸數、帆船ニ付テハ純噸數トス
- 三、北米大湖ヲ航行スル木造船ハ之ヲ省ク

### 第四 世界主要汽船會社表(明治三十二年)

會社名	本店所在地	資本金	隻數	登簿噸數	十二海里以上 ノ快速船隻數
漢堡亞米利加會社	獨逸 ハムブル	六五,000,000馬	七	三三,七三三	一七
北獨ロイド會社	全 アムステル	八〇,000,000馬	五	三三,三八九	五
英領印度會社	英國 レン	六九四,八〇〇馬	一〇	一八,一七三	一
彼阿會社	全 倫敦	三三〇,〇〇〇馬	五	一五,七五〇	五
日本郵船會社	日本 東京	三三〇,〇〇〇馬	七	一三,九二一	三

白星線(イスメール) イムリール會社	英國 ヴァブール	六〇,000,000馬	三	二九,三三〇	三
エム、エム會社	英國 バ		八	二七,八七四	四
トーマス、ウヰルソン商會 ナビガチオ子、ゼ子ラル、イ タリアナ	英國 ハ		二	二二,三九一	二
埃ロイド會社	英國 ロ	一三六,000,000馬	九	一〇,〇四〇	三
漢堡南米汽船會社	獨逸 ハムブル	一一五,〇〇〇馬	六	八,七三六	二
バシフィック會社	英國 ロ	一四七,二二五馬	六	八,七三六	二
チャールレンテ會社	全 ロ		三	七,六六六	四
キユリードナルド會社	全 ロ		二	七,二三〇	三
コムパニー、ゼ子ラル、トラ ンスアトランチカ	英國 ロ		二	六,六二七	一
フシアニック會社	英國 ロ		二	六,〇九〇	四
キユナード會社	全 ロ		二	六,九八八	二
ユニオン會社	全 ロ	一,〇〇〇,〇〇〇馬	二	六,八四五	二
ノットゼームス會社	英國 ロ	六九八,四一〇馬	二	六,四〇七	一
露西亞汽船會社	露國 ロ		四	五,〇七六	五
コムパニア、トランスアト ランチカ	露國 ロ		七	五,〇三三	一
新西蘭ユニチン汽船會社	英國 ロ	四七三,八四〇馬	五	四,三六七	一



會社名	本店所在地	資本金	隻數	登簿噸數	十二海里以上 快走船隻數
アメリカン、ライン	英國 敦		二	四三、〇三	六
フォレチダ汽船會社	丁抹倫 敦		五	三八、三〇	三
露西亞義勇艦隊	露國 彼得堡		一三	三、八〇五	二

(備考)  
表中會社所有汽船中二百噸以下ノモノ之ヲ除ク

第五 本邦内外定期航路表 (但シ政府ノ補助ヲ受クルモノ)

航路	中間寄航地	航海回数	使用船	補助金	補助期間	營業者
遠洋航	歐州線 (安士府線) 嘉坡、(馬耳塞)、(ミッド)	壹ヶ年拾貳 六航海週 貳壹	拾貳隻 六千噸以上	二、六七三、八九四	拾ヶ年 三三、一一 至四、二二	日本郵船會社
洋航	香港、上海、長崎、神戶、橫濱、	壹ヶ年拾參 四航海週 壹	參隻 六千噸以上	六五四、〇三〇	拾ヶ年 三三、一一 至四、二二	日本郵船會社 (未定)
航	香港、上海、長崎、神戶、橫濱、	壹ヶ年拾貳 四航海週 壹	參隻 六千噸以上	一、〇三三、八八〇	拾ヶ年 三三、一一 至四、二二	東洋汽船會社

路	近	海
橫濱線 (メルホルン) (濠洲線) 神戶、(門司)、長崎、香 港、(マニラ)、サウスア リス、タウンス、スワ、井、ブ リス、ベン、シドニー	神戶、(門司)、長崎、香 港、(マニラ)、サウスア リス、タウンス、スワ、井、ブ リス、ベン、シドニー	神戶、(門司)、長崎、香 港、(マニラ)、サウスア リス、タウンス、スワ、井、ブ リス、ベン、シドニー
壹ヶ年拾貳 航海週 壹	壹ヶ年拾貳 航海週 壹	壹ヶ年拾貳 航海週 壹
參千五百噸 以上	參千五百噸 以上	參千五百噸 以上
五、五、六、五、七	五、五、六、五、七	五、五、六、五、七
月四ヶ年六ヶ 月二九、一〇 至三、三	月四ヶ年六ヶ 月二九、一〇 至三、三	月四ヶ年六ヶ 月二九、一〇 至三、三
日本郵船會社	日本郵船會社	日本郵船會社











船名	總噸數	航洋航力	製造年	航路
Oceana	六六〇三	一七五	一八八八	(ブリンヂシ、ポートセッド、 亞丁經由)
Victoria	六五三五	一七五	一八八八	
Britania	六五三五	一七五	一八八八	(彼南、新嘉坡經由)
Rome	五五五五	一六〇	一八八二	
Massilia	五〇三六	一五〇	一八八四	コロンボ、香港間
Ballaarat	四八九〇	一四五	一八八三	
Parramatta	四八八六	一四五	一八八三	(彼南、新嘉坡經由)
Bengal	四六五六	一四五	一八八五	
Chusan	四六三六	一四五	一八八四	香港橫濱間
Coromandel	四六五三	一四五	一八八五	
Valetta	五〇三三	一四五	一八八三	(長崎、神戸經由)
Rohilla	三、五〇〇	一四〇	一八八〇	
Rosetta	三、四一一	一四〇	一八八〇	

(備考)

倫敦橫濱間貳週壹回、定期ニシテ表中ニ示セル船舶ハ時々變更スルコトアリ

(一)佛國「ムム、ムム」汽船會社 (M. M. S. S. Co.)

船名	總噸數	航洋航力	製造年	航路
Indus	六、三三〇	一七〇	一八九七	馬爾塞ヨリ「ポートセッド、 スエス、亞丁、コロンボ、新 嘉坡、サイゴン、香港、上海 ヲ經テ長崎、神戸、橫濱ニ至 ル
Laos	ク	ク	一八九六	
Tonkin	ク	ク	一八九八	
Annam	ク	ク	一八九九	
Farnest-Simons	四、五三二	ク	一八九三	
Oceanien	四、二六〇	一三五	一八八四	
Salazie	四、二五五	ク	一八八三	
Yarra	ク	ク	ク	
Sydney	四、三三三	ク	ク	

(備考)

馬爾塞、橫濱間貳週壹回

(三) 北獨「ロイド」汽船會社 (N. D. L. S. S. Co.)

船名	總噸數	航洋航力	製造年	航路
Konig Albert	一〇、〇〇〇	一五〇	一八九九	



船 名	總噸數	航洋速力	製造年	航 路
Prinz Heinrich	六二六三	一五五	一八九四	「ブレイメン及ハムブルヒ」ヨリ「アントウェルプ、サッムプトン、ゼノア、ネーデル、ポルトセッド、スエス、亞丁、コロムボ、彼南、新嘉坡、香港、上海ヲ經テ長崎、神戸、横濱ニ至ル
Preussen	五二九五	一四五	一八八六	
Sachsen	五〇三六	一四五	一八八六	
Bayern	五〇三四	一四五	一八八六	
Karlsruhe	五〇五七	一三〇	一八八九	
Odenburg	五〇〇六	一三〇	一八九〇	
Stuttgart	五〇四八	一三〇	一八九	
Weimar	四九六六	一三〇	一八九一	
Princess Irene				
Hann burg				
Kiantschou	一〇六〇〇	一五五	一八九八	

(備考)

ブレイメン  
ハンブルヒ

横濱間貳週壹回

表中最終ノ二隻ハ「ハムブルヒ」アメリカ會社ニ屬ス

○米亞線

〔一〕加奈陀「シー・シー」鐵道會社 (C. P. R. Co.)

船 名	總噸數	航洋速力	製造年	航 路
Empress of China	五九〇五	一六五	一八九一	「ヴァンクラーヴァー」ヨリ「ザクトリヤ」横濱、神戸、長崎ヲ經テ上海、香港ニ至ル
India	五九〇五	一六五	一八九一	
Japan	五九〇五	一六五	一八九一	

(備考)

ヴァンクラーヴァー、香港間(夏季)參週壹回(冬季)四週壹回  
本會社汽船ハ加奈陀太平洋鐵道ト接続ス

〔二〕米國「タコマ」「エヌ、ビー」汽船會社 (N. P. S. S. Co.)

船 名	總噸數	航洋速力	製造年	航 路
City of Dublin	三三三八			「タコマ」香港間
Breconshire	三五六〇			
Tacoma	二八二一			



船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Glenagle	三,七五〇			(ウ) 香港、上海、橫濱、神戶、 上海經由 (ボ) 神戶、上海、香港間 (横濱、神戶、上海經由)
Good wine	四,四三二			
Abergeldie	三,七五七			
Monmouthshire	二,八二七			

(備考)

本會社ハ「カレゴン」鐵道航海會社ト共同シテ「タコマ」香港間ト「ホルトランド」香港間トノ二線ヲ航海シ  
 「タコマ」線ハ大約二週壹回「ホルトランド」線ハ四週壹回往復スルカ如シ  
 「タコマ」ニ於テハ北太平洋鐵道ト「ホルトランド」ニ於テハ「カレゴン」鐵道ト接続ス

(三) 米國桑港「ビー、エム」汽船會社 (P. M. S. S. Co.)

船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
China	四,九四〇	一七	一八八九	桑港ヨリ布哇、橫濱、神戶、 長崎ヲ經テ上海、香港ニ至 ル
City of Peking	五,〇〇〇	一四	一八七四	
City of Rio de Janeiro	三,五八八	一四	一八七六	

(四) 米國桑港「オー、オー」汽船會社 (O. & O. S. S. Co.)

船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Optic	四,三三三	一五	一八八二	「ビー、エム」會社ト同シ
Doric	四,六三六	一五	一八八三	
Gaelic	四,一〇六	一四	一八八五	

(備考)

右「ビー、エム」及「オー、オー」會社ハ我方東洋汽船會社ト共ニ三會社合同營業ヲ爲スモノニシテ各自三隻  
 ノ汽船ヲ用ヒ桑港、香港間三週壹回宛ノ往復ヲ爲ス

○ 清國沿岸線

(一) 招商局 (China merchants' S. N. Co.)

船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Hae-an	一,三六六		一八七三	上海天津間(一週二三回)
Hsin-yu	一,三三三		一八八九	
Hsin-fung	一,七〇八		一八九二	
Hsin-chi	一,七〇八		一八九三	
Amping	一,八七九		一八九六	



船名	總噸數	航速	洋力	製造年	航路
Tai-shuu	一八〇〇			一八八六	上海、牛莊間
Hae-ting	一五三三			一八七三	
Mee-foo	一七九三			一八八六	
Fu-shun	二二六四			一八八三	上海、寧波間 (隔日)
Irene	一三三四			一九〇〇	
Kiang-teen	三〇二二			一八七〇	上海、福州間 (一週一回)
Hae-shin	一三〇二			一八七二	
Chi-yuen	一八八〇			一八八二	上海、香港、廣東間
T'oo-nan	一五三七			一八八三	
Kwang-lee	二二七〇			一八八三	上海、漢口間 (一週三回)
Feiching	一五五九			一八八三	
Kiang-yu	三〇九八			一八八三	漢口、宜昌間 (一ヶ月三回)
Kiang-kwan	一六四七			一八七六	
Kiang-yung	一六四七			一八七六	
Kiang-foo	二二四〇			一八七六	
Ku-ling	三三〇〇			一八七六	

Kwee-iei	快利	八克	一八八三
----------	----	----	------

(二) 怡和洋行 (Indo China S. N. Co.)  
 代理店 Jardine Matheson & Co.

船名	總噸數	航速	洋力	製造年	航路
E-sang	一七八三			一八八〇	上海、天津間 (一週二回)
El-Dorado	一七九六			一八八〇	
King-shing	一九八三			一八八六	上海、福州間 (一週一回)
Lien-shing	一六五九			一八八二	
Yik-sang	一三七八			一八八二	上海、香港、廣東間
Kook-sang	一五五九			一八八〇	
Canton	一七三七			一八八〇	
Choy-sang	一八九九			一八八八	
Wing-sang	二二九九			一八八三	
Wo-sang	一七八三			一八九二	
Kut-wo	二二六五			一八九五	



船名	英漢	總噸數	航速	洋力	製造年	航路
Sui-wo	瑞和	二,六七三			一八八六	上海、漢口間(一週二回)
Yuen-wo	元和	二,五三三			一八八三	
Chang-wo	昌和	一,〇六五			一八九一	

(三)太古洋行 (China Navigation Co.)  
代理店 Butterfield and Swire.

船名	英漢	總噸數	航速	洋力	製造年	航路
Chun-king	重慶	一,六五〇			一八八五	上海、天津間(一週二回)
Sheng-king	盛京	一,五〇三			一八八六	
Tung-chow	通州	一,三五六			一八八三	
Wu-chang	武昌	二,〇八〇			一八八五	上海、牛莊間
Koo-chow	福州	一,五七三			一八八五	
Hang-chow	開封	一,六四三			一八八六	
Kai-fong	甘肅	一,八八五			一八八五	

(四)東清鐵道會社

船名	英漢	總噸數	航速	洋力	製造年	航路
Newchwang	牛莊	三,〇八六			一八七三	上海、寧波間(隔日)
Peikin	北京	一,七三四			一八八三	
Taiwan	臺灣	一,七三四			一八八三	上海、香港、廣東間
Woo-sung	吳淞	一,七三四			一八八三	
Ngawkin	安慶	二,三三三			一八八三	上海、漢口間(一週二回)
Po-yang	鄱陽	二,五五一			一八九一	
Ta-tung	大通	二,五四八			一八九一	
Sha-si	沙市	一,〇九〇			一八九一	漢口、宜昌間(一ヶ月三回)

船名	英漢	總噸數	航速	洋力	製造年	航路
Sungari	松花江	二,〇九九			一八八九	旅順、仁川、長崎、釜山、浦鹽間又ハ旅順、芝罘、青島上海間等ヲ往復ス
Makden	奉天府	一,〇三八			一八九四	
Korniloff	濟々哈爾	九九〇			一八九四	
Tsizihar					一八九四	
Ningooole					一八九四	



船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Ingraban	一、二八四		一八八四	

(備考)

全會社計畫

一、所有汽船十六隻ニシテ内三隻ハ總噸數五千噸、速力平均十五海里ノ一等客船、四隻ハ三千噸十二海里ノ荷客兼用船、其他ハ大小一定セサル荷物船ナリト云フ

二、航路

イ、大連灣ヲ基点トシテ同港及浦鹽ヲ日本要港ニ連結スルモノ  
 ロ、浦鹽、香港線、但シ復航日本及清國ノ一二港ニ寄港スルモノ  
 ハ、大連、上海、香港線即チ清國沿岸ヲ通貫スルモノ

(五美最時洋行「メルチャース」商會)

船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Wahilde	九五七		一八九	上海、膠州、芝罘、天津間
Tsintau	一、五八八		一八二	
Koenigsberg	九五九		一八二	

(備考)

同商會ハ揚子江航路新開ノ爲メ汽船三隻ヲ注文シタリト云フ

(六) 禪臣洋行 (Siemssen & Co.)

一名支那沿岸航海會社

船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Loognoon	一、九七二		一八九六	上海、香港、廣東間
Lyemnoon	一、九三五		一九〇〇	
Nanyang	一、五七〇		一八九三	
Peiyang	一、五三八		一八九三	

(七) 「ドローグラス」會社 (Douglas Lapprick & Co.)

船名	總噸數	航洋速力	製造年	航路
Haitan	一、八六五	三	一八八七	香港、廈門、淡水間
Haimun	一、三二二	三	一八九六	
Thales	一、二九九		一八八四	
Formosa	一、〇九七		一八八五	



船名	英名	總噸數	航速	製造年	航路
Hailong	海龍	一三五	三	一八八	航路

(八) 鴻安公司「グリーブス」商會

船名	英名	總噸數	航速	製造年	航路
Chang-on	德興	一六四	—	一八九〇	上海、漢口間
		一三三		一八九〇	
		六四		一八七〇	
Pao-hua	寶華	六五	—	一八八五	上海、漢口間
		六四		一八七〇	

(九) 麥邊洋行「マクベーン」商會

船名	英名	總噸數	航速	製造年	航路
W. C. de Vries	華利	六三	—	一八八五	上海、漢口間
		一〇七		一八七三	
Sual	萃利	—	—	—	—

(一〇) 獨逸「リクマー」揚子江航海會社

代理店瑞記商會 (アーノルド、カバーク商會)

船名	獨	總噸數	航速	製造年	航路
瑞安	—	—	—	—	—
瑞泰	—	—	—	—	—
瑞安	—	—	—	—	—

第七 本邦船渠表 (明治三十一年末調)

所在地	所有者	長		幅		入口幅		深
		上部	下部	上部	下部	上部	下部	
東京	石川嶋造船所	二七〇	二五〇	六六	三〇	四二	三四	一四
橫濱	橫濱船渠會社第一號	五五〇	四八三	—	—	九三	七五	二八
全	全 第一號	四一	一三五	—	—	六〇	四五	二七
橫須賀	海軍造船所第一號	三五	—	八三	—	—	—	—
全	全 第二號	五〇	—	九四	五	—	—	—
全	全 第三號	三〇	—	四五	三	—	—	—



所在地	所有者	長		幅		入口幅		滿潮于深
		上部	下部	上部	下部	上部	下部	
浦賀	浦賀船渠株式會社	四九七	四八二	六九	六六	二六	二〇	二〇
石川嶋	石川嶋造船所分工場	四四八	四四八	七六	五六	五九	二〇	一九
鳥羽	鳥羽鐵工合資會社	二四七	二四五	六三	四九	三三	二七	二七
大阪	大阪鐵工所	二四七	二四七	四〇	三五	三三	二七	二七
大阪	大阪船渠株式會社	二四六	二四五	六一	四九	三三	二七	二七
全	大阪造船株式會社	二二〇	二〇八	六九	六一	三三	二七	二七
全	永田造船所	二二〇	二〇〇	五〇	四五	三三	二七	二七
全	小野造船所	一八〇	一七五	四一	四〇	三三	二七	二七
全	三菱造船所	一七五	一七五	四一	三五	三三	二七	二七
全	土生船渠合資會社	三三〇	三〇〇	五二	四〇	三三	二七	二七
備後	衣浦造船所	二五〇	二一〇	六五	三三	三〇	二二	二〇

○船渠

所在地	所有者	長	幅	起重力
小長崎	三菱造船所	七五〇	三〇	一〇〇〇
兵衛	三崎造船所	三〇〇	二四	一〇〇〇
全	川崎造船所	一〇九	一九	五〇〇

第八 東洋船渠表 (明治三十三年六月三調十二)

所在地	名	所有者	長	幅	入口ノ幅	入口ノ深
上海	舊華北船渠	エス、シー、フラインハム會社	四〇〇	三九八	五七	一七
全	通華北渡	全	三三〇	三三八	七〇	一六
全	コスモポリタン	全	五五〇	五二五	八二	二六
全	新南機船渠	ボイド會社	四七三	四五〇	八〇	三三
全	江南機船渠	官	三七五	三二五	六〇	三三
全	和豐乾船渠	官	五七〇	五三五	八〇	一九
福州	乾船渠	官	四四四	四四四	七〇	三三



所在地	名	稱	所有者	最大長さ	底部長	入口ノ幅	入口ノ深
福州	福州	福州(マモイ)	シャーターン、マ、ゼソン商會	四〇〇呎	三八〇呎	五五呎	一五呎
厦門	厦門	厦門	新厦門船渠會社	三六〇	三四〇	六〇	一六六
黄埔	黄埔	官有(商船用ニ貸付セス)		四五〇	三五〇	七五	一八
香港	九龍	九龍	香港黄埔船渠會社	四三〇	五〇〇	六五	一六
全	全	全	全	三九四	三七〇	七四	三〇
全	全	全	全	二六五	四六六	四九三	一八六
全	全	全	全	四六八	四三〇	八五、六	二〇
全	全	全	全	四三三	四三三	八四	二二、九
全	全	全	全	三三四	三三三	六四	一五四
全	全	全	全	三六〇	三三三	四〇	一一
全	全	全	全	三〇〇	二七五	三〇	一〇
全	全	全	全	六二五	五五〇	九〇	三〇
全	全	全	全	三〇一	三〇一	七四、六	起重カ
全	全	全	全	四五〇	四五〇	八五	八〇〇
全	全	全	全	四九八、八	四九八、八	七、九	二七、六

○船渠

所在地	名	稱	所有者	最大長さ	底部長	入口ノ幅	入口ノ深
全	小乾船渠	小乾船渠(砲艦用)	全	一九六、一〇	二四一、七	九一、〇	九一、〇
全	乾船渠一號	乾船渠一號	全	三〇〇	二六〇	六〇	一一、六
全	乾船渠二號	乾船渠二號	全	一三〇	一一〇	二五	七、六
全	三號	三號	官有	三〇〇	二七五	九〇	二二、六
全	アルバート	アルバート	官有	四九五	四六九、九	六〇	一一、二
全	ヴァクトリヤ	ヴァクトリヤ	全	四八四	四五〇、四	六五	二〇
全	新船渠	新船渠	全	四八九	四四〇、五	五五	一八、一〇
全	クラフトン	クラフトン	全	四二四	三九五	四二、六	一四、四
全	アライ河船渠	アライ河船渠	全	三四五	三三三	五〇	一五
全	浮船渠	浮船渠	官有	三三四	三三三	六七	一八
全	瓜哇	瓜哇	官有	三三八	七四、一〇	六三	一八
全	瓜哇	瓜哇	官有	三二〇	六三	一八	一八

所在地	名	稱	所有者	最大長さ	架臺ノ長さ	龍骨臺ノ深	起重力
福州	福州	福州	有	四〇〇呎	三八〇呎	五五呎	一、一〇〇噸







噸數	初三日以内	四日目ヨリ	噸數	初三日以内	四日目ヨリ
七百噸以下	洋銀 四五〇 <small>非</small>	洋銀 五五 <small>非</small>	千噸以下	洋銀 五二五 <small>非</small>	洋銀 七〇 <small>非</small>
八百噸以下	全	全	千二百噸以下	全	全
九百噸以下	全	全	千二百一噸以上	一噸ヲ増ス毎ニ四五仙	一噸ヲ増ス毎ニ五五 <small>非</small>

○三菱造船所小管船架料

噸數	初三日以内	四日目ヨリ	噸數	初三日以内	四日目ヨリ
百噸以下	洋銀 一六〇 <small>非</small>	洋銀 一六 <small>非</small>	五百五十噸以下	洋銀 三四〇 <small>非</small>	洋銀 三四 <small>非</small>
百五十噸以下	全	全	六百噸以下	全	全
貳百噸以下	全	全	六百五十噸以下	全	全
貳百五十噸以下	全	全	七百噸以下	全	全
參百噸以下	全	全	七百五十噸以下	全	全
參百五十噸以下	全	全	八百噸以下	全	全
四百噸以下	全	全	八百五十噸以下	全	全
四百五十噸以下	全	全	九百噸以下	全	全
五百噸以下	全	全	九百五十噸以下	全	全

千噸以下	五二〇	全	千五百噸以下	五八〇	全
千五百噸以下	五四〇	全	千貳百噸以下	六〇〇	全
千百噸以下	五六〇	全			

○東京石川島造船所石川島船渠料

噸數	初三日以内	四日目ヨリ	噸數	初三日以内	四日目ヨリ
百噸未滿	一五〇 <small>四</small>	一七 <small>四</small>	六百噸未滿	三三五 <small>四</small>	三二五 <small>四</small>
百五十噸未滿	一六〇	一八	六百五十噸未滿	三五〇	三五
貳百噸未滿	一七〇	一九	七百噸未滿	三七五	三七五〇
貳百五十噸未滿	一八〇	二〇	七百五十噸未滿	四〇〇	四〇
參百噸未滿	一九〇	二一	八百噸未滿	四二五	四二五〇
參百五十噸未滿	二〇〇	二二	八百五十噸未滿	四五〇	四五
四百噸未滿	二二五	二三	九百噸未滿	四七五	四七五〇
四百五十噸未滿	二五〇	二五	千噸未滿	五〇〇	五〇
五百噸未滿	二七五	二七五〇	千貳百噸未滿	五二五	五二五〇
五百五十噸未滿	三〇〇	三〇	千貳百噸以上	十噸ヲ増ス毎ニ二圓五十錢	十噸ヲ増ス毎ニ二十五錢



○東京石川島造船所浦賀船渠料

噸數	初三日以内	四日ヨリ	噸數	初三日以内	四日ヨリ
三百噸未滿	四三〇	四五〇	八百噸未滿	五六〇	七〇〇
四百噸未滿	四七〇	五〇〇	九百噸未滿	五九〇	七五〇
五百噸未滿	四九〇	五二〇	千噸未滿	六二〇	八〇〇
六百噸未滿	五一〇	五五〇	千貳百噸未滿	六五〇	八五〇
七百噸未滿	五三〇	六〇〇	千貳百噸以上	一噸ヲ増ス毎ニ五十錢	一噸ヲ増ス毎ニ五十錢

○川崎造船所船渠上梁料

噸數	初三日以内	四日ヨリ	噸數	初三日以内	四日ヨリ
百噸以下	一〇〇	一〇〇	參百五十噸以下	二二五	二二五
百五十噸以下	一二五	一二五	四百噸以下	二五〇	二五〇
貳百噸以下	一五〇	一五〇	四百五十噸以下	二七五	二七五
貳百五十噸以下	一七五	一七五	五百噸以下	三〇〇	三〇〇
參百噸以下	二〇〇	二〇〇	六百噸以下	三二五	三二五

○鳥羽鐵工合資會社

噸數	初三日以内	四日ヨリ	噸數	初三日以内	四日ヨリ
六百噸以下	三五〇	三五〇	千百噸以下	五二五	五二五
六百五十噸以下	三七五	三七五	千貳百噸以下	五五〇	五五〇
七百噸以下	四〇〇	四〇〇	千參百噸以下	五七五	五七五
七百五十噸以下	四二五	四二五	千四百噸以下	六〇〇	六〇〇
八百噸以下	四五〇	四五〇	千五百噸以下	六二五	六二五
九百噸以下	四七五	四七五	千六百噸以下	六五〇	六五〇
千噸以下	五〇〇	五〇〇	千七百噸以下	六七五	六七五

噸數	初三日以内	四日ヨリ	噸數	初三日以内	四日ヨリ
百噸未滿	一〇〇	一〇〇	五百噸未滿	二六〇	二六〇
二百噸未滿	一四〇	一四〇	五百五十噸未滿	二八〇	二八〇
三百噸未滿	一八〇	一八〇	六百噸未滿	三〇〇	三〇〇
三百五十噸未滿	二〇〇	二〇〇	六百五十噸未滿	三三〇	三三〇
四百噸未滿	二三〇	二三〇	七百噸未滿	三四〇	三四〇
四百五十噸未滿	二四〇	二四〇	七百五十噸未滿	三六〇	三六〇



噸數	初三日以内		四日ヨリ	
	貨料	一日ヨリ	貨料	一日ヨリ
八百噸未滿	三八〇	三八〇	三八〇	三八〇
八百五十噸未滿	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
九百噸未滿	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
九百五十噸未滿	四四〇	四四〇	四四〇	四四〇
千噸未滿	四六〇	四六〇	四六〇	四六〇
千五百噸未滿	四八〇	四八〇	四八〇	四八〇
千二百噸未滿	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
千二百五十噸未滿	五二〇	五二〇	五二〇	五二〇
千二百五十噸未滿	五四〇	五四〇	五四〇	五四〇
千二百五十噸未滿	五六〇	五六〇	五六〇	五六〇

第十 本邦船舶噸數及航別路表  
 ○噸數別表 (明治三十二) 年末調

種目	汽船		帆船	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數
五拾噸以上	一三六	四六九〇・三三	二六三	一〇、一四三・四七
五拾噸以上	二一六	八、八三三・七五	一、四九〇	九、五三四・八七
百噸以上	二〇七	四、八九九・〇三	一、〇一三	一〇、七一九・四一
三百噸以上	八〇	三、四二七・三五	二	三、七六一・九七
五百噸以上	五六	三、〇八九・七一	二	三、七九〇・七三
千噸以上	六五	三、三二九・〇六	二	三、七五〇・三〇
二千噸以上	四七	二、九四二・四九	二	二、四〇五・四七
三千噸以上	一七	一、七九二・八七	二	二、二六一・四一
四千噸以上	一	七、一八九・九七	二	二、〇八九・八二
五千噸以上	三	五、八〇七・七九		
六千噸以上	一	九、二四九・九七		
合計	七五三	四九、八三三・七五	二七三	二五、九三三・三六

種目	汽船		帆船		石數
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	
五拾噸以上	一三六	四六九〇・三三	二六三	一〇、一四三・四七	一、〇一三
五拾噸以上	二一六	八、八三三・七五	一、四九〇	九、五三四・八七	二、二六一・四一
百噸以上	二〇七	四、八九九・〇三	一、〇一三	一〇、七一九・四一	二、〇八九・八二
三百噸以上	八〇	三、四二七・三五	二	三、七六一・九七	二、二六一・四一
五百噸以上	五六	三、〇八九・七一	二	三、七九〇・七三	二、二六一・四一
千噸以上	六五	三、三二九・〇六	二	二、四〇五・四七	二、二六一・四一
二千噸以上	四七	二、九四二・四九	二	二、二六一・四一	二、二六一・四一
三千噸以上	一七	一、七九二・八七	二	二、〇八九・八二	二、二六一・四一
四千噸以上	一	七、一八九・九七	二	二、〇八九・八二	二、二六一・四一
五千噸以上	三	五、八〇七・七九			二、二六一・四一
六千噸以上	一	九、二四九・九七			二、二六一・四一
合計	七五三	四九、八三三・七五	二七三	二五、九三三・三六	二、二六一・四一

○航路別表 (明治三十二) 年末調

種目	汽船		帆船		石數
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	
遠洋航路	八四	二、六二二・四七	六	三、三九三・四一	石
合計	八四	二、六二二・四七	六	三、三九三・四一	石



種目	汽船		帆船		石船	
	隻數	總噸數	隻數	總噸數	隻數	積石數
近海航路	二四四	一八三,〇九二	二六七九	二五九,一三八	一五五	六七,六九六
沿海航路	三二五	四七,七六六	二四三,六〇三	二四三,六〇三		
平水航路	一〇七	四八,二六三	二六八五	二六三,〇八三	一五五	六七,六九六
總計	七五〇	三〇八,一七五	九〇	六七,七〇八	一五五	六七,六九六
未定計	三	二〇九,一四八	二七八四	二七〇,二六〇	六七	二六,七〇二
合計	七五三	四九八,三二三	二七八四	五四〇,五二〇	二二二	九四,四一六

第十一 本邦主要船主及所有船舶一覽(明治三十二年六月調)

船主	所在地	所有船舶	
		隻數	噸數
日本郵船株式會社	東京	六八	二〇,三三〇
大阪商船株式會社	大阪	五六	四,七六八
東洋汽船株式會社	東京	三	一八,三三三
三井物產合名會社	全	六	一五,八五三
帝國商船株式會社	大阪	一五	一〇,六二〇

右近權左衛門	緒明菊三郎	野田正三郎	廣海二三郎	尼崎伊三郎	大崎家七平	攝津航業株式會社	北海道炭鐵道株式會社	中越汽船株式會社	岸本五兵衛	南嶋間作	三菱合資會社	日本商船株式會社	山本藤助	航路標識管理事務所	原田十次郎	福永正七
福井縣河野	東京府品川	石川縣越前	石川縣越前	大石縣越前	石川縣越前	兵庫縣西宮	札幌縣幌	富山縣高岡	富山縣新湊	富山縣新湊	東京	全	滋賀縣大津	滋賀縣大津	神戶	神戶
四	八	二	三	二	二	三	三	六	三	三	三	三	二	二	二	一
八二,九三三	六七,二九九	六二,六六七	六一,〇〇九	六一,〇〇一	五九,〇〇四	五八,八九六	五七,八八六	五七,三三五	五五,五六九	五二,一六六	四八,〇〇四	四三,三六四	四一,八九九	三七,七〇六	三四,七七一	三一,九五五



船主	所有地	所 有 噸 數	船 隻 數
馬場道久	東京	三二六三	二
山縣勇三郎	北海道根室	一九〇三	三
喜多伊兵衛	兵衛庫	二六九八	一
伊豫汽船株式會社	媛愛縣郡中	二五八八	六
遞信省	東京	二三八六	二
日本共立汽船株式會社	愛知縣熱田	二二一四	二
神谷保兵衛	東京	二二一一	一
函館汽船株式會社	函館	二〇九九	四
增田又一郎	大阪	二〇九六	一
堀力太郎	全戶	二〇五九	一
八馬兼助	神戶	一九六六	二
東京灣汽船株式會社	大阪	一九三七	一
東京運輸株式會社	福岡縣大	一七八三	二
攝津灘興業株式會社	兵庫	一六三四	一
大阪	大阪	一五〇七	四

船主	所有地	所 有 噸 數	船 隻 數
太湖汽船株式會社	滋賀縣大津	一四七四	三
中井博愛	東京	一四六〇	一
日清貿易株式會社	神戶	一四四八	一
阿波國共同汽船株式會社	德島	一四〇八	五
藤野四郎兵衛	滋賀縣日	一四〇一	二
大島興業株式會社	大阪	一三九七	二
鈴木真一	東京	一三四八	一
北越汽船株式會社	富山縣魚津	一三九七	二
岡崎藤吉	神戶	一三七〇	一
田阪初太郎	東京	一三四六	一
宇和島運輸株式會社	宇和	一三〇三	五
梶野伊之助	神戶	一三三六	一
牧野惟雄	兵庫	一〇九七	一
河邊九良三郎	神戶	一〇三七	一
加能汽船株式會社	石川縣上金石	一〇三〇	四
加藤喜四郎	神戶	一〇一七	一
合計		四三八七一九	三五



(備考)

本表ハ總噸數百噸以上ノ汽船合計千噸以上

並ノミナ掲ク

第十二 造船規程合格船表 (明治三十二年未調)

○日本郵船株式會社

船名	總噸數	最強速力
阿波	六三〇九.三一	一四.五五
若狹	六二五九.九一	一四.四三
備後	六二四一.二八	一四.四〇
佐幡	六二三三.九六	一四.七六
因幡	六一九一.八六	一四.二二
常陸	六一七二.一〇	一四.二八
博多	六一五〇.五二	一四.五〇
神戶	六一三三.一〇	一四.四八
鎌倉	六一〇七.七六	一四.二六
讚岐	六〇九九.四三	一四.五〇
丹波	六〇九〇.二二	一四.三一
河內	六〇八六.九九	一四.二六

○東洋汽船株式會社

船名	總噸數	最強速力
土佐	五、八〇九.四二	一四.二六
旅順	四、七九三.九九	一三.八五
金州	三、九六六.五〇	一三.九六
二見	三、八四〇.八三	一七.二五
春日	三、八一九.七八	一六.八九
八幡	三、八一八.四六	一六.八五
和泉	三、三三五.三〇	一一.二二
博愛	二、六二八.五五	一五.四二
弘濟	二、六二六.六〇	一五.一〇
合計	一〇八六七.九九	

附錄



○大阪商船株式會社

船名	總噸數	最強速力
打狗丸	一、六九五.三七	一一.二八
大元丸	一、六九四.六七	一〇.五〇
基隆丸	一、六七二.九七	一一.〇八
合計三隻	五、〇六三.〇一	

○三井物產合名會社

船名	總噸數	最強速力
劍山丸	四、二八.九八	一一.六三
彦山丸	三、七〇〇.九三	一一.三一
愛宕山丸	三、〇一〇.九三	一一.二六
富士山丸	二、〇一〇.〇一	一一.一一
阿蘇山丸	一、六九八.七一	一〇.九六
合計五隻	一三、五九九.五六	

○三菱合資會社

船名	總噸數	最強速力
飽浦丸 (三十二年十一月進水)	一、七七一.三五	一一.五二

總計 船數 參拾參隻  
噸數 拾四万七千參百四拾貳噸八壹

第十三 本邦海員表

○高等海員 (明治三十一年末調十)

種別	甲 板		乙 部		種別	甲 板		乙 部	
	名稱	內國人	外國人	計		名稱	內國人	外國人	計
甲 船長	一等運轉士	三五二	一四五	四九六	丙 船長	一等運轉士	一五七	一	一五七
	二等運轉士	一五〇	三三	一八二		運轉士	二二六	—	二二六
乙 船長	一等運轉士	一七四	一五	一八九	合計	合計	二、六六九	一九四	二、八六三
	二等運轉士	六七五	一九二	八六七				八、五六八	—
				計					
				計					







附 錄

名 稱

所在地

五十六

Irvine & Son. (Lloyd's agents)	英國西ハートプール
Cie de Remorquage, &c.	佛國巴里
Amsterdam Salvage & Towing Co.	和蘭アムステルダム
Neptune Salvage Co.	同 ストックホルム
Berging Maaschappij.	同 マースルイス
Smit, L., & Co.	同 アルブラサーダム
Bugsir Gesellschaft Union.	獨國ブレーメン
Northern Salvage Co.	同 ハムブルヒ
International Salvage Union.	丁抹コペーハーゲン
Svitzer Salvage Co.	同
Norwegian Salvage & Diving Co.	諾威クリスチヤナ
Olsen's Diving Co.	同 ヘルゲン

Vladikavkaz Ry. Co.	露國聖彼得堡
Russian Steam Navigation Co.	同 オデッサ
Mavrogorodato & Logothettis.	同 タガンロツグ
Svorono & Forsdyke.	同
Svorono, C., & Sons.	同 ケルツチ
Ratner, Sannet.	同 オチヤコッフ
Cia Transatlantica.	西班牙カデイス
Genoese Marine Salvage Asso'n.	伊國ゼノア
Societa Italiana di Salvaggi Marittimi.	同
South of Europe Salvage Asso'n. (J. Haynes & Sons)	英領シブロールター
Golleher & Sons. (Lloyd's Agents)	同 モールタ島
Grech, Pascal.	同
Cowasjee, Dinshaw & Bros.	同 亞丁



名 稱

所在地

Thomas, Luke, & Co. (Lloyd's Agents)	英領亞丁
Perim Cool Co.	同 ペリム
Cie de Remorqueurs.	土國コンスタンチノブル
Diving Co.	同
Société des Remorqueurs.	同
Grech, Vincent.	同 ダルダネルス
Kurrachee port Trust.	波斯カラチー
Madras Harbour Trust.	東印度マドラス
Chittagong port Commissioners.	同 チッタゴン
Conyers, J. A.	英領ヘルムズ島
Darrell, J. S.	同
Meyer, W. E., & Co.	同

Marine Salvage Association.	加拿陀ウヰクトリア
Underwriters Association.	濠洲シドニー
Baxter Wrecking. Co.	米國紐育
Boston Tow-Boat Co.	同
Chapman Derrick & Wrecking Co.	同
Lowe, S. R.	同
Luckenbach, F.	同
Merritt's Wreckage Organization.	同
Morris, Maull, Burton & Co.	同
Moran Towing Co.	同
Scott, T. A.	同
Red Star Tug Service.	米國ヒラデルピア
Boston Tow-Boat Co.	同ウインヤード、サオンド



Davis Coast Wrecking Co.

米國ニューベドフォルド

第十五 世界海底電線一覽

會社	海底電線ノ數	海底電線ノ哩數
英 米 電 信 會 社	一五	二二二八七
内	四	七、五〇五
一、大西洋ノ横斷系統IIツアレンシア(愛蘭)ヨリ「バーテスコンテンド」(新ファウンランド)迄		二、七一一
二、「カンソー」ヨリ紐育迄		一、九六三
三、「カンソー」ヨリ「ロツクボート」港(マッサチユセツ州)迄		一〇一
四、歐洲海岸用		九、〇七四
商 業 海 底 電 信 會 社	一	六、八八八
内	三	八二八
一、大西洋横斷系統IIチーターウイ(愛蘭)ヨリ「カンソー」(加奈陀ノツア、スコシヤ)迄		五一九
二、「カンソー」ヨリ紐育迄		八三九
三、「カンソー」ヨリ「ロツクボート」港(マッサチユセツ州)迄		三、五三三
四、歐洲海岸用	四	
佛 米 電 信 會 社	二	

内	一、アレンスト(佛)ヨリ「セントピア、ミクエロ」迄	一	二、二八二
二、セントピア「アミクエロン」ヨリ、ケーブゴツド迄	一	八二八	
三、其他ノ支線	二	四三三	
伯 刺 西 海 底 電 信 會 社	六	七、三六九	
内	一、ロズボン(葡)附近カークウエロス」ヨリ、(一)マテイーラ迄 (二)セント、ツンセント迄 (三)バルナンフーコ(伯刺西)迄	二	
合 衆 國 直 系 海 底 電 信 會 社	二	三、〇九九	
内	一、ポリアンスケリク湾(愛蘭)ヨリ、「ハリファアツクス」(ノグア、スコシヤ)迄	一	二、五六四
二、「ハリファアツクス」ヨリ、「ライ、ビーチ」(ニューハムプシヤ)迄	一	五三五	
西 部 電 信 聯 合 會 社	二	七、三四二	
内	一、大西洋横斷系統II「セン子、ゴーク」(英倫ペンザンス附近)ヨリ、「ドレーヴァー」湾(ノグア、スコシヤ)迄	二	五、一〇七
二、「ドレーヴァー」湾ヨリ紐育迄	二	一、七三六	
三、メキシコ灣系統	八	四、五九	
直 系 西 班 牙 電 信 會 社	四	七〇八	
歐 洲 及 ア ヲ ル ス 電 信 會 社	二	一、〇三三	
ハリファアツクス及ベルムダ海海底電信會社	一	八五〇	



會社	海底電線ノ數	海底電線ノ哩數
墨西哥電信會社	三	一五二七
中央及南米電信會社	一五	七四九六
南米海底電信會社	二	二〇四八
米國西岸電信會社	八	一九六四
西部及伯刺西電信會社	一六	六、一四七
玖巴海底電信會社	四	一〇四八
西印度及バナマ電信會社	二二	五、五五四
佛國南洋電信會社	一五	四、五四四
リヅアー、ブレート電信會社	三	八七
東方電信會社	七九	二五、五二五
一、英、班、葡系統	一一	三、五六六
二、モートルタ系統	一七	四、〇〇三
三、伊、希系統	二	二五三
四、奧、希系統	一	五〇三
五、希臘系統	三	六九六
六、土、希系統	四	五七八

內

七、土耳其系統	一四	八三三
八、埃及、歐洲間系統	四	一、五三〇
九、埃及系統	一	一五五
一〇、埃及、印度系統	一三	二、八〇五
東方濠洲支那電信會社	二七	一七、三九七
北部大電信會社ニ於ケル海底電線	二四	六、九六三
印度歐洲電信會社	二	一四
印度ラッパ、ガッタ、ハルカ電機會社	三	一四五
黑海電信會社	一	三三七
直系亞非利加電信會社	八	二、七四九
東南亞非利加電信會社	一三	八、八四一
西亞非利加電信會社	二	三、〇五五
合計	三〇	三九、七五四

### 第十六 本邦及英國海上保險會社表

○本邦海上保險會社資本金及設立年



名稱	資本金	設立年
東京海上(在東京)	參百萬圓(內拂込七拾五萬圓)	明治十二年
帝國海上(同)	同	同
日本海陸(在大坂)	貳百五拾萬圓(同)	同
日本海上(同)	參百萬圓(同)	同

○英國海上保險會社及設立年

名稱	設立年	名稱	設立年
Royal Exchange.	1710	Thames & Mersy.	1760
London Assurance.	1710	London & Provincial.	1760
Alliance Marine Insurance.	1713	British & Foreign.	1763
Indemnity.	1713	Commercial Union.	1763
Marine.	1716	Union.	1763
Ocean.	1716	Maritime.	1763

Merchant's Marine.	1771	World.	1789
Standard.	1773	Empress.	1786
Sea.	1776	Corporation of Lloyd's.	1769
Reliance.	1782		

第十七 本邦重要輸出入品表 (最近三  
年ノ消長)  
○重要輸出品 (一百万圓以上)

品目	三十二年	三十一年	三十年	輸出先國名
生絲	六三六,七二〇	四二〇,四七四	五五,六三〇	米、佛、伊等
綿織絲	二八四,四六九	二〇一,六五六	一三,四九〇	支、香港、朝等
羽二重	一五七,九九〇	一二〇,五五五	九,五三〇	米、佛、英領印度、香港、英等
石炭	一五,一六,四七七	一五,一六八,七九九	八,三二六,七七六	支、香港、英領印度等
荒銅及熟銅	一,三三三,三五六	七,二六七,〇七五	五,七七四,九九九	香港、支、獨等
米	一〇,二七九,三二九	五,九二〇,一八五	六,一四二,二一八	香港、濠、米、英、獨等
製茶	八四九,六〇四	八二一,五六五	七,四四一,九五二	米、英領米等



品目	三十二年	三十一年	三十年	輸出先國名
摺附木	五、八八六、七〇四	六、二七三、九四九	五、六四一、九九三	香港、支、英領印度等
髮斗絲及屑絲	四、〇七四、〇八五	二、六五五、九二一	三、〇一九、九七一	佛、伊、香港、澳、英等
綿布	三、九〇一、七一九	二、五九七、九七九	二、四二一、七四六	朝、支、香港等
地布	三、七二七、四八七	三、九三三、四五〇	三、三三三、七三八	米、香港、英領米、濠等
絹布手巾	三、四六一、五七一	三、五五五、一五五	三、三九〇、一四六	米、英、佛、布、英領印度等
麥稈真田	二、七七〇、一七七	二、四〇四、〇〇三	三、一八一、九一五	英、米、香港等
磁器及陶器	二、一八〇、一五一	一、九九〇、七八一	一、八一〇、〇六一	米、香港、英、朝、英領印度等
樟腦	一、七五四、四九六	一、一七四、五七四	一、三二八、二九二	香港、米、英等
錫傘	一、三五五、二〇一	一、二六八、二五七	一、四二三、六四七	香港、米、支等
洋傘	六、五三三、五四七	六、八七一、一九五	六、二七〇、五七七	支、香港、英領印度等 (但シ百万圓未満)

○重要輸入品 (一百萬圓以上)

品目	三十二年	三十一年	三十年	輸入元國名
棉花	六、二二〇、八五八	四、五、四一〇、四五七	四、三、二二二、二六三	支、英領印度、米等
赤白砂糖	一、七、五二八、六九八	二、八、四三九、二九五	一、九、七九九、〇九一	獨、比律賓諸島、香港、支、英領印度等

品目	三十二年	三十一年	三十年	輸出先國名
豆類	八、八〇三、二九四	七、一〇一、一〇三	五、八八九、六二七	支、朝等
石油	七、九一八、九二二	七、五五二、八八〇	七、六六七、三五〇	露領亞細亞等
金巾及更紗	六、七九〇、一八六	四、六一四、九六七	三、三二五、五八七	支那等
鐵及鋼	六、〇三八、九九〇	七、〇八一、九六七	五、七三二、三三四	英等
米類	五、九八〇、八三五	五、一五八、七二〇	三、四一九、六七二	英、米、伯、獨等
機械類	五、九四三、六九二	四、八、二九八、一〇	二、二、五二八、四二九	佛領印度、英領印度、暹羅、支、朝等
葉煙草	五、六六六、九七二	九、四五四、六八三	一、三、三〇〇、〇〇〇	英、米、佛、獨等
綿織絲	五、〇八六、三三三	四、五二七、六六〇	三、三〇〇、八五四	米、支、土等
縮緬吳呂	四、九六三、三二六	八、五四七、五八九	九、六二五、二五八	英等
羊毛	四、三三〇、九三四	四、四〇八、七五二	三、八三五、八八一	佛、獨等
機關車客車及貨車	四、三三三、四二七	一、六四二、八一九	一、〇六二、三九八	濠洲、英、獨、支、英領印度、佛等
條鐵及竿鐵	二、六四九、七四六	四、七六三、〇三三	四、七六八、四三三	英、米、獨等
鐵釘	二、六〇一、四七七	四、〇六一、八〇五	三、〇四六、一三三	英、伯、獨等
羅紗	二、一三〇、九五四	一、一五〇、三四三	一、四五八、二九四	米、獨等
綿繻子及綿天鷲絨	二、〇〇八、一八八	二、八〇三、六〇七	一、九四三、五三二	獨、英等
イタリアンクローツ	一、三三二、五七五	一、四五八、五〇九	二、四七四、〇三三	英、獨等



品目	三十二年	三十一年	三十年	輸入元國名
紙卷煙草	七六〇、五九四 <sup>円</sup>	一、七二〇、八二七 <sup>円</sup>	九九七、三三七 <sup>円</sup>	米、以、英等
帆條	五、一五七、四四五	三、六三二、七二二	三、三二五、〇〇五	英、米、獨等
フランネル	三、七四九、五九九	一、三六〇、〇三八	一、一八七、六五六	獨、英等
懷中時計	二、三七七、七六	二、九六〇、二二二	一、九〇一、八二三	瑞、米等

第十八 「ヨーク、アントワープ」規程 (The York and Antwerp Rules)

本規程ハ一八九〇年英國リヴァプール國際法協會ニ於テ修正決議シタルモノニシテ共同海損ニ關シ現今廣ク列國當事者間ニ稱用セラル、所ナリ

第一條 甲板積荷物ノ打荷

甲板積荷物ノ打荷ハ共同海損ニ依リ辨償セラレサルモノトス船舶ノ肋骨内ニ造設セラレサル構造ハ總テ之ヲ船舶甲板ノ一部ト看做スヘキモノトス

第二條 共同安全ノ爲メニ行ヒタル打荷并ニ犠牲ニ因リテ生シタル損害

共同安全ノ爲メニ行ヒタル犠牲又ハ其犠牲ノ結果ニ因リ或ハ又共同安全ノ爲メニ打荷ヲ

爲ス目的ヲ以テ穿チタル艙口若クハ其他ノ孔口ヨリ注入スル水ニ因リテ船舶及積荷ノ双方又ハ一方ニ生シタル損害ハ共同海損トシテ辨償セララルヘキモノトス

第三條 船内火災ノ消防

船内ノ火災ヲ消防センカ爲メ水或ハ其他ノ手段ニ因リテ船舶及積荷ノ双方又ハ一方ニ生シタル損害并ニ燃焼中ノ船舶ヲ淺瀬ヘ乗揚ケ又ハ之ニ穿孔シタルニ因リ生シタル損害ハ共同海損トシテ辨償セララルヘキモノトス但船舶及「バラ」積荷物ノ一部又ハ個々ノ荷物ニシテ既ニ火災ニ罹リタル損害ニ對シテハ辨償スヘキ限ニ在ラス

第四條 難破物ノ切除

難破物又ハ圓材其他ノ物件ニシテ海難ニ因リ既ニ取り去ラレタルモノ、殘部ヲ切除スル爲メニ生シタル喪失若クハ損害ハ共同海損トシテ辨償セラレサルモノトス

第五條 任意ノ擱座

船舶カ故意ニ海濱ニ乗揚ケタル場合ニ於テハ其事情カ若シ此手段ヲ執ルニ非サレハ船舶ハ遂ニ沈没シ又ハ海濱若クハ岩礁ニ押付ケラル、コトヲ免カレ難カリシモノナルトキト



雖モ右ノ如ク故意ニ海濱ニ乗揚ケタル爲メ船舶、荷物及運賃又ハ其ノ孰レカニ生シタル喪失若クハ損害ハ共同海損トシテ辨償セラレサルモノトス然レトモ以上ノ外船舶カ共同安全ノ爲メニ故意ニ海濱ニ乗揚ケタル總テノ場合ニ於テハ其結果タル喪失若クハ損害ハ共同海損タルヲ得ヘキモノトス

第六條 帆ノ全張一帆ノ損害若クハ喪失

共同安全ノ爲メ乗揚中ノ船舶ヲ引卸スコトニ因リ或ハ船舶ヲ一層高ク押上ケシムルコトニ因リ帆及圓材ノ双方又ハ一方ニ生シタル損害若クハ喪失ハ共同海損トシテ辨償セラレヘキモノトス然レトモ船舶ノ浮ヒ居ル場合ニ於テハ帆ヲ全張スルコトニ因リテ船舶、荷物及運賃又ハ其ノ孰レカニ生シタル喪失若クハ損害ハ共同海損トシテ辨償セラレサルモノトス

第七條 船舶ヲ浮キ上カラシメンカ爲メニ機關ニ生シタル損害

船舶カ乗揚ケ危險ニ迫リタル場合ニ於テ之ヲ浮キ上ラシムルコトヲ努ムル爲メニ其ノ汽機及汽鐘ニ生シタル損害ハ斯ノ如キ損害ヲ賭シテ共同安全ノ爲メニ其船舶ヲ浮キ上ケン

トスル眞實ノ目的ヨリ起リシモノナルコトヲ示シタルトキニ限り共同海損タルヲ得ヘキモノトス

第八條 乗揚ケタル船舶ヲ輕メル爲メノ費用並ニ之ニ因リテ生シタル損害

船舶カ乗揚ケ居ルトキ之ヲ浮キ上ケンカ爲メ荷物、燃料石炭及船用品又ハ其孰レカヲ卸シタル場合ニ於テハ船舶ヲ輕メル爲メノ臨時費用、舢舨雇料及再ヒ之ヲ船積スルノ費用(若シ之ヲ要シタルトキハ)並ニ是等ノ爲メニ生シタル喪失若クハ損害ハ共同海損ト認メラルヘキモノトス

第九條 燃料トシテ燃燒シタル荷物、船材及船用品

船舶カ危險ノ時ニ於テ共同安全ノ爲メ必要上燃料トシテ燃燒シタル荷物、船材及船用品又ハ其ノ孰レカハ最初十分ナル燃料ヲ備ヘ居タリシ場合ニ限り共同海損ト認メラルヘシ然レトモ其間ニ消費スヘカリシ石炭ノ見積高ヲ船舶ノ最後ノ出帆港ニ於ケル出帆當日ノ相場ニ依リテ計算シ之ヲ船主ノ負擔トシ共同海損ヨリ差引クヘキモノトス

第十條 避難港ニ於ケル諸費用



(甲) 船舶カ事變、犠牲又ハ其他非常ナル事情ノ結果トシテ共同安全ノ爲メニ避難ノ港若クハ場所ニ入りタルトキ又ハ荷積ノ港若クハ場所ニ引返シタルトキハ右ノ如キ港若クハ場所ニ入ルコトノ費用ハ共同海損ト認メラルヘキモノトス而シテ其船舶カ當初ノ荷物又ハ其一部ヲ以テ其ノ地ヲ出帆シタル場合ニ於テハ右ノ如キ入港又ハ歸港ノ結果トシテ右ノ港若クハ場所ヲ出帆スルコトニ就テノ費用モ亦均シク共同海損ト認メラルヘキモノトス

(乙) 船舶ヨリ荷物ヲ卸スコトノ費用ハ其ノ荷積、寄航又ハ避難ヲ爲シタル港若クハ場所タルトヲ問ハス共同安全ノ爲メ其荷卸カ必要ト爲リシ場合又ハ航海中ノ犠牲若クハ事變ニ因リテ船舶ニ生シタル損害ノ修繕カ航海ヲ安全ニ遂行スルニ付キ必要ト爲リ該修繕ニ着手スルカ爲メ其荷卸カ必要ト爲リシ場合ニハ共同海損トシテ認メラルヘキモノトス

(丙) 船舶ヨリ荷物ヲ卸スコトノ費用カ共同海損ト認メラタル場合ニハ右ノ荷物ヲ再ヒ船内ニ積入レ且ツ之ヲ保存スルコトノ費用ハ右ノ荷物ニ對スル總テノ藏敷料ト共ニ均シク共同海損ト認メラルヘキモノトス然レトモ其船舶カ不適航ト爲ルカ又ハ原航海ヲ繼續

セサル場合ニハ其不適航ト爲リタル日時又ハ其航海ヲ停止シタル日時以後ニ要シタル藏敷料ハ共同海損ト認メラレサルモノトス

(丁) 若シ海損ノ下ニ屬スル船舶カ其積載シタル全荷物ヲ運送シ得ヘキ様修繕ヲ爲シ得ヘキ港若クハ場所ニ在リ而シテ其費用ヲ省カンカ爲メニ同地ヨリ或ル他ノ修繕ヲ爲シ得ヘキ港若クハ場所又ハ其到達港ニ其船舶ヲ曳キ行キタルトキ又ハ荷物全部又ハ一部ヲ他船ニ積移シ又運送シタルトキ又ハ其他ノ手段ヲ以テ之ヲ送致シタルトキハ此ノ如キ曳船、移送及其他ノ送致ノ爲メニ又ハ其孰レカノ爲メニ要シタル臨時費用ハ之ニ因リテ省キ得ラレタル臨時費額ニ達スル迄ノ分ヲ限り其關係人ニ於テ各自カ省キ得タル臨時費額ノ割合ニ應シテ之ヲ分擔スヘキモノトス

#### 第十一條 避難港ニ於ケル船員ノ給料及食費

船舶カ第十條ニ掲ケタル事情ニ因リ又ハ修繕ノ目的ヲ以テ或港若クハ場所ニ入り又ハ繫留シタルトキハ其船舶ノ原航海ヲ繼續シ又ハ繼續シ得ラルトキニ至ル迄此ノ如キ港若クハ場所ニ臨時停船シタル期間内船長、士官并ニ海員ニ支給スヘキ給料ハ其食費ト共ニ



共同海損ト認メラルヘキモノトス然トレモ其船舶カ不適航ト爲ルカ又ハ原航海ヲ繼續セサル場合ニハ其不適航ト爲リタル日時又ハ其航海ヲ停止シタル日時以後ニ要シタル船長、士官并ニ海員ノ給料及食費ハ共同海損ト認メラレサルモノトス

第十二條 荷卸等ノ爲メニ生シタル荷物ノ損害

荷卸、倉入、再度ノ船積及積付ヲ爲ス爲メ自然荷物ニ生シタル損害若クハ喪失ハ是等ノ手段カ夫々共同海損ト認メラル、場合ニ限り共同海損トシテ辨償セラルヘキモノトス

第十三條 修繕費中ヨリノ控除

共同海損ニ關スル精算ヲ爲スニ當リ共同海損タルヲ得ヘキ修繕費ハ其中ヨリ「新舊交換」ノ理由ヲ以テ次ニ掲クル控除ヲ爲サルヘキモノトス

一、鐵船又ハ鋼船ノ場合ニ於テ

(甲)新造登録ノ日ヨリ遭難ノ日ニ至ル迄船齡一ケ年未滿ナルトキハ船底塗替費ヨリ三分ノ一ヲ控除スルノ外其他總テノ修繕費ハ全額ヲ計算ス

(乙)船齡一ケ年以上三ケ年未滿ナルトキハ船体ノ木造部、檣、圓材、器具、「アボルス」テ

リー」(寶具、窓掛敷物等)陶磁器、金屬及硝子製ノ物品修繕費又ハ取替費、并ニ帆、索具、綱、帆足、大索、針金製ノ綱索及鎖ヲ除ク)日覆、覆布及「ペンキ」塗代ニ對シテハ三分ノ一ヲ控除ス

針金製ノ索具、綱及大索、錨鎖、鎖、副汽機、汽用捲揚機及其附屬品、汽用起重機及其附屬品ニ對シテハ六分ノ一ヲ控除ス其他ノ修繕費ハ全額ヲ計算ス

(丙)船齡三ケ年以上六ケ年未滿ナルトキハ乙項同様ニ控除スヘシト雖モ檣及圓材ノ鐵製部並ニ機關(汽罐及其附屬品トモ)ニ對シテハ六分ノ一ヲ控除ス

(丁)船齡六ケ年以上十ケ年未滿ナルトキハ丙項同様ニ控除スヘシト雖モ檣及圓材ノ鐵製部、各機關(汽罐及其附屬品トモ)ノ修繕費又ハ取替費并ニ大索、綱、帆足及索具ニ對シテハ三分ノ一ヲ控除ス

(戊)船齡十ケ年以上十五ケ年未滿ナルトキハ總テノ修繕費又ハ取替費ニ對シテ三分ノ一ヲ控除ス但船体ノ鐵製部、「セメント」及錨鎖ニ對シテハ六分ノ一ヲ控除シ又錨ハ全額ヲ計算ス



(己) 船齡十五ヶ年以上ナルトキハ總テノ修繕費又ハ取替費ニ對シテ三分ノ一ヲ控除ス但  
 錨ハ全額ヲ計算シ錨鎖ニ對シテハ六分ノ一ヲ控除ス

(庚) 各船ヲ通シ總テ控除ヲ爲スニハ(食料品、需用品、汽機及汽鐘ニ關スルモノヲ除ク)  
 船舶ノ年齡ニ依リ整算スキモノニシテ其物カ適用セラレ居ル船舶局部ノ年齡ニ依ルヘキ  
 モノニ非ス船底塗替費ハ遭難前六ヶ月以内ニ船底ヲ塗替ヘタルモノニ非サレハ之ヲ共同  
 海損ニ入ルヘカラス又新規取替ヲ爲サスシテ修繕シタル舊材料并ニ實際使用セサリシ食  
 料品及需用品ニ對シテハ控除ヲ爲サス

二、木造船又ハ鐵骨木皮船ノ場合ニ於テ

遭難ノ當時新造登録ノ日ヨリ一ヶ年未滿ナルトキハ別ニ新舊交換ノ控除ヲ爲サス然レト  
 モ一ヶ年ヲ經過シタルトキハ次ノ例外ヲ除キ總テ三分ノ一ヲ控除ス

一、錨ハ全額ヲ計算シ錨鎖ハ唯六分ノ一ヲ控除ス

一、實際使用セサリシ食料品及需用品ニ對シテハ控除ヲ爲サス

一、船底張替費ハ其ノ剝キ去ラレタル金屬製覆板ノ總重量ニ均シキ重量ノ代價ヨリ古

金ノ賣上代ヲ差引キ外ニ控除ヲ爲サス但釘、毛紙、並ニ張替賃ニ對シテ三分ノ一ヲ  
 控除ス

三、一般ノ場合ニ於テ

船舶ノ種類ヲ問ハス一般ノ場合ニ於テ鐵製部ノ彎曲ヲ直ス費用ハ之ヲ取外シ且再ヒ取付  
 クル工費トモ全額ヲ計算ス

入渠料ハ入渠出渠ノ費用、車賃、起重機、足場及船渠ノ諸機械使用料トモ全額ヲ計算ス

第十四條 假修儀費

共同海損タルヲ得ヘキ損害ノ假修繕費中ヨリハ別ニ新舊交換ノ控除ヲ爲サ、ルモノトス

第十五條 運賃ノ損失

荷物ノ損害若クハ喪失ヨリ生シタル運賃ノ損失ハ共同海損ノ事故ニ因リ起リタル場合又  
 ハ荷物ノ損害若クハ喪失カ共同海損トシテ辨償セラルヘキ場合ニ於テハ均シク共同海損  
 トシテ辨償セラルヘキモノトス

第十六條 犠牲ノ爲メニ喪失若クハ損害ヲ受ケタル荷物ノ辨償額







津從天	川仁從	津ノ口從	潟新從	館函從	崎
牛	芝木	汕漢上	香直酒	釧根室青	芝上
			江		
莊	栗浦	頭口海	港津田	路室蘭森	栗海
三三〇	二四五 一九五	九一〇 一〇五〇 四七五	一六三〇 六二 六八	二〇一 二九〇 六九 五六	五四五 四六九
芝	釜長	新香	柴函	萩小岩江	浦
芝栗、牛莊間	山	嘉		ノ	元浦 山湖 釜元 山山 間間 潮
栗	外内 航航 路路 崎	坡港	棍館	濱樽内差	
一九八	四一四 三六〇 四四六	二八四三 一〇八七	二八八二 二四四	二六八 二〇四 一七〇 七八	七〇〇 三〇〇 三〇四

長從	司門從	戶神	地名	湮數
仁釜對	上基釜境口尾吳	柴香牛芝上門		
	ノノ			
川山島	海隆山 津道	棍港莊栗海司		
四四六 一六〇 一〇	五五〇 七五〇 二〇〇 一九〇 一八六 一三二 一二九	二二〇〇 一三三〇 九九六 八三〇 七九〇 二四〇		
香油牛	新香油牛天芝漢	ガシホ孟ラン キクヤノグ クトトル、買 リヤル、ン	地名	湮數
港頭莊	嘉 坡港頭莊津栗口			
一〇六九 九〇三 七二七	二二二八 一四〇〇 一〇二五 七五六 七七五 五九〇 一二二五	四、四六五 四、五二〇 三、六四五 五、三三三 三、八六二		











地	名	湮	數	地	名	湮	數
從	アカフルコ		一八八〇	從	パナマ		三、四〇〇
桑	グキクトリヤ		七〇〇	桑	グアルバライツ		五、二〇〇
港	ホノルル		二〇八〇	港			
從	横濱		八五〇〇	從	カナル		三、九〇〇
カ	ホノル		五、二〇〇	カ	タルマ		四、三〇〇
フ	バナルマ		一、三三〇	フ	アルバライツ		一、二九〇

第二十 海軍武官官階表

將	官	上	長	官	士	官
大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	大尉
						中尉
						少尉
機關總監	全	上	機關大監	機關中監	機關少監	大機關士
						中機關士
						少機關士
						船匠長
						軍樂長
						兵曹長
						少尉

准士官	下	士	准士官	下	士
軍醫總監	全	上	軍醫中監	軍醫少監	大軍醫
主計總監	全	上	主計中監	主計少監	大主計
造船總監	全	上	造船中監	造船少監	大造船
造兵總監	全	上	造兵中監	造兵少監	大造兵
軍醫中監			藥劑監	藥劑正	大藥劑士
主計中監			主計中監	主計少監	中主計
造船中監			造船中監	造船少監	中造船
造兵中監			造兵中監	造兵少監	中造兵
水路監			水路監	水路正	中水路
軍醫中監			藥劑監	藥劑正	中藥劑士
主計中監			主計中監	主計少監	中主計
造船中監			造船中監	造船少監	中造船
造兵中監			造兵中監	造兵少監	中造兵
水路監			水路監	水路正	中水路
曹機			曹機		曹機
關			關		關
長			長		長
少			少		少
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂			樂		樂
長			長		長
兵			兵		兵
曹			曹		曹
長			長		長
少			少		少
尉			尉		尉
船			船		船
匠			匠		匠
長			長		長
軍			軍		軍
樂					



(備 考)

海軍高等武官(士官以上)ハ實役停年最下期限ヲ超ユルニ非サレハ官階ヲ進ムコトヲ得ス而シテ實役停年最下期限ハ左ノ如シ

- 一、少尉及其ノ相當官ヨリ各其ノ上級ノ官ニ進ムハ實役停年一年
  - 二、中尉及其ノ相當官ヨリ各其ノ上級ノ官ニ進ムハ實役停年二年
  - 三、大尉及其ノ相當官ヨリ各其ノ上級ノ官ニ進ムハ實役停年五年
  - 四、小佐及其ノ相當官ヨリ各其ノ上級ノ官ニ進ムハ實役停年二年
  - 五、中佐及其ノ相當官ヨリ各其ノ上級ノ官ニ進ムハ實役停年二年
  - 六、大佐及其ノ相當官ヨリ各其ノ上級ノ官ニ進ムハ實役停年二年
  - 七、少將ヨリ中將ニ進ムハ實役停年三年
- 而シテ中將ノ大將ニ進ムハ歴戰者或ハ遠征ニ從事シタル者ニ就キ特旨ヲ以テ親任スルヲ例トス

### 第二十一 海軍卒職名等級表

一 等	一 等 水 兵	二 等	二 等 水 兵	三 等	三 等 水 兵	四 等	四 等 水 兵	五 等	五 等 水 兵
一 等	一 等 信 號 兵	二 等	二 等 信 號 兵	三 等	三 等 信 號 兵	四 等	四 等 信 號 兵	五 等	五 等 信 號 兵
一 等	一 等 軍 樂 生	二 等	二 等 軍 樂 生	三 等	三 等 軍 樂 生	四 等	四 等 軍 樂 生	五 等	五 等 軍 樂 生

一 等	一 等 機 關 兵	二 等	二 等 機 關 兵	三 等	三 等 機 關 兵	四 等	四 等 機 關 兵	五 等	五 等 機 關 兵
一 等	一 等 木 工	二 等	二 等 木 工	三 等	三 等 木 工	四 等	四 等 木 工	五 等	五 等 木 工
一 等	一 等 鍛 冶	二 等	二 等 鍛 冶	三 等	三 等 鍛 冶	四 等	四 等 鍛 冶	五 等	五 等 鍛 冶
一 等	一 等 看 護	二 等	二 等 看 護	三 等	三 等 看 護	四 等	四 等 看 護	五 等	五 等 看 護
一 等	一 等 主 厨	二 等	二 等 主 厨	三 等	三 等 主 厨	四 等	四 等 主 厨	五 等	五 等 主 厨

### 第二十二 海軍武官俸給及航海加俸表

○第一表 高等武官俸給表(年俸)

大 將	中將及 相當官	少將及 相當官	大佐及 相當官	中佐及 相當官	少佐及 相當官	大尉及 相當官	中尉及 相當官	少尉及 相當官	兵曹長、軍樂 長、船匠長、機 關兵曹長、看 護長、筆記長
六〇〇,〇〇〇圓	四〇〇,〇〇〇圓	三〇〇,〇〇〇圓	二四〇,〇〇〇圓	二〇〇,〇〇〇圓	一七〇,〇〇〇圓	一四〇,〇〇〇圓	一二〇,〇〇〇圓	一〇〇,〇〇〇圓	六五,〇〇〇圓
一 級	一 級	一 級	一 級	一 級	一 級	一 級	一 級	一 級	一 級
二 級	二 級	二 級	二 級	二 級	二 級	二 級	二 級	二 級	二 級
三 級	三 級	三 級	三 級	三 級	三 級	三 級	三 級	三 級	三 級
四 級	四 級	四 級	四 級	四 級	四 級	四 級	四 級	四 級	四 級
五 級	五 級	五 級	五 級	五 級	五 級	五 級	五 級	五 級	五 級
六 級	六 級	六 級	六 級	六 級	六 級	六 級	六 級	六 級	六 級
七 級	七 級	七 級	七 級	七 級	七 級	七 級	七 級	七 級	七 級
八 級	八 級	八 級	八 級	八 級	八 級	八 級	八 級	八 級	八 級
九 級	九 級	九 級	九 級	九 級	九 級	九 級	九 級	九 級	九 級
十 級	十 級	十 級	十 級	十 級	十 級	十 級	十 級	十 級	十 級

○第二表 准士官俸給表(年俸)

附 錄



一級	五四〇・二〇
二級	四七四・五〇
三級	四一六・一〇
四級	三五七・七〇
五級	二九五・三〇

○第三表 下士卒俸給表（日當）

甲額	一等下士			二等下士			三等下士			卒					
	一等級	二等級	三等級	一等級	二等級	三等級	一等卒	二等卒	三等卒	四等卒	五等卒				
乙額	四八	七〇	四一	三三	三三	三三	一九	二七	二五	一五	二二	一三	一一	八	五

○第四表 艦船航海加俸表

官別	職別	加俸日當額		加俸日當		加給				
		本邦沿岸	加俸日當額	領亞細亞露	支那朝鮮	東經九十度以東	西經七十度以東			
大將	艦隊司令長官	二・五〇	二・五〇	一・一〇	一・一五	四・四〇	五・〇〇	七・五〇	一〇・〇〇	八・八〇
中將	艦隊司令長官	二・一〇	二・一〇	一・一〇	一・一五	四・四〇	五・〇〇	七・五〇	一〇・〇〇	八・八〇

中將	少將	大佐	及相	當官	中佐	及相	當官	少佐	及相
艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官	艦隊司令官
二・〇〇	一・八〇	一・七〇	一・五〇	一・二〇	一・〇〇	〇・八五	〇・六五	〇・六〇	〇・五〇
一・〇〇	〇・九〇	〇・八五	〇・七五	〇・六〇	〇・五〇	〇・四三	〇・三三	〇・三〇	〇・二五
四・〇〇	三・六〇	三・四〇	三・〇〇	二・四〇	二・〇〇	一・七〇	一・三〇	一・一〇	一・〇〇
六・〇〇	五・四〇	五・一〇	四・五〇	三・六〇	三・〇〇	二・五五	一・九五	一・八〇	一・五〇
八・〇〇	七・二〇	六・八〇	六・〇〇	四・八〇	四・〇〇	三・五〇	二・七〇	二・五〇	二・〇〇







○第六表 水雷艇航海加俸表

官 職 別	加俸日當額	加 俸 日 當 加 給 額	
		支那、朝鮮 亞細亞露領沿岸	東經九十度以東 西經百四十度以西 北緯六十度以南 南緯三十四度以北
中 佐 司 令	九〇	四三	二・七〇
少 佐 司 令	八五	四〇	二・五五
中 佐 相 當 官	八〇	三三	二・四〇
少 佐 相 當 官	七〇	三〇	二・二五
大 尉 相 當 官	五〇	二五	二・一〇
大 尉 及 相 當 官	四〇	二〇	一・九〇
中 少 尉 及 相 當 官	三〇	一五	一・七〇
候 補 生 及 准 士 官	一〇	一〇	一・五〇
卒 下 士	六	三	一・三〇

大西洋亞米利加洲沿岸ハ第五欄ノ加給額ヲ給ス  
司令若ハ艇長ニシテ定員表中ノ下級者ヲ以テ補シタルトキハ上級者ノ加俸額ヲ給ス

(備考)

海軍々人俸給令抄出

第二條 候補生ノ俸給ハ一日八十錢トス

第三條 准士官以上ニ待命ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ八ヲ給シ休職ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ六ヲ給シ停職ヲ命シタルトキハ俸職十分ノ三ヲ給ス

第五條 准士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ上官ノ最下給俸十分ノ一ヲ加給ス

下士ニ准士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ准士官最下級俸十分ノ一ヲ加給ス

第六條 在役軍艦ノ定員及乗組候補生ニハ第四表若ハ第五表ニ依リ航海加俸ヲ給

シ在役水雷艇ノ乗組員ニハ第六表ニ依リ航海加俸ヲ給ス豫備軍艦若ハ豫備水雷艇ニ航行ヲ命シタルトキ若ハ豫備水雷艇ニ定員全乗ヲ命シタルトキ亦同シ

前項ノ軍艦若ハ水雷艇ニシテ本邦沿岸中北緯四十四度以北又ハ北緯二十六度以南ニ航行スルトキ給スル航海加俸ハ第四表乃至第六表第一欄ノ航海加俸ニ第二



表ノ加俸額ヲ併セタルモノトス

第七條 軍艦若ハ水雷艇ノ定員ニ非サルモ演習ノ場合ニ於テ特ニ乗組ヲ命シタル

トキハ其ノ官職相當ノ航海加俸ヲ給ス但シ指揮官トシテ乗組ム者ノ航海加俸ハ

第四表及第六表ノ範圍内ニ於テ海軍大臣之ヲ定ム

第八條 准士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ其ノ官職相當ノ航海加俸

ヲ給シ下士ニ准士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ准士官相當ノ航海加俸ヲ給ス

第九條 官有船舶若ハ官ニテ借入雇入タル船舶ノ運轉及其他ノ職務ニ服スル爲メ

乗組ヲ命シタル者ニハ第六條ニ準シ航海加俸ヲ給ス但シ旅費ヲ支給シテ乗組ヲ

命シタル場合ニハ航海加俸ヲ給セス

第十條 下士卒ニシテ左ニ掲クル一ニ該ルトキハ各其ノ有効期間一日五錢以内ノ

加俸ヲ給ス但シ同技術ノ證書證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ之ヲ給ス

一 善行章ヲ有スル者

二 教員ノ職ヲ奉スル者

三 信號適任證書ヲ有スル者

四 救命ヲ以テ定メタル特殊ノ技術證書若ハ證狀ヲ有スル者

前項ノ加俸細別ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十一條 士官以上ニシテ他職ヲ兼務シタルトキ其ノ航海加俸ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十六條 准士官以上及候補生ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ間俸給十分ノ五ヲ給ス

但シ停職ニ在ル者ニハ停職中ノ俸給額ヲ給ス

第十七條 下士卒ニシテ入院若ハ陸地療養ノ者若ハ陸上勤務外宿又ハ公務出張中

傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ一週日以上缺勤スル者ハ其ノ間俸給十分ノ四ヲ給ス

但シ公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ若ハ外國出張中ニ在ルト

キハ其ノ全額ヲ給ス

第二十一條 准士官以上候補生及下士卒通信不便ノ地ニ勤務中又ハ艦船ノ乗員航



海中ハ其ノ俸給三分ノ二以内ヲ其ノ家族ニ下渡スコトヲ得

第二十三 世界軍艦表

(甲) 一八九九年英國「ブラッセル」海軍年鑑ニ據ル

種別	戰艦			巡洋艦			海防艦	水雷砲艦	總計
	一等	二等	三等	一等	二等	三等			
英	24	127	213	13	107	133	13	34	285
佛	3	10	10	1	11	11	1	2	38
露	1	1	1	1	1	1	1	1	7
獨	1	1	1	1	1	1	1	1	7
米	1	1	1	1	1	1	1	1	7
伊	1	1	1	1	1	1	1	1	7
日本	1	1	1	1	1	1	1	1	7

種別	戰艦			巡洋艦			海防艦	水雷砲艦	總計
	一等	二等	三等	一等	二等	三等			
英	24	127	213	13	107	133	13	34	285
佛	3	10	10	1	11	11	1	2	38
露	1	1	1	1	1	1	1	1	7
獨	1	1	1	1	1	1	1	1	7
米	1	1	1	1	1	1	1	1	7
伊	1	1	1	1	1	1	1	1	7
日本	1	1	1	1	1	1	1	1	7

(備考) 括弧内ノ數字ハ製造中ノ艦艇ノ數ヲ示ス (乙) 一八九九年英國海軍本部ノ調査ニ據ル

種別	戰艦	裝甲巡洋艦	防護巡洋艦
英	24	127	213
佛	3	10	10
露	1	1	1
獨	1	1	1
米	1	1	1
伊	1	1	1
日本	1	1	1



艦種	英	佛	露	獨	伊	米	日
無防護巡洋艦	15隻	14隻	1隻	1隻	1隻	1隻	1隻
裝甲海防艦	3隻	1隻	3隻	2隻	1隻	1隻	1隻
特務艦	3隻	1隻	1隻	1隻	1隻	1隻	1隻
計	21隻	16隻	5隻	5隻	5隻	5隻	5隻
水雷砲艦	24隻	23隻	27隻	28隻	27隻	27隻	27隻
水雷驅逐艦	35隻	25隻	27隻	28隻	27隻	27隻	27隻
水雷艇	38隻	23隻	27隻	28隻	27隻	27隻	27隻
潛行水雷艇	37隻	23隻	27隻	28隻	27隻	27隻	27隻
計	132隻	92隻	108隻	112隻	112隻	112隻	112隻

(備考) 括弧内ノ数字ハ目下製造中ノモノヲ示ス

第二十四 列國東洋派遣艦隊表 (明治三十一年未調)

○英國

艦名	種類	排水噸數	速力	乘組員	進水年
ダフ	一等戰闘艦	14900	17.5	757	1897
フ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ア	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ブ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ウ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
イ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ハ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ホ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ロ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
オ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ア	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
エ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
バ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
セ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ザ	一等戰闘艦	10500	18.5	633	1893
ナ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
ニ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
ホ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
ロ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
オ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
ア	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
エ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
バ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
セ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
ザ	二等巡洋艦	5600	18.1	484	1888
ナ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
ニ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
ホ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
ロ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
オ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
ア	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
エ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
バ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
セ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
ザ	三等巡洋艦	3600	19.75	312	1893
ナ	報知艦	2700	17.0	238	1885
ニ	報知艦	2700	17.0	238	1885
ホ	報知艦	2700	17.0	238	1885
ロ	報知艦	2700	17.0	238	1885
オ	報知艦	2700	17.0	238	1885
ア	報知艦	2700	17.0	238	1885
エ	報知艦	2700	17.0	238	1885
バ	報知艦	2700	17.0	238	1885
セ	報知艦	2700	17.0	238	1885
ザ	報知艦	2700	17.0	238	1885
ナ	砲艦	1400	14.0	106	1895
ニ	砲艦	1400	14.0	106	1895
ホ	砲艦	1400	14.0	106	1895
ロ	砲艦	1400	14.0	106	1895
オ	砲艦	1400	14.0	106	1895
ア	砲艦	1400	14.0	106	1895
エ	砲艦	1400	14.0	106	1895
バ	砲艦	1400	14.0	106	1895
セ	砲艦	1400	14.0	106	1895
ザ	砲艦	1400	14.0	106	1895



艦名	種類	排水噸數	速力	乗組員	進水年
アルジェリン	砲艦	一〇五〇	一三・〇	一〇六	一八九五
スウェーデン	同	八〇五	一三・〇	七六	一八八八
リッチ	同	七五六	一一・八	九二	一八七九
ビロン	同	七五六	一一・八	九二	一八八〇
ピグ	同	七五六	一一・五	七六	一八八八
プログ	同	七五五	一一・五	七六	一八八八
ラット	同	四五五	一三・六	七六	一八八六
フアイヤブラント	同	四五五	一〇・二	六一	一八七七
エッセ	同	三七三		五〇	
ツウ	同	三七三		五〇	
合計	二隻	八八〇六九噸		六、四〇六人	

其他小砲艦四隻、特務艦三隻、水雷驅逐艇四隻アリ

○露國

艦名	種類	排水噸數	速力	乗組員	進水年
ロシア	裝甲巡洋艦	一三、三〇〇	二〇・〇	七三五	一八九六
ナワリ	同	一〇、九三三	一八・〇	七六八	一八九四
シウキ	二等戰鬥艦	一〇、二〇六	一六・〇	六三〇	一八九一
バミヤ	同	八、八八〇	一六・〇	五五〇	一八九一
ウラジミール	裝甲巡洋艦	六、六七五	一八・八	五二五	一八八八
ヂミトリ	同	六、〇六一	一五・二	五五〇	一八八二
アドミラル	二等巡洋艦	五、八八二	一六・五	五〇	一八八三
オトワズ	裝甲砲艦	一、五〇〇	一七・五	四二五	一八八七
グレン	同	一、五〇〇	一七・五	四二五	一八九二
マシヤ	砲艦	一、四一六	一五・〇	一四二	一八九三
コシ	同	一、四一六	一五・〇	一四二	一八九三
ボウ	同	一、三三四	一四・〇	一四二	一八九三
ガイ	水雷砲艦	九五〇	一一・五	八七	一八八六
ボウ	同	九五〇	一一・五	八七	一八八六
シウ	同	九五〇	一一・五	八七	一八八四
ボウ	同	九五〇	一一・五	八七	一八八四
ガイ	水雷砲艦	五〇〇	三・〇	八七	一八九三



艦名	種類	排水噸數	速力	進組員	隻水年
ウサドニツク	水雷砲艦	四六二	二三・〇	八七	一八九三
合計		七五、四八二噸		五、五七六	

其他小砲艦二隻

○米國

艦名	種類	排水噸數	速力	乘組員	進水年
オレコン	一等戰艦	一〇、二八八	一六・七	四七三	一八九三
バルチモア	巡洋艦	四、四一三	二〇・一	三六八	一八八八
ヨセミット	巡洋艦	六、一七九	一六・〇	二八五	一八九二
モナドノック	海防艦	四、〇八四	一三・六	一九五	一八九一
ベニントン	砲艦	三、九九〇	一二・〇	一八三	一八九三
ヨークタウンドン	砲艦	一、七一〇	一七・五	一九五	一八九〇
コンコルド	砲艦	一、七一〇	一六・一	一九五	一八八八
合計		二七、一〇〇噸	一六・八	一、九四	一八九〇

○獨國

其他特務艦四隻及小砲艦十一隻

艦名	種類	排水噸數	速力	乘組員	進水年
ドイチュランド	三等戰艦	七、三一九	一四・五	六六八	一八七四

艦名	種類	排水噸數	速力	乘組員	進水年
ヘレナ	同	一、三九七	一五・五	二五六	一八八六
モカシ	同	一、三七〇	一六・〇	二〇〇	一八九二
カスチー	三等巡洋艦	一、一三七	一四・〇	一五二	一八八六
ドン、ジュアン、ド、オーストリア	砲艦	一、一三〇	一四・〇	一三〇	一八八六
マニラ	同	一、〇五七	一六・〇	一六〇	一八八七
イスラ、ド、クバ	同	一、〇三〇	一六・〇	一六〇	一八八七
イスラ、ド、ルゲン	同	一、〇三〇	一六・〇	一六〇	一八八七
ホーリリグ	同	一、〇〇〇	一二・九	一四〇	一八九七
プリンスト	同	一、〇〇〇	一二・〇	一三五	一八九七
ペトリ	同	八九二	一一・八	一三三	一八八八
ザフール	報知艦	四、一〇噸		三五〇人	
合計		一、九〇噸			



艦名	種類	排水噸數	速力	乗組員	進水年
カイ、ゼリン、オーグスタ	一等巡洋艦	六三三	二三・五	四二七	一八九二
ハ、ン	同	五九〇	一九・〇	四四〇	一八九八
ヘ、ル、ン	二等巡洋艦	五六五〇	二〇・〇	四四〇	一八九七
イ、ル、ネ	同	四、四〇〇	一九・八	三五八	一八八七
ゲ、フ、オ	同	四、二〇七	二〇・〇	三二二	一八九三
イ、フ、オ	同	八九五	一三・五	一〇〇	一八九八
ヤ、グ、ル	同	八九五	一三・五	一〇〇	一八九八
合計	八隻	三五、五九七噸	一三・五	二、八四五人	一八九八

○佛國

艦名	種類	排水噸數	速力	乗組員	進水年
ダン、トル、カ、ス、ト	一等巡洋艦	八二四	一九・三	五二二	一八九六
ザ、ハ、ン、バ、ー、ン	裝甲巡洋艦	六、二〇八	一四・三	四四〇	一八八二
シ、ヤ、ン、バ、ー、ン	二等巡洋艦	四、一〇九	一九・〇	三三三	一八八九

○伊國

艦名	種類	排水噸數	速力	乗組員	進水年
バ、カ、ス、カ	同	四、〇一五	二〇・〇	三七八	一八九五
デ、カ、ル	同	三、九九〇	二二・〇	三八六	一八九四
エ、ラ、イ、ル	砲艦	一、七六九	一五・〇	一九五	一八七七
ケ、ラ、サ、ン	同	一、二四三	一五・〇	一一〇	一八九七
サ、ラ、イ、ス	同	六二七	一三・四	九九	一八九五
リ、オ、ビ、ッ	同	五〇三	一一・八	八四	一八八四
ア、ス、ク	同	四七六	一〇・三	八〇	一八八〇
合計	一〇隻	三三、〇五四噸	一〇・三	二、六二五人	一八八〇

艦名	種類	排水噸數	速力	乗組員	進水年
カ、ル、ロ、ア、ル	裝甲巡洋艦	六五〇〇	二〇・〇	四六〇	一八九六
マ、コ、ボ	同	四、五八三	一九・〇	三一五	一八九〇
エ、ト	三等巡洋艦	三、五三〇	一七・八	三一五	一八八五
エ、モ、ル	同	二、七三〇	一七・九	二五七	一八八五
ユ、モ、ル	同	二、五〇〇	二二・〇	二九六	一八九三
リ、ギ、ユ	同	二、一八〇	二二・〇	二五七	一八八八
合計	六隻	二二、一三三噸	二二・〇	一、九〇〇人	一八九三



第二十五 列國代用巡洋艦表

○英國

一、海軍補助金ヲ受ケ青色旗ヲ掲ケ得ルモノ

船主	船名	長	巾	吃水	總噸數	航速	進水年	記事
「キエーナード」會社	Campagna.	六〇・〇	六五・〇	二六・〇	一三、九五〇	二三・	一八九三	
	Lucania.	六〇・〇	六五・〇	二六・〇	一三、九五〇	二三・	一八九三	
	Himalaya.	四六・五	五一・〇	二三・六	六、八九八	一八・	一八九二	
	Austraria	四六・五	五一・〇	二三・六	六、九〇一	一八・	一八九二	
	Victoria.	四六・六	五一・〇	二三・六	六、五二七	一七・五	一八九七	
	Arcadia.	四六・六	五一・〇	二三・六	六、六〇三	一七・五	一八九八	
	Oceanic.	七〇・五	六八・〇	四九・〇	一七、〇〇〇	二二・	一八九九	
	Majestic.	五六・五	五八・〇	二四・六	九、九六五	二〇・	一八九九	
	Tenonic.	五六・五	五八・〇	二四・六	九、九八四	二〇・	一八九九	
	Empress of Japan.	四四・〇	五一・〇	二四・六	五、九〇五	一六・五	一八九一	
Empress of India.	四四・〇	五一・〇	二四・六	五、九〇五	一六・五	一八九一		

同	Empress of China.	四四・〇	五一・〇	二四・六	五、九〇五	一三・〇	一八九一	
小計	一二隻	—	—	—	一〇七、四九八	—	—	

二、海軍補助金ヲ受ケスシテ海軍本部ノ管下ニ屬スルモノ

船名	船名	長	巾	吃水	總噸數	航速	進水年	記事
「キエーナード」會社	Umbria.	五〇・五	五七・〇	二六・〇	八、二一八	二〇・〇	一八九四	
	Etruria.	五〇・六	五七・〇	二六・〇	八、二一〇	二〇・〇	一八九四	
	Servia.	五一・〇	五三・〇	二六・〇	七、三九二	一六・五	一八一	
	Aurania.	四七・〇	五七・〇	二七・〇	七、二六九	一七・〇	一八八三	
	Gallia.	四三・〇	四四・六	二四・〇	四、八〇九	一五・五	—	
	Germanic.	四三・〇	四三・〇	二五・〇	五、〇〇八	一七・〇	一八七四	
	Britanic.	四三・〇	四三・〇	二五・〇	五、〇〇四	一六・〇	一八七四	
	Adriatic.	四三・〇	四〇・六	二三・〇	三、八八八	一五・〇	一八七一	
	Oceana.	四六・〇	五三・〇	二三・六	六、一八八	一七・五	一八八八	
	Britania.	四六・〇	五三・〇	二三・六	六、〇六一	一七・五	一八八七	
Rome.	四三・〇	四四・六	二三・六	五、五四五	一六・〇	一八八一		



船名	船名	長	巾	吃水	總噸數	航速	洋力	進水年	記事
[S. O.] 會社	Peninsular.	四一〇・六	四八〇	三三・六	五,〇〇〇	一七・〇	一八八八		
同	Oriental.	四一〇・六	四八〇	三三・六	五,〇〇〇	一七・〇	一八八九		
同	Valetta.	四一〇・六	四五〇	三三・六	四,九〇四	一四・五	一八八三		
同	Carthage.	四三〇・〇	四四・五	三三・六	四,八七九	一五・〇	一八八一		
同	Paramatta.	四三〇・〇	四三〇	三三・六	四,七五九	一四・五	一八八二		
同	Ballarat.	四三〇・〇	四三〇	三三・六	四,七四八	一四・五	一八八二		
同	Massilia.	四二〇・六	四五〇	三三・六	四,九〇二	一五・〇	一八八四		
小計					一〇一,六〇一				
合計					二〇九,〇九九				

(備考)

前表中(一)ニ示ス諸船ハ平素船長以下乗組員ノ半數ハ海軍豫備員ヲ以テ充テ戰時又ハ事變ノ際ハ五吋及十四吋速射砲各十二門ヲ裝載スヘシ  
 前表ノ外英國海軍艦船名簿中ニハ構造上ニツキ海軍規定ノ條件ニ適合スル商船多數ヲ登錄ス是等ハ皆武裝ヲ施スニ適シ別ニ政府ト船主トノ關係ヲ規定セサルモ事變ノ際公務ニ徵用スヘキ約束アリ  
 又英國商船ニシテ海軍退職將校若クハ海軍豫備員士官ヲ船長トシ且ツ乗組員ノ内海軍豫備員ニ屬スル士官水夫ヲ合セ十名以上アルモノハ海軍本部ノ免狀ヲ得テ青色旗ヲ掲ケルコトヲ得此種ノ船舶ハ常ニ五六十隻アリ

○露 國

一、義勇艦隊所有

船名	長	巾	吃水	排水噸數	航速	洋力	進水年	記事
Moskva.	五〇八・〇	五八〇	二五・〇	一七,七〇〇	二〇・〇	一九〇〇	一八九八年	
Kherson.	四九三・〇	五四三	二四・〇	一〇,三三三	一九・五	一九〇五	一八九五年	
Poltava.	四九三・〇	五四三	二四・〇	六,〇〇〇	一九・五	一九〇五	建造中	
Kiev.	四四〇・〇	四九・六	二四・〇	一〇,五〇〇	二二・五	一九〇五	一八九五年	
Vladimir	四四〇・〇	四九・六	二四・〇	一〇,五〇〇	二二・五	一九〇五	一八九五年	
Voronej.	四四〇・〇	四九・六	二四・〇	一〇,五〇〇	二二・五	一九〇五	一八九五年	
Ekaterinoslav.	四四〇・〇	四九・六	二四・〇	一〇,五〇〇	二二・五	一九〇五	一八九五年	
Petersburg.	四六〇・〇	五二〇	二四・〇	九,五〇〇	一九・〇	一九〇〇	一八九四年	
Saratoff.	四六二・〇	五〇〇	二四・〇	八,七五〇	一九・〇	一九〇〇	一八九二年	
Orel.	四四五・〇	四八〇	二三・六	七,九九〇	一九・〇	一九〇〇	一八九九年	



船名	長	巾	吃水	總排水噸數	航速	洋力	進水年	記事
Tanloft.	三八五〇	四五〇	二四・六	八、六四〇		二・五	一八九三年	
Yaroslav.	三八五〇	四五〇	二四・六	八、六四〇		二・五	一八九三年	
Kostrona.	三六〇〇	四二〇	二三・六	七、九七五		二・三	一八八八年	
Nijni Aovgorod.	三三三〇	四〇〇	二三・六	七、八七六		二・五	一八九一年	
Khabarovsk.	二六五〇	三六〇	一四・六	二、七〇〇		二・五	一八九四年	
小計	一五隻			三三、三三三				

二、黑海汽船貿易會社所有

船名	長	巾	吃水	總數	速力	洋力	進水年	記事
Grand Duke Constantine.	二八四〇	三七〇	一五・〇	二、四〇〇		二・三	一八九一年	
Grand Duke No. 1.	二八八〇	三七〇	一五・〇	二、四〇〇		二・三	建造中	
Grand Duke No. 2.	二八八〇	三七〇	一五・〇	二、四〇〇		二・三	同	
Emperor Nicolas II.	二八八〇	三七〇	一五・〇	二、四〇〇		二・三	一八九五年	

Grand Duke Arexis.	二八四〇	三七〇	一四・九	二、三三〇		二・三	一八九〇	
Czar.	三一九〇	三三〇	二二・六	二、三三〇		二・三	一八八三年	
Czarevna.	三一九〇	三三〇	二二・六	二、三三〇		二・三	一八八三年	
Czaritzn.	三一九〇	三三〇	二二・六	二、三三〇		二・三	一八八三年	
Roumantzeff.	二二二〇	二八〇	七・六	七六〇		二・三	一八九四年	
小計	九隻			一七、三三〇				
合計	二四隻			九〇、一五〇				

(備考)

義勇艦隊「ホルソン」及「モスクワ」ノ如キ重ナル汽船ハ大小速射砲二十三門(十二珊三門、七十五密十門、四十七密八門)ヲ裝載スヘシ  
義勇艦隊ニ於テハ日下排水量一萬噸餘ノ汽船三隻新造中

○佛國

船主	船名	長	巾	吃水	總噸數	航速	進水年	記事
大西洋航海會社	La Touraine.	五三〇 <small>呎</small>	五三〇	三四・六	八、八九三	一九・	一八九〇	
同	La Gascogne.	四九五・四	五二・二	三四・八	七、三九五	一七・五	一八八六年	



船主	船名	長	巾	吃水	總噸數	航速	進水年	記事
同	La Bretagne.	四九.四	五一.八	三四.五	七二.二	一七.五	一八八六	
同	La Champagne.	四九.三	五一.八	三四.五	七〇.八	一七.五	一八八五	
同	La Navarre.	四九.〇	五〇.五	三四.四	六六.四	一七.	一八九二	
同	Armand Béhic.	四八.六	五〇.一	三四.八	六四.六	一七.五	一八九二	
同	La Normandie.	四九.三	四九.二	三四.一	六二.八	一六.	一八八二	
同	Versailles.	四九.七	四九.三	三四.〇	四三.三	一五.	一八八二	
同	General Chanzy.	四九.二	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九一	
同	Ville d'Alger.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Marécha Bugeaud.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Duc de Bragance.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Eugène Pereire.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Ville de Tunis.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Ville de Naples.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Ville de Madrid.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	Moise.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	
同	St. Augustine.	四九.一	三五.七	三四.〇	四三.九	一七.五	一八九〇	

船主	船名	長	巾	吃水	總噸數	航速	進水年	記事
小計	Polynésien.	四八.三	四九.二	三四.一	六五.〇	一七.五	一八九〇	
同	Ville de la Clotat.	四八.八	四九.九	三四.八	六四.六	一七.五	一八九二	
同	Australien.	四八.三	四九.二	三四.一	六四.二	一七.五	一八九九	
同	Cordillere.	四六.六	四七.六	三六.一	六三.七	一六.五	一八九五	
同	Chili.	四六.六	四七.六	三六.七	六二.七	一六.五	一八九四	
同	Indus.	四六.二	五〇.八	三六.一	六三.五	一七.〇	一八九七	
同	Bresil.	四六.三	四六.四	三三.五	五八.七	一六.五	一八九九	
同	La Plata.	四六.六	四五.九	三三.五	五八.〇	一六.五	一八九九	
同	Ernest Simons.	四四.九	四七.一	三六.七	四九.五	一七.〇	一八九三	
合計					七四.五			
小計					七四.五			
合計					一三六.三			

(備考)

表中重ナル汽船ハ戰時又ハ事變ノ際十四番砲七門及三十七密砲八門ヲ裝載シ又海軍大尉一、少尉二、砲手一、九、小銃兵八、普通水兵四〇人ヲ乗組マシムヘシ

○獨 國

附 錄



船主	船名	長	巾	吃水	排水噸數	航速	進水年	記事
漢堡亞米利加會社	First Bismark.	五〇三〇	五七・六	三三・三	一〇、五〇〇	一九・五	一八九一	
	Augusta Victoria.	四五九・三	五六・〇	三三・〇	九、五〇〇	一八・〇	一八八九	
小計	一二隻				二〇、〇〇〇			
	北獨「ロイヤル」會社	六二五・〇	六六・〇	二七・〇	一四、三五〇	二二・五	一八九七	
同	Kaiser Wilhelm der Grosse.	五八〇・九	六三・一	二七・〇	一七、〇〇〇	二二・〇	一八九七	
	Kaiser Friedrich III.	四六二・六	五二・一	三三・〇	一七、〇〇〇	一九・〇	一八九〇	
	Spee.	四四九・六	四九・〇	三三・〇	六、八九〇	一八・五	一八八七	
	Lahn.	四三六・六	四八・〇	二七・〇	四、九六五	一六・〇	一八八五	
	Aller.	四三六・六	四八・〇	二七・〇	四、九六五	一六・〇	一八八五	
	Sule.	四三六・六	四八・〇	二七・〇	四、九六五	一六・〇	一八八五	
	Trave.	四三六・六	四八・〇	二七・〇	四、九六五	一六・〇	一八八五	
小計	七隻				七四、六〇〇			
合計	九隻				八四、三二五			

(備考)

乗組員ノ過半ハ海軍豫備軍人ニシテ重ナル汽船ハ戰時又ハ事變ノ際大小速射砲十六門(十五冊八門、十二冊四門、八冊二門及五冊二門)及機關砲十四門并ニ小水雷艇(二十二噸)二隻ヲ搭載スヘシ

○伊國

船主	船名	長	巾	深	總噸數	航速	進水年	記事
「ラウエロチエ會社」	Nord America.	四一八・六	五〇・〇	三〇・八	四、八二六	一六・五	一八八二	
	Duca de Galliera.	四〇〇・〇	四四・〇	三一・六	四、三〇四	一四・五	一八八三	
	Duchessa de Genova.	四〇〇・〇	四四・〇	三一・六	四、三〇四	一四・五	一八八四	
	Victoria.	四〇〇・〇	四四・〇	三一・六	四、三〇四	一四・五	一八八三	
	Regina Margherita.	三九六・〇	四二・〇	二八・三	三、五七七	一七・〇	一八八四	
「ナビガシヨ子」會社	Candia.	二四八・〇	二七・九	二六・一	一、二四六	一四・〇	一八六二	
	Eletrico.	二六〇・〇	三三・〇	二二・八	一、二九五	一五・〇	一八八七	
	Malta.	二五〇・五	二七・八	一九・六	一、〇二〇	一四・〇	一八六三	
合計	八隻				二四、六六八			

(備考)

表中ノ汽船ハ十二冊速射砲二門、三冊速射砲四門及機關砲七門ヲ裝載スルヲ得ヘシ

○合衆國

一、大西洋海岸ニ在ルモノ



船主	等級	船名	長	巾	深	總噸數	航洋力	進水年	記事
「イヌター子シヨナル」航海會社	一等	St. Louis.	五三・五	六三・〇	二六・八	一一六・二九	二二・	一八九五	
	同	St. Paul.	五三・五	六三・〇	二六・八	一一六・二九	二二・	一八九五	
	同	New York.	五一・〇	六三・三	二六・〇	一〇六・〇三	二〇・	一八八八	
	同	Paris.	五一・〇	六三・三	二六・〇	一〇七・九四	二〇・	一八八九	
	三等	City of Para.	三四・〇	三八・六	一九・九	三三・三三	一一・	一八七八	
	同	Newport.	三三・〇	三八・二	一九・九	三三・三三	一一・	一八八〇	
	同	Venezuela.	三〇・六	四〇・二	二〇・五	二八・四三	一一・	一八八九	
	同	Caracas.	二八・六	四〇・二	二〇・五	二八・四三	一一・	一八八九	
	同	Philadelphia.	三〇・〇	三五・〇	二〇・六	二五・一〇	一一・	一八八五	
	同	Vigilancia.	三三・八	四五・二	二六・五	四一・一五	一四・	一八九〇	
	同	Seguranga.	三三・三	四五・三	二七・四	四〇・三三	一四・	一八九〇	
	同	Yucatan.	三三・七	四三・三	二五・三	三五・二五	一四・	一八九〇	
	同	Oriyaba.	三三・三	四三・三	二五・〇	三四・九七	一四・	一八九九	
	同	Yumuri.	三三・三	四三・三	二五・〇	三四・九七	一四・	一八九九	
	同	Saratoga.	二九・八	三八・六	二三・五	二八・二〇	一四・	一八七六	
同	Seneca.	二七・五	四〇・〇	二六・四	二七・二九	一四・	一八八四		

「ギニーバ」會社	三等	City of Washington.	三〇・五	三八・四	一九・二	二六・八四	一五・	一八七七	
	同	Alliance.	三〇・〇	四二・〇	二五・〇	二九・八五	一四・	一八八六	
	同	Advance.	二九・五	三八・〇	二三・四	二六・〇五	一五・	一八八三	
小計		一九隻			九一・五五九				

二、太平洋海岸ニ在ルモノ

船主	等級	船名	長	巾	深	總噸數	航洋力	進水年	記事
「ビー・エム」會社	三等	City of Peking.	四〇・〇	四七・〇	一九・五	五〇・七九	一四・	一八七四	
	同	City of Rio de Janeiro.	三四・五	三八・六	一九・九	三五・四八	一四・	一八七八	
	同	Peru.	三三・〇	四五・九	二七・六	三五・二八	一四・	一八九二	
	同	City of Sydney.	三三・〇	四〇・二	二〇・五	三〇・一七	一三・	一八七五	
	四等	Colon.	二八・〇	四〇・〇	二八・六	二六・八六	一三・	一八七二	
	同	Acapulco.	二九・〇	四〇・〇	二〇・〇	二五・七二	一三・	一八七三	
	同	San Jose.	二八・三	三七・〇	二一・〇	二〇・八一	一三・	一八八二	
	同	San Juan.	二八・三	三七・〇	二一・〇	二〇・七六	一三・	一八八二	
	同	San Blas.	二八・三	三七・〇	二一・〇	二〇・七五	一三・	一八八二	